

新しい時代を見据えた魅力ある商業教育の推進を目指して
－ 1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例－

令和6年10月

全国商業高等学校長協会

目 次

はじめに	1
1 人 1 台端末を活用した多様な連携活動の実践事例	
1 基礎的科目	
福島県 福島県立小名浜海星高等学校【R 5:ビジネス基礎、課題研究、課題研究】 【R 6:総探、マーケティング、ネットワーク活用】	2
岐阜県 岐阜県立岐阜商業高等学校【ビジネス基礎】	3
鹿児島県 鹿児島県立山川高等学校【ビジネス基礎】	4
香川県 香川県立坂出商業高等学校【ビジネス・コミュニケーション、マーケティング】	5
2 総合的科目	
北海道 北海道函館商業高等学校【課題研究】	6
青森県 青森県立弘前実業高等学校【課題研究】	7
岩手県 岩手県立盛岡商業高等学校【課題研究】	8
山形県 山形市立商業高等学校【課題研究】	9
茨城県 茨城県立古河第一高等学校【課題研究】	10
栃木県 栃木県立足利清風高等学校【課題研究】	11
群馬県 群馬県立前橋商業高等学校【課題研究】	12
千葉県 千葉県立東金商業高等学校【課題研究】	13
山梨県 山梨県立甲府城西高等学校【課題研究】	14
山梨県 山梨県立青洲高等学校【課題研究】	15
神奈川県 神奈川県立相原高等学校【課題研究】	16
富山県 富山県立高岡商業高等学校【課題研究】	17
石川県 石川県立小松商業高等学校【課題研究】	18
石川県 石川県立金沢商業高等学校【課題研究】	20
福井県 福井県立敦賀高等学校【課題研究】	21
長野県 長野県飯田 OIDE 長姫高等学校【課題研究】	22
長野県 長野県松代高等学校【課題研究】	23
静岡県 静岡県立浜松商業高等学校【課題研究】	24
愛知県 愛知県立半田商業高等学校【課題研究】	25
愛知県 愛知県立東海樟風高等学校【課題研究】	26
岐阜県 岐阜県立大垣商業高等学校【課題研究】	27
三重県 三重県立四日市商業高等学校【課題研究】	28
三重県 三重県立松阪商業高等学校【課題研究】	29
京都府 京都府立京都すばる高等学校【課題研究】	30
京都府 京都府立京都すばる高等学校【課題研究】	31
奈良県 奈良県立奈良商工高等学校【課題研究】	32

和歌山県	和歌山県立和歌山商業高等学校【クラブ活動・課題研究】	33
和歌山県	和歌山県立箕島高等学校【課題研究】	34
鳥取県	鳥取県立米子南高等学校【課題研究】	35
島根県	島根県立情報科学高等学校【課題研究】	36
岡山県	岡山県立倉敷商業高等学校【課題研究】	37
広島県	広島県立広島商業高等学校【課題研究】	38
広島県	広島県立尾道商業高等学校【課題研究】	39
山口県	山口県立萩商工高等学校【課題研究】	40
愛媛県	愛媛県立西条高等学校【課題研究】	41
福岡県	福岡県立小倉商業高等学校【課題研究】	42
福岡県	福岡県立若松商業高等学校【課題研究】	43
佐賀県	佐賀県立唐津商業高等学校【課題研究】	44
佐賀県	佐賀県立鳥栖商業高等学校【課題研究】	45
大分県	大分県立大分商業高等学校【課題研究】	46
鹿児島県	鹿児島県立屋久島高等学校【課題研究】	47
栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校【総合実践】	48
新潟県	新潟県立新潟商業高等学校【総合実践】	49
兵庫県	明石市立明石商業高等学校【総合実践】	50
山口県	山口県立柳井商工高等学校【総合実践】	51
長崎県	長崎県立佐世保商業高等学校【総合実践】	52
沖縄県	沖縄県立八重山商工高等学校【総合実践】	53

3 マーケティング分野

富山県	富山県立富山商業高等学校【マーケティング】	54
静岡県	富士市立高等学校【マーケティング】	55
岡山県	岡山県立勝間田高等学校【マーケティング】	56
香川県	香川県立三木高等学校【マーケティング】	57
長崎県	長崎県立諫早商業高等学校【マーケティング】	58
熊本県	熊本県立球磨中央高等学校【マーケティング】	59
北海道	北海道札幌東商業高等学校【商品開発と流通】	60
秋田県	秋田県立平成高等学校【商品開発と流通】	61
徳島県	徳島県立徳島商業高等学校【商品開発と流通、課題研究】	62

4 マネジメント分野

福島県	福島県立福島商業高等学校【ビジネス・マネジメント】	64
群馬県	群馬県立高崎商業高等学校【経済活動と法】	65
宮崎県	宮崎県立宮崎商業高等学校【グローバル経済】	66
岩手県	岩手県立釜石商工高等学校【観光ビジネス】	67
宮城県	宮城県南三陸高等学校【観光ビジネス】	68
福井県	福井県立奥越明成高等学校【観光ビジネス】	69
島根県	島根県立浜田商業高等学校【観光ビジネス】	70

愛媛県	愛媛県立松山商業高等学校【観光ビジネス】	71
高知県	高知商業高等学校【観光ビジネス】	72

5 会計分野

青森県	青森県立三沢商業高等学校【簿記、財務会計Ⅰ、財務会計Ⅱ】	74
埼玉県	埼玉県立所沢商業高等学校【簿記】	75
埼玉県	埼玉県立岩槻商業高等学校【簿記】	76
山梨県	山梨県立北杜高等学校【簿記】	77
奈良県	奈良県立商業高等学校【簿記】	78
茨城県	茨城県立日立商業高等学校【財務会計Ⅰ】	79
兵庫県	兵庫県立姫路商業高等学校【財務会計Ⅱ】	80

6 ビジネス情報分野

神奈川県	横浜市立横浜商業高等学校【情報処理】	82
徳島県	徳島県立つるぎ高等学校【情報処理】	83
大阪府	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校【ビジネス情報管理】	84
島根県	島根県立出雲商業高等学校【ネットワーク活用】	85

7 学校設定科目

宮城県	宮城県大河原産業高等学校【商業デザイン実習Ⅰ】	86
千葉県	習志野市立習志野高等学校【キャリアデザイン】	87
東京都	東京都立葛飾商業高等学校【ビジネスアイデア】	88
東京都	東京都立江東商業高等学校【ビジネスアイデア】	90
滋賀県	滋賀県立安曇川高等学校【地域連携（情報）】	91
鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校【グローバルビジネス】	92
高知県	高知県立伊野商業高等学校【起業家教育】	93
熊本県	熊本県立熊本商業高等学校【商品開発、電子商取引】	94
宮崎県	宮崎県立延岡商業高等学校【地域ビジネス】	95

8 総合的な探究の時間等

秋田県	秋田市立秋田商業高等学校【総合的な探究の時間（代替：課題研究）】	96
山形県	山形県立米沢商業高等学校【総合的な学習の時間（キャリア探究）】	97
千葉県	千葉県立千葉商業高等学校【総合的な探究の時間】	98
新潟県	新潟県立十日町総合高等学校【総合的な探究の時間、マーケティング】	99
大阪府	大阪府立鶴見商業高等学校【総合的な探究の時間、特別時間割り】	100
沖縄県	沖縄県立具志川商業高等学校【総合的な探究の時間】	101
和歌山県	和歌山県立和歌山商業高等学校【令和6年度第18回商業教育フェスタ2024】	102

おわりに		103
------	--	-----

資料 本部提案テーマ年度別一覧		104
-----------------	--	-----

はじめに

平成 30 年に告示された学習指導要領に示された理念の実現に向けて、各校において工夫・充実した取組を推進していることと思います。さまざまな機会に、特色・魅力ある教育活動を展開するための方策として、教科等横断的な学習の充実、学校間連携、地域社会や高等教育機関、企業等の関係機関と連携・協働することなどが示されています。そして、各学校が掲げるスクール・ミッションや実情等に基づいた教育活動が望まれています。

これからの社会においては、ICTを活用した教育の一層の推進、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことのできる資質・能力の育成が叫ばれています。したがって、GIGAスクール構想の着実な実現を目指すことが重要となっています。GIGAスクール構想の整備では、高等学校は、令和6年度までに全学年で1人1台端末環境が整う予定です。この整備により、1人1台端末をはじめとするICTを効果的に活用して、他の学校や地域との交流、オンライン学習などの今まで活動しにくかった学習が容易に実施可能となりつつあります。

一方、探究活動を推進・充実を図る上で、関係機関の協力を得ながら地域社会とともに一体となって教育活動に取り組むことが必要です。地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を取り入れること、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫した教育活動は、学校だけで教育活動を完結させることなく、将来を見据えたリスキングに取り組める人材育成につながっていきます。

これらを踏まえ、令和6年度春季研究協議会では、テーマを「GIGAスクール構想を踏まえた魅力ある商業教育の実現に向けて」、サブテーマを「教育活動の一層の充実と主体性や興味・関心を引き出す商業教育について」として、GIGAスクール構想の実現や令和6年度の新教育課程の完全実施に向けて工夫・改善に取り組んでいる各校の現状や取組についてアンケートを実施し、その分析及び考察をまとめて本部提案といたしました。

秋季研究協議会では、「新しい時代を見据えた魅力ある商業教育の推進を目指して」のテーマで、1人1台端末を活用しながら実施している校内外の様々な連携活動の事例を収集し、新しい時代を見据えた魅力ある商業教育について、討論できるシンポジウムの事例集としてまとめました。

この1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例集が、学習成果の的確な把握と次への指導改善の一助として、全国の先生方に役立てていただきますことを心から願っています。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	福島県	学校名	福島県立小名浜海星高等学校
科目名 (学年・単位数)	R5:ビジュ初基礎 (1年:3単位) 課題研究 (2年:2単位) 課題研究 (3年:3単位) R6:総探 (1年:1単位) マーケティング (2年:2単位) ネットワーク活用 (3年:2単位)		
連携活動の相手先	県内外の企業、団体、県内・他県の高校等		
1人1台端末 以外の使用機器等	個人スマートフォン等、Zoom、Google Workspace for Education、Canva for Education		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・タブレット等を通じて生徒ができること (行えるように教員がサポートする内容)
 - 1～3学年 Google Classroom 写真の提出等
 - Google Forms 新入生アンケート、ルーブリック評価、テスト等
 - Canva for Education 商品ラベル、POP (写真加工も含む)、名刺の作成
※他校との共同編集も含む。 Canva Proも併用する。
 - カメラ 電子商取引で使用する商品写真撮影、説明用の動画撮影

(2) 活動内容

- ・福島イノベーション事業 地域を訪問し、課題の収集と交流を行う。
- ・ふくしまの未来を創るFukurum基金事業 新商品開発等を地元企業と行う。
- ・各種コンテスト等に出場 (参加) し、他校と協働できる関係を構築する。

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

- ・課題のPDS
訪問先からの課題を、授業のケーススタディとして取り入れることで、正解のない取り組みにチャレンジする授業を構築する。

訪問先で、材料の購入と、他県の高校生とZoomしながら、共同で作成した商品ラベルを説明している。



(2) 工夫

- ・訪問先からの課題に対して、担当する学年の調整を行う。
例：3学年が訪問時に課題を受け入れたら、1学年にその課題をお願いしに行く。
- ・各種事業を組み合わせたり、法人と連携したりすることで、費用面の課題を解消する。
例：研究開発費 (補助金を活用)、仕入 (地元法人に協力依頼、インボイス対応も含む)

(3) 評価

- ・ルーブリック 実施時期：入学時、1学年2月、2学年2月、3学年12月
- ・パフォーマンス 作文 (ストーリー性がある)、プレゼン (質問にも答えられる)、報告書等

3 成果及び課題

(1) 成果

訪問先では講話だけでなく、交流や取引の実践を取り入れることで、生徒の主体的な取り組みの場所を増やすことができた。結果として、学年ごとの商品開発と継続した販売実習が実践できた。

活動が認められ、東北農政局より認定証を受賞した。



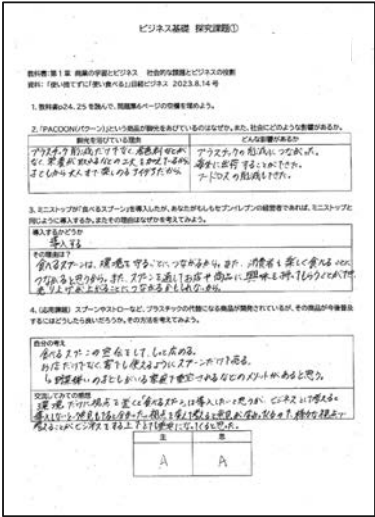
(2) 課題

- ・タブレットの活用スキルに個人差があること。
- ・年度単位で対応する科目が変わってしまう。
- ・実習先により、実施できる生徒数に制限が出ていること。

4 今後に向けて

タブレットを使うことを目的とせず、タブレットが必要な環境と実践の場を構築していく。今後は、周辺の学校も地域の活動先を定番化していくことが想定されるため、新規の交流先を確保することが難しくなると考えている。そのため、商業科だけでなく企画研究部と連携しながら、商品開発をゴールとしないで、継続した販売体制を構築しながら、地域経済の活性化につなげていく。それにより、他の学校 (学科) との差別化を図り、Society 5.0に対応できる人材の育成につなげていく。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立岐阜商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	ビジネス基礎 (1年・2単位)		
連携活動の相手先	企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	なし		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～3月 教科書に準拠した講義 (月1回 探究課題の実施) 11月 企業研究 12月 企業訪問、ポスターセッション <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～3月 教科書に準拠した講義 (月1回 探究課題の実施) ビジネスに関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、物事の見方・考え方を養う。月1回の探究課題でアウトプットの学びを取り入れる。 11月 企業研究 12月に訪問する企業について、企業概要や理念、社会貢献の仕方について、個人で調査し、グループ交流する。 12月 企業訪問、ポスターセッション 県内各地の地元企業を訪問。仕事のやりがい等についてインタビューを行う。 グループでB4判1枚にまとめてポスターセッションを行う。 			
			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>地元企業を訪問し、企業理念や仕事のやりがい等を聞き、実際に働く姿を見ることで、働くことの意義を理解し、ビジネスに対する興味関心を深める。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>一方向のやり取りで終わらないように、事後の活動報告として作成したポスターをお礼状と共に送付し、学校での活動を企業の方にも知っていただくことで継続的な連携が図れるよう努めた。</p> <p>(3) 評価</p> <p>ワークシート、グループ活動状況、ポスターセッション、活動状況振り返り</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>調べるだけでは分かりえない仕事のやりがい等を、実際に企業に勤める方々から聞くことによって、働くことの大変さ、楽しさを身をもって感じる事ができ、勤労観が養われた。普段関わることのない外部の大人と接することで、授業で学ぶ礼儀や正しい言葉遣い、マナー等の大切さを実感できた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>企業と生徒のマッチングや連絡調整がスムーズに行かず、訪問企業決定までに時間を要したこと。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末を活用して、個人調査・ワークシート作成→グループ交流のサイクルを流れよくできた。今後の学習においてもこれを活かしつつ、生徒が実際に自分の目で見たり、直接会って話を聞いたりする機会も一層充実させられるようにしていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立山川高等学校
科目名 (学年・単位数)	ビジネス基礎（1年：2単位）		
連携活動の相手先	各種金融機関，鹿児島県金融広報委員会，県内企業，本校「公民」・「家庭」科		
1人1台端末 以外の使用機器等	ZOOM, Microsoft社「Teams」と「Form」		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ① 4月～5月 各産業界における市場占有率1位と2位に該当する企業の概要（代表取締役や経営方針等），役割，仕事内容，売上高，今後の動き・展開をMicrosoft社「Teams」を活用し，まとめさせる。
- ② 6月～3月 毎時間 ①に該当する企業の株価を調べ，記録，経済状況を把握させる。
- ③ 10月～3月 金融金銭教育機関として，他教科（公民科・家庭科）と連携し，金融リテラシーを身につけさせる。特に商業科においては，「保険」と「ビジネス計算」に重点をおいて学習させる。
- ④ 通年 各種金融機関と連携し，各教科の単元に応じ，ICTを活用しながら外部講師を授業に招く。



(2) 活動内容

- ① Microsoft社「Teams」の活用により，日本の大手企業の現状や株式の動向に興味・関心を持たせるとともに各班の情報・データ等を即時共有し，課題と問題点を議論できるよう育成させる。
- ② 本校独自の研究テーマを「～教科横断的連携による生徒の経済的自立を目指して～」として，金融・金銭教育を通し，社会の中で主体的に行動できる能力と態度を育成させる。
- ③ 将来のライフプランニングについて，リスクに備える「保険」に関する知識を「金融・金銭教育」を織り交ぜながら，金銭の計画的な使い方を実感を持った理解に結び付けさせ，保険業の単元では，「保険を学んで充実したライフプランニング意識改革プロジェクト」を設定し，身近な「投資」として認識させる。

ア 保険の基本と役割	イ 公的社会保険と民間保険	ウ 保険契約の課題と体験的学習
エ 保険の種類と体験的学習	オ リスク対策の模擬的体験学習 公的社会保険に関するケーススタディ	カ リスク対策の模擬的体験学習 民間保険に関するケーススタディ

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

IR・将来の個人投資家として，「あなたならどの会社の株式を購入しますか。」をテーマに，県内企業と連携し，担当の方から，業績，株式や投資の実状および手続き等を紹介してもらう。

また，SDGs，県内の経済状況を把握し，企業の方々と双方向的な意見のやり取りを含めた体験講座の開催。



(2) 工夫

- ① 共有ドライブに金融機関発行のワークシートやMicrosoft社「Form」で作成した教材・問題集を設定（「教科横断的な指導」により知識を深めるため，各教科と管理権限を設定する。）
- ② Microsoft社「Teams」に保険料シュミレーションサイト等のURLを設定し，疑似体験を可能にする。

(3) 評価

取組姿勢や態度，グループ活動（協働作業）状況，レポートの作成・発表，学習状況の振り返り

3 成果及び課題

(1) 成果

ICTを活用した「金融・金銭教育」を推進するに当たり，生徒の興味・関心を引き出すための新しい学習指導方法の在り方を研究することができた。また，関係機関等が実施する学校向け支援活動をより一層，効果的・効率的に実施するための参考資料を更に活用することで授業の工夫が可能となった。

(2) 課題

習得した教材，ワークシートを今後も授業で活用できるよう，整理し，必要に応じてオリジナルの資料や教材，ワークシートを作成し，実践的な学習を行い，今後も各教科と協働で連携した授業の実践を行い，校内だけに限らず，ICTを活用しながら他校と連携した「金融・金銭教育」を実現したい。

4 今後に向けて

ICTの活用と外部講師による「金融・金銭教育」は，今後も継続的に教科横断的連携の体制で授業に導入し，各学科で授業・セミナーの実施につなげたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	香川県	学校名	香川県立坂出商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	ビジネス・コミュニケーション (2年: 2単位) マーケティング (3年: 2単位)		
連携活動の相手先	企業、地方公共団体など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、teams、電子黒板		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 【2年】・2～3月 コンセプトやアイデアの創出 【3年】・4～7月 お土産物開発、マーケティング戦略、経済性の検討、試作品の開発 ・9～11月 販売開始、販促活動</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>【2年】・2～3月 コンセプトやアイデアの創出 坂出のお土産物開発の趣旨を考え、コンセプトやロゴなどアイデアを出し合っ、どんな商品を作りたいか方向性を決めた。企業の方にアドバイザーをお願いすることで、アイデアのふり分けやご意見をいただき、4アイテムを開発することに決定した。 コンセプト：せとうちつよし</p> <p>【3年】・4～7月 お土産物開発、マーケティング戦略、経済性の検討、試作品の開発 コンセプトをもとに、商品企画書を各自で作成。アイデアを各班の協力企業とともに、商品コンセプトやマーケティング戦略、経済性を検討し、試作をしていく。 開発会議は合計3回。その間、班ごとに、協力企業とオンライン会議を行ったり、店や農場、工場を訪れたりした。</p> <p>・9～11月 販売開始、販促活動 (与島プラザでも常時販売) 1回目販売実習：9月23日 せとうち焼きもの市2023 (与島PA) 2回目販売実習：11月18日 香川県産業教育フェア (綾川イオン) 3回目販売実習：11月25日 せとうちマルシェ (与島PA) 販売に向けて、PR動画を各班で作成し販売当日店頭で流した。また商品情報を共有するために、各商品のプレゼンを行った。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して地域の魅力を再発見し、地域とつながることで郷土愛を育む ・商業科で学んだ知識を実践的に活用することで、商業の学びを深める ・地域の方と協力し、お客様と接する中で達成感や自らの有用感を高める <p>(2) 工夫 2年次から継続的に地元企業と連携して実施することで、PDC Aサイクルを回すことができた。また、授業の中でタブレット等を用いて情報検索を行い、その結果を、teamsを利用して学校内外での情報共有を行った。</p> <p>(3) 評価 班別活動状況、レポート作成、プレゼン発表、学習状況の振り返り等</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 企業と連携し実際に販売を行うことで、より実践的に商品開発を行うことができ、商業の学びを深めることができた。また、地元について研究することや自分で商品開発をすることにより郷土愛を育み、地域の方と接する中で自己有用感が高まり、自信につながったように感じる。</p> <p>(2) 課題 パーキングエリアで販売し続ける商品を開発することの難しさを感じた。地元食材など品質にこだわり原価高となっていたので、もう少し経済性について折り合いをつけた商品を開発する必要がある。また、お客様に伝わる商品PRの方法を考えなければならぬと感じた。</p> <p>4 今後に向けて 実践活動をするにあたり、タブレットや共有ソフトを活用することで、より成果を上げることができるよう使い方の研究を進めていきたい。</p>			



決まったロゴ



開発会議の様子



販売実習の様子


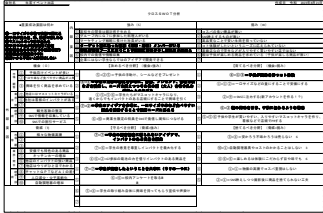


揚げうどんスナック



よしまかろん

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	北海道	学校名	北海道函館商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 4単位)		
連携活動の相手先	企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～12月 商品開発を通じたマーケティング学習 (調査・研究)、成果発表 9月～2月 地域の商業施設や道の駅、食のイベント会場での販売実習 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～5月 地域課題や、協力企業の課題をもとに研究テーマを設定し、調査・研究。 5月～6月 協力企業の施設・設備見学や現地調査を行い、課題解決に役立てる。 6月～11月 マーケティング理論に基づいた商品開発の手順を実践し、商品が完成。 11月～2月 販売実習における事前準備・当日業務・事後評価を実践。 12月 課題研究発表会にて、調査研究の成果発表。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用し、企業と生徒との連携を効果的に行い、メリットを最大限に生かし教育効果を上げる。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の紙による配付回収を伴う活動を減らす。 授業時間以外での意思疎通をリアルタイムで行い、取り組みのスピードを最大化させる。 例えばSWOT分析を共有資料で行うことで同時編集ができ、家庭学習時間での編集が可能になるほか、常に最新の状態が表示され、スムーズな会議を行う。 業務日誌、会議録をその場で入力し、欠席者との情報共有を円滑に行う。 パフォーマンス評価をフォームで行い、自動集計を行う。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート、発表、グループ活動、ポートフォリオ、生徒自己評価、生徒相互評価等 			
  <p style="text-align: center;">クロスSWOT分析</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真・音声・動画・リンクを貼るなど効果的な資料の制作ができるようになった。 遠隔地の担当者とオンラインミーティングができ、多様な考え方に触れることができた。 情報の編集や発信などを行うことで、情報モラルの指導につなげることができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 端末やソフトウェアの操作方法がわからないとき、即時対応が難しい。 機器の故障や、Wi-Fi設備のない場所での活用に制限がある。 <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で、1人1台端末を使った授業を行う頻度を高める取り組みが必要。教員が挑戦と失敗を繰り返しながら自己研鑽に励むことが重要である。 			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	青森県	学校名	青森県立弘前実業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：2単位）		
連携活動の相手先	地元企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 地域資源を活用した高付加価値商品の企画の立案 ・5月～9月 調査・研究、資料収集、企業訪問等 ・10月～1月 検証、振り返り、課題の洗い出し、まとめ、発表 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 地域資源を活用した高付加価値商品の企画の立案 → こぎん刺し×津軽塗×ハンガーを掛け合わせる ・5月～8月 調査・研究、資料収集、企業訪問等 → Google Formsを活用したアンケート調査 → 動画撮影・編集 → 企業とのリモート会議の実施 ・9月～1月 検証、振り返り、課題の洗い出し、まとめ、発表 → 県事業「あおり創造学」での発表 → 全国産フェアにおけるビジネスアイデアコンテストへの応募 → 課題研究校内発表 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>地域課題解決のために、これまで習得してきた『マーケティング』、『観光ビジネス』、『情報処理』、『簿記』等で学んだ知識を活用して、地域資源の発見とその活用方法について主体的かつ実践的な学びを通して、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>地域にある伝統工芸品にスポットをあて、既存商品と組み合わせることで新しい付加価値を創り出すために、地域企業との打ち合わせや交渉時に端末を活用した。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループでの活動状況、活動日誌及び学期ごとの報告書、及び最終報告書、学習の振り返りシートを活用して行った。</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>こぎん刺しや津軽塗など、職人の技術や制作に対する思いを見たり聞いたりするができ、地域の魅力を再発見することができた。試作品として完成した商品を実際にホテルの方々にアドバイスを頂くことで、商品のブラッシュアップにつなげることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>端末を使った交渉では、生徒が先方に伝えたい内容をうまくまとめられない場面があり、実際に企業へ訪問し打合せを行う場面が多くあった。どんな場面において端末を利用すれば良いのか生徒に考えさせる時間が必要である。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>端末を活用したコミュニケーションツールによって、生徒の学びの幅や学びのフィールドが広がった。今後は、地域企業とのやり取りだけでなくとどまらず、インターネットの特性を最大限に生かして県外、国外へのアプローチができる活動につなげたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立盛岡商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 2単位)		
連携活動の相手先	岩手県立大学、株式会社イーアールアイ、株式会社ソフトクリエイティブホールディング		
1人1台端末 以外の使用機器等	生徒保有のスマートフォン		

1 授業概要

(1) 年間計画

- 4月～9月 テーマの考え方と決め方、データ・図表を読み取る資料集め
- 10月～1月 岩手県立大学「プロジェクト演習」に参加
課題を解決するシステムを考え提案
提案を整理してポスターを作成、発表を行う

(2) 活動内容

- 4月～9月 RESASを使って地域経済分析を行う
表やグラフの作り方を考察する
課題を発見し、解決に向かうためのレポートを作成する
- 10月～1月 地域課題を調査・学習し、連携先の企業が抱える課題を解決するシステムを考え提案する
提案を整理してポスターを作成し、発表を行う

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

岩手県立大学「プロジェクト演習」に参加するにあたり、事前に世の中の動向や地域が抱える諸課題への意識付けを行う。発表にあたり、根拠に乏しい資料の提示では説得力が欠けてしまうため資料読み取りや作成技術を身に付けさせる。

企業が抱えている諸問題の理解と解決策への提起が深い学びから、問題発見能力を養う。

(2) 工夫

「プロジェクト演習」は机上での知識習得や演習ではなく、実社会の現場に実在する課題に取り組む演習で、企業の協力を得て実施できている。しかし、与えられた課題を短時間に生徒一人の力で完全に解決することは、多くの場合は困難である。そこで、「他者と協働しながら、現実的な問題を分析して解決すべき問題を明らかにし、ICTを活用した解決策を提案できる」ようにとした。そのために、タブレット端末を活用し、授業時間のみならずデータ等の共有を図りながら行った。



(3) 評価

個人の活動、グループ内での貢献度、グループ活動状況、レポート作成、発表資料の作成、発表

3 成果及び課題

(1) 成果

3年間の集大成としてこれまで学んできたことや新たに調べ、得た知識等をうまく融合させ、協同で取り組ませることにより、ねらいで述べた能力を身に付けさせる機会となった。

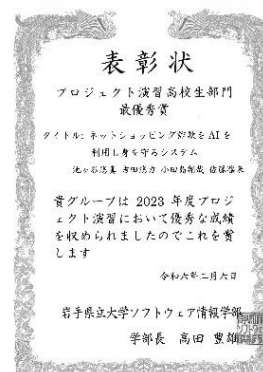
提携先企業からも高い評価をいただき、昨年度も高校生部門最優秀賞を受賞することができた。

(2) 課題

生徒の主観的なデータに基づいた分析が中心となっており、授業の効果については、より多面的に検証していく必要がある。

4 今後に向けて

タブレット端末について教員・生徒も利活用方法が確立されてきたので更なる有効活用に向けて研鑽を積みたい。



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	山形県	学校名	山形市立商業高等学校
科目名（学年・単位数）	課題研究（3年：3単位）		
連携活動の相手先	日本政策金融公庫		
1人1台端末 以外の使用機器等	特になし		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 ・ 4月～6月 ビジネスに関するテーマを設定し、調査研究、発表 ・ 7月～9月 「高校生ビジネスプランコンテスト」への応募準備</p> <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～6月 ビジネスに関するテーマを設定し、調査研究、発表 テーマ、テーマ目標設定理由、研究仮説などの研究計画をまとめ、具体的な調査研究を実施し、パワーポイントを使い発表。 ・ 7月～9月 「高校生ビジネスプランコンテスト」への応募準備 日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプランコンテスト」（高校生がビジネスについて考え、ビジネスプランをまとめ、ビジネス力を付ける教育プログラム）地域の課題を見つけ出し、課題解決のプランを考え提案する。 			
<p>2 連携活動のねらい・評価</p> <p>(1) ねらい 地域の課題を解決するビジネスを考え、自ら調査研究しまとめ、発表する力を身に付ける。</p> <p>(2) 評価 調査研究活動・授業中の提出物・レポート作成・発表・学習の振り返り</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果：地域の課題を発見し、それを調査研究し、課題解決に繋げ、発表したり、レポートにまとめるなどの力が身についた。</p> <p>(2) 課題：生徒によっては調査研究があまり進まなかったり、課題解決があまり具体的でない生徒もいた。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末を活用し、Z o o mなどのコミュニケーションツールを、今後活用していきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立古河第一高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 2単位)		
連携活動の相手先	(1) 一般社団法人アユミル (2) 銭屋米穀株式会社 (3) カマヤ製パン (4) コガじかん project		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～7月 商品開発をテーマに、調査研究の実施 ・ 8月～9月 商品開発期間 ・ 10月 販売実習 ・ 1月 校内発表およびプレゼンテーション大会「IBARAKI ドリーム・パス」参加 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古河市役所にプロジェクトについての相談、協力依頼 ・ アユミル代表の金子典子氏との今後の方向性、計画について検討 ・ 古河一高生 (約800人) に対してQRコードを利用したアンケートの実施 ・ 銭屋米穀株式会社の岩崎智之氏による商品開発の講習会 ・ カマヤ製パンの木塚社長とのオリジナルパンの開発 (試作含む) ・ 協力していただいた農家の方にインタビュー ・ コガじかん project 主催「ジュンカン市」でのオリジナルパンの販売 ・ 研究内容について発表会の実施 (対象: 古河一高1・2年生) ・ 第5回 プレゼンテーション大会 IBARAKI ドリーム★パスAWARD参加 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>「古河市」の地場産品を使用した魅力的な商品を開発し、効果的に発信する力を身に付けることで、働くために必要なコミュニケーション力および情報発信力を養う。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>製造企業との連携のみではなく、古河市、古河商工会議所、イベント会社等に協力を依頼し、オンラインでの講習や会議を行い、各自の端末を使って知り得た情報を共有した。開発した商品は、本校商業科のSNSを立ち上げ、PRを行った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>活動状況、インタビューの内容・取組姿勢、発表原稿の作成、学習状況の振り返り</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>商品を開発していく過程で、フォームを使用したアンケート調査、商品コンセプトや価格設定、商品ラベルの作成や広報活動など、生徒それぞれが端末を使用し、情報を共有しながら実践的な知識を得られた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>事前指導の実施や各団体との連絡調整など、すべてが生徒主導で進めることはできないので、指導を行う職員の負担が大きくなった。多くの職員で、関わられるような作業の流れや分担が必要である。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>年次進行で、商品開発から、情報発信、販売実習まで進めることができた。今後は、さらに権利関係にも発展させる方向性を模索している。そのために、1人1台端末を活用してSNSなどのコミュニケーションツールを使用し、効果的に作業を進めていけるようにしていきたい。</p>			



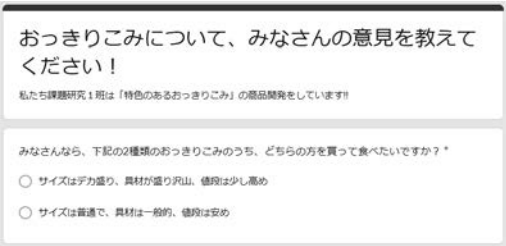
1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	栃木県	学校名	栃木県立足利清風高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：2単位）		
連携活動の相手先	企業・地方公共団体等		
1人1台端末 以外の使用機器等	学校内PC		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 市内に関するテーマを設定し、調査研究・設定理由について発表 ・7月～3月 調査研究・研究内容のまとめ・発表・振り返り <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 地域企業の抱える課題について探究し、地域経済に活気をもたらす企業の取り組みについて調査を行う。 ・7月～3月 調査研究について、研究内容をまとめ、その成果を学校HPや課題研究発表会などを通して外部に発信する。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域企業が抱える課題について、企業と協働で探究し、地域経済に活気をもたらす取り組み（市内店舗応援企画・政策提言等）を行う。 また、学校と地域をつなぐコーディネーターとして、市役所地域創生課・地域おこし協力隊に協力を依頼し、学校の中だけではできない多様な社会を体験する。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次で探究の基礎を学び、2年次で探究活動実践につながる力を養い、3年次で研究の課題解決に取り組むという段階を経たカリキュラムを組んでいる。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行う。 ・自己肯定感アンケートを定期的に行い生徒の変容を図る。 <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間と課題研究において、全校生徒が地元足利市における企業の業務内容や課題を知ることができた。さらに、課題解決の提案をすることで、その企業をより深く知るきっかけができたのではないかなと思う。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒への事前指導が不備などがあったことや、また、企業へのアポイントを取るための連絡や調整がうまくいかなかったことがあげられる。 <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールとして、メールやZoomを使うことで、様々な学習活動に効果的に活用できるように工夫をしていきたい。また、総合的な探究および課題研究の取り組みを、地域経済に活かせるように、今後も調査研究等を継続していきたい。 			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	群馬県	学校名	群馬県立前橋商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年:3単位)		
連携活動の相手先	企業、地方公共団体など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～5月 企業と共同で商品開発をするための商品アイデアの考案 6月～3月 グループでテーマを設定し、調査研究 10月に中間発表、2月に最終発表を実施 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～5月 企業と共同で商品開発をするための商品アイデアの考案 群馬県と地域活性化包括連携協定を締結している企業と、共同で商品開発をするための商品アイデアを考える。群馬県の特徴を生かした商品となるようにする。原価計算やマーケティングの学習内容を踏まえて、消費者のニーズや現実的な原価と売価も計算する。 6月～3月 グループでテーマを設定し、調査研究 3～4人のグループで、それぞれテーマを設定し、仮説を立てて調査研究する。企業・地方公共団体・農家など、連携する相手はグループによって異なる。アンケート調査は、Google フォームを活用すると効率的である。グループごとに調査研究の結果をプレゼンテーションソフトウェアでまとめて発表する。 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 仮説を検証するために必要なデータについて、インターネット上での情報収集にとどまらず、主体的に相手と連絡を取り、データを収集する。ビジネスの諸活動において必要なコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>(2) 工夫 連携する相手に最も適した連絡方法を考えさせた。例えば、地方公共団体には電話をかけたが、起業家にはSNSのダイレクトメッセージを利用した。</p> <p>(3) 評価 学習活動の振り返り、レポート・プレゼンテーションの作成・発表など</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 生徒は、訪問やダイレクトメッセージで、担当者の声を直接聞くことができ、主体的に調査研究に取り組むことができた。一例として、生徒が地域の遊園地と連携して企画したイベントを、実際に開催することができた。1人1台端末は、データの集計や宣伝活動などに活用することができた。</p> <p>(2) 課題 3単位の授業時間のなかで、仮説の検証まで、計画的に調査研究を進められるように生徒を指導していきたい。</p>			
<p>4 今後に向けて 調査研究の成果を積極的に外部へ発信していくことで、学校のPRだけでなく、地域や企業にも貢献していきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立東金商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	大学、企業、地方公共団体等		
1人1台端末 以外の使用機器等	Microsoft 365で提供されている様々なソフトウェア		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・ 4月～5月 研究テーマ「観光ビジネス」を設定し、調査研究、発表 … 実践事例を記載
- ・ 6月～7月 企業視察、高大連携による第1回バスツアーの実施、検証
- ・ 9月～10月 企業視察、一般公募による第2回バスツアーの実施、検証
- ・ 11月～1月 発表 (ミニ集会、課題研究成果発表会、県主催の発表大会等)

(2) 活動内容

「観光ビジネス」を研究テーマとし、旅行プランを企画・実践するために、山武市の観光に関する調査・分析を行う。

山武市役所より提供していただいた近年の観光施設についての来客数データ等を分析し、問題の把握と課題の整理を次の手法で行い、研究仮説を設定する。

ア As is / To be … Whiteboard イ ロジックツリー … Whiteboard
ウ 緊急度/重要度マトリクス … Forms エ ICEスコアリング … Excel

山武市を舞台に高校生がバスツアーを企画・実践することで、数多くの旅行者が訪れる魅力あるまちづくりに貢献できるのではないかと、という研究仮説を設定した。

【研究仮説】より、「体験型観光コンテンツの企画」「インバウンド対策」「日本の伝統文化をPR」を意識した、旅行プランを作成し、旅行代理業者に発表を行う。

東武トップツアーズ株式会社、T-Lifeパートナーズ株式会社の2社に、旅行プランを発表し、好評していただく。発表資料は、発表内容が論理的に組み立てられるよう、Swayを使用する。

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れ等を踏まえて、「観光ビジネス」を学ぶことについての意義や役割を理解することをねらいとする。

(2) 工夫

山武市役所や地元企業および大学と連携し、地元の「生の声」を聴くことで、観光資源を再発見することができる。

(3) 評価

研究仮説の設定、旅行プランの発表、旅行代理業者による講評等を総合的に評価する。



3 成果及び課題

(1) 成果

一般公募による実施の事前学習として、第1回バスツアーを、高大連携により海外留学生を対象に実施した。生徒自らガイドを務めたことや、「日本の伝統文化をPR」するための企画 (オリジナルかるた等) が大変好評であった。

(2) 課題

募集型企画旅行は、旅行業務取扱管理者の資格を有している者がいないと実施できないため、地元バス会社等の連携は必要である。



4 今後に向けて

調査研究から発表までに、様々なソフトウェアを活用したことで、論理的にものごとを分析し、発表することができた。一つのテーマから、様々なソフトウェアをオーサリングすることを継続して指導する。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	山梨県	学校名	山梨県立甲府城西高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年：2単位)		
連携活動の相手先	地域のローカル店舗		
1人1台端末 以外の使用機器等	Teams		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月～1月 地域のローカル店舗の商品を仕入れ、校内で販売活動を行う <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> KJキラリという店舗名で、地域のローカル店舗の商品を仕入れ、校内で販売活動を行う ビジネスの実践経験、地域貢献、学校の活性化という3つの目的のもと、地域のローカル店を調査し、生徒自らがSNS等でアポイントを取り、コラボ店を探し、校内で販売活動を行っている。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の店舗の方とアポイントを取りながら、お店の経営を行うことで、ビジネスの実戦経験を積ませること。その中で、ビジネスの難しさ、面白さ、魅力を感じてもらいたいと考えている。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> Instagramを利用し、お店の方と仕入計画を進めていること。 Teamsを活用し生徒たちへの広告を出すことで広報活動を行っている。 Instagram、PowerPoint等を利用し、POP広告の作成を行っている。 Google検索を利用し、地域のお店を探索している。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当していき仕事の活動状況、各自が作成したPOP等の内容、レポートの作成、活動の振り返り状況 			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に自分たちでお店の経営を行うことで、メンバーと連携、情報の共有をすることの大切さを実感できていること。また、お店の方とアポイントを取ることで、大人と関わる中で社会性を身に付ける機会となっている。また、端末を利用してやり取りする、広告をお客様に提示するというリアリティのある活動に緊張感があり、より技術的にも洗練される。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> より有効なソフトウェア、アプリを活用し、情報発信力を向上させ、活動の領域を広げていくこと。 高校生が、お店に情報提供できるような力を身に付けられればより、地域貢献につながると感じている。 			
<p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末の活用の幅を広げ、コミュニケーションツールを使うことで、様々な人と結びつく中でビジネスを学ぶ、幅と奥行きを広げていきたい。また、この取り組みの中で、学校と地域を結びつける中で、地域発展に貢献していきたい。 			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	山梨県	学校名	山梨県立青洲高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年・4単位）		
連携活動の相手先	地方公共団体・企業・大学など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Teams、ClassNotebook		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 4～5月：テーマ設定 6～8月：連携先との活動 9～3月：校内外での発表等</p> <p>(2) 活動内容 4～5月：① 産業の衰退や環境問題、防災、獣害問題など、自分の住んでいる地域や学校の所在地である地域の課題を発見し、グループワーク・小プレゼンをおこなう。 ② 小テーマについてグループワークを繰り返すことで、自分たちに何ができるか大テーマの設定につなげる。 6～8月：テーマを「アップサイクルによる環境問題解決と伝統産業の発展」と設定し、地域のコンクリート業者から出される排水（産業廃棄物）を地域の伝統産業である和紙作りに活用し、その和紙を使った商品開発・販売につなげるビジネスモデルの構築に挑戦した。 9～1月：生徒商業研究発表大会、業界団体のセミナー、県主催のSDGsイベントなどで成果報告をした。また、開発した商品をイベントや都内百貨店で販売した。次年度より県のふるさと納税返礼品に採用されることが決まり、PR活動をおこなった。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 「和紙産業の衰退」「コンクリート排水の処理問題」という地域の複数の課題を結び付け、新たな価値としてアップデートすることで、和紙業者・コンクリート業者の双方に大きなメリットをもたらすことができる。また、実際に現場でその課題と向き合っている方々と連携して活動することで、提案することに留まらず、真の課題解決につなげることができる。</p> <p>(2) 工夫 連携企業や地方自治体との打ち合わせにZoomやTeamsを活用した。グループワークにおけるアイデア出しや進捗状況の共有にClassNotebookを活用した。</p> <p>(3) 評価 グループワークの取り組み状況、プレゼンテーション資料やレポートなどの成果物、プレゼンテーションの態度、活動の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 取り組みにより、伝統産業の魅力再発見、産業廃棄物の削減、両者にとってのコスト削減につなげることができた。また、多様な立場の方々と連携し、自分たちの課題をSNSやイベントを通じて発信することで、環境問題や伝統産業に関心を持ってもらい、新たなつながり（連携）を生み出すことができた。</p> <p>(2) 課題 連携先が増えすぎてしまったことにより、予定の調整が難しくなってしまった。</p> <p>4 今後に向けて さらに多くの方々に取り組みを知ってもらうため、ブランド化や特許取得に挑戦していきたい。また、イベントでの集客が鈍いと感じるので、様々なコミュニケーションツールを活用したPRを進めていく必要がある。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	神奈川県	学校名	神奈川県立相原高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	地元のスタートアップ企業 (DiNOV株式会社) さがみはら産業創造センター		
1人1台端末 以外の使用機器等	Adobe製品、Google Workspace for Education、スマートフォン		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月～6月 地元のスタートアップ企業への取材 6月～8月 制作活動 8月 生徒商業研究発表大会での発表 9月～3月 作品のブラッシュアップ、新たな制作活動 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月 広告を必要としている企業への取材 どのような形態、媒体で広告を作成するか考える 6月～7月 動画の作成、リーフレットの作成 8月 生徒商業研究発表大会への参加 9月～3月 作品のブラッシュアップ 広告の公開 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>1人1台端末を使用し、企業との連携を密に行い、企業の説明動画とリーフレットをブラッシュアップした。</p> <p>広告を作成する中で、様々なソフトを活用し、ICTに関する技術を向上させる。</p> <p>ビジネスの場面における問題解決能力を育てる。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>企業広告にソフトな印象を与えるために、イメージキャラクターを設定して企業の概要を説明させた。これにより親近感を持てるような広告となった。</p> <p>(3) 評価</p> <p>連携活動の相手方からは、企業のコンセプトや業務内容を適切に伝えられており、PR動画として十分に使用できるとの評価をいただいた。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>企業との連携を密に行うことで、企業のイメージ、ニーズにあった広告を作成することができた。</p> <p>動画作成の技術を向上させることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>広告の成果を測定することが難しく、効果的な広告を行えたのか定かではない。</p> <p>特定のターゲットに向けた広告をすることが難しく、動画を視聴してほしい層に向けたアプローチが不十分であった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>今回の活動をきっかけとして、地元企業との連携活動を活発にし、企業見学や商品開発などの活動に繋がっていきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	富山県	学校名	富山県立高岡商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：3単位）		
連携活動の相手先	本校運営の模擬株式会社		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Forms		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～7月 模擬株式会社における広報活動に関するテーマの設定 ・9～2月 課題研究発表会に向けての準備 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～7月 模擬株式会社における広報活動に関するテーマの設定 模擬株式会社「りゅうりゅう」が創業20年目を迎えるため、そのアピールとして新しいマスコットを考案することにした。 ・9～2月 課題研究発表会に向けての準備 模擬株式会社の新マスコットとして認めてもらうために、取締役会にて複数のデザイン案を提案し、株主である全校生徒にアンケートをとり決定することとした。その際に、Google Formsを活用してアンケートを実施した。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>本校の課題研究は、3年生が10講座に分かれ模擬株式会社「りゅうりゅう」の各部署を担い活動している。個々の講座が単体として活動するのではなく、それぞれの部署講座と連携し、また株主である全校生徒とも連携することで、組織の一員として経営に携わる意義を持たせることをねらいとする。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>全校生徒にアンケートをする際にGoogle Formsを活用することにした。マスコット案ということもあり、色合いを含めたデザインを正確に伝えるために紙によるアンケートよりも画像データで示すことが有効だと考えた。アンケートの用紙を準備し、主旨とGoogle Formsへのリンクを示したQRコードを表記して配布した。また、アンケート結果の集計も含めて効率的に活動が行えると考えた。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況と取組姿勢、レポートの作成・発表、日誌による振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>模擬株式会社の運営に際して、各講座が分かれて授業を行っている、他の講座がどのような活動をしているかが分かりにくいという課題を感じていた。今回は新たな会社のマスコットを考えるという、会社全体や全校生徒に関係することであったことから、正しく手順を踏んで進めていく必要があった。取締役会での提案や全校生徒へのアンケートの実施により、比較的スムーズに新マスコットを発表することができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>タブレットを使用したアンケートでは、回答者は紙で答えるよりも起動時間などの手間がかかるため、回収率が思ったほど高くなかった。今回は、データによるアンケートが有効であると考えたが、アンケートの内容によっては紙での調査の方が有効であるかもしれない。端末を使うメリットを念頭に置いて計画をしていくことが必要だと考える。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>今回は、アンケート調査を紙から端末に変えての実践であった。今後は端末の活用によって、今までできなかった活動が可能になるような授業の研究、計画を考えていかなければならない。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	石川県	学校名	石川県立小松商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (第3学年・2単位)		
連携活動の相手先	小松市役所、北陸学院大学、小松駅周辺店舗10社		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>4月～6月 観光事業に対する小松駅周辺の店舗、地域住民に対する意識調査</p> <p>7月～10月 調査結果の分析・報告、ポスターセッションの準備</p> <p>11月～2月 地元店舗紹介動画の作成、観光マップの作成</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>○4月～6月 観光事業に対する小松駅周辺の店舗、地域住民に対する意識調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松市役所の方からアドバイスをいただきgoogle formを用いてアンケートの作成。 ・本校内生徒に対して予備調査を実施。 ・予備調査時の課題を修正し、イオンモール白山にて本調査実施。 <p>○7月～10月 調査結果の分析・報告、ポスターセッションの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松市役所へ調査結果の報告、アドバイスを受ける。 ・調査結果を集計、分析し、今後の活動を協議する。(紹介動画、観光マップの作成に決定) ・A1判にこれまでの内容をまとめ、校内中間報告会にてポスターセッション。 <p>○11月～2月 地元店舗紹介動画の作成、観光マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介動画作成のため、地域店舗のピックアップおよびインタビュー依頼。 ・観光マップ作成にあたり、北陸学院大学の教授より観光資源分析の手法について講義を受ける。 ・生徒端末を活用し、取り組み内容をスライドにまとめ、発表。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>北陸新幹線敦賀延伸による経済効果をさらに高めるため観光分野に重点を置き、高校生の視点から地域活性化や関係人口増加へ貢献できる観光人材の育成を図るとともに、消費者への意識調査やその結果をもとにしたアイデアの考案などの活動を通してより実践的なマーケティング手法を身につける。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>活動成果をより確実なものにするため、専門家に依頼し事前指導、事後評価に協力していただいた。調査項目作成、マップ作成時に生徒の端末を用いて全員の活動機会確保を図った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>取組姿勢、発表、制作物(観光マップ、動画)、学習状況の振り返り(日誌等)</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元地域の現状や課題、魅力を再発見することにより、地域に対する愛着も深まりより主体的に動く姿が見られた。 ・老舗店舗の方や大学生との交渉や交流を通して幅広い世代とコミュニケーションをとる力を身につけることができた。 ・意識調査の実施やSWOT分析から実践的なマーケティング手法を学ぶことができた。 			

(2) 課題

- ・作成した紹介動画は小松駅で開催されたイベントにて期間限定で流されたのみで現在はどこにも公開されていない状況である。広く公開できるインターネットやイベント等の機会を模索する必要がある。
- ・観光マップの設置について、小松駅だけでなく加賀地区や金沢地区の駅や駅周辺の宿泊施設へ依頼しより多くの人に手に取ってもらう工夫を凝らす。

4 今後に向けて

生徒一人1台端末により一人ひとりに役割を与えることで生徒はやりがいをもって主体的に取り組んでいるように感じた。今後も引き続き活用していくとともに、さらに効果的な活用方法を模索しより深い探究活動になるよう研究を続けていきたい。



インタビューの様子



作成した観光マップ

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	石川県	学校名	石川県立金沢商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：2単位）		
連携活動の相手先	企業、地方公共団体、自校 株式会社 王座金商 など		
1人1台端末 以外の使用機器等	ロイロノート、Notion、ChatGPT		
<p>1 授業概要</p> <p>(1)年間計画 4～5月 仮説構築、調査研究、発表 6～9月 実習 10～12月 実践、検証 1～2月 発表、次年度へ向けて</p> <p>(2)活動内容 ・仮説構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>仮説：「旅行業の新しいビジネスモデル」には「お土産」に可能性がある 旅行事業部の活動をフロントエンド商品としての機能させる</p> </div> <p>・実習 ①パッケージデザインの考案 ②オリジナルおみくじの制作 ③販売促進活動</p> <p>・実践、検証 ①オンライン販売の実践 ②「金商デパート」での販売 ③兼六園観光協会との意見交換 ④校内放送ラジオ ⑤兼六園ガイドでの販売活動</p> <p>・発表 ①校内課題研究発表会 ②県商業生徒発表会（中止）</p> <p>2 連携活動及び1人1台端末と活用法のねらい・工夫・評価</p> <p>(1)ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説の構築のために自分の考えを表現する。 ・考えを深め、発表もスムーズにする。 ・企業に制作協力、アドバイスをもらうことでクオリティの高さを追求する。 <div data-bbox="893 1075 1364 1243" data-label="Image"> </div> <p>(2)工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの活用（全ての生徒の考えを表現することを可能） ・Notionの活用による企業との意見の共有（データの管理が容易） ・ChatGPTの活用によりネーミングの選考（アイデアの拡張） <p>(3)評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動状況、取組姿勢、レポートの作成・発表、学習状況の振り返り <p>3 成果および課題</p> <p>(1)成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギフトボックスは2023年9月上旬に完成し、様々な販売促進活動の実勢は順調に行うことができました。これらの取り組みには大きな可能性を感じることができました。 <div data-bbox="1045 1265 1372 1624" data-label="Image"> </div> <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼六園ガイドの主なターゲットである修学旅行生への販売経路がまだ確立できていないため、フロントエンド商品としての機能の確認ができていない。今後効果的な販売経路の確立を目指す必要がある。 <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究では、王座金商旅行事業部の取り組みに焦点をあて、観光を通じたCSR活動の実践と、フロントエンド商品としての機能の追及について検討してきたが、今後の時代の変化をいち早く察知し、活動の方向性を常に見直し、挑戦し続けていきたい。 			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	福井県	学校名	福井県立敦賀高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年・3単位)		
連携活動の相手先	福井県立若狭東高等学校, for Good (ボーダレス・カンパニオ)		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education, Zoom		

1 授業概要

(1) 年間計画

- 4月～ 7月 地域活性化イベントの考察とフィールドワーク 若狭東高等学校との協働授業 全国産業教育フェア販売実習準備
- 9月～ 3月 全国産業教育フェアでの販売実習 地域活性化イベントの企画・運営

(2) 活動内容

- 4月～ 7月 イベントへの企画・立案 イベントについての意見交換 (Google Meet) 敦賀市街地の現地調査 イベント (若狭東高等学校主導) の説明と意思統一 イベント (若狭東高等学校主導) への参加
- 9月～ 3月 イベント (敦賀高等学校主導) についての説明, 意思統一 クラウドファンディングの計画, 実施 校内課題研究発表会 イベント (敦賀高等学校主導) の企画・運営・・・若狭東高等学校との協働 ふりかえり



2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

- イベントの企画・運営を通じて、地域の課題を発見し、アントレプレナーシップを身に付ける。また、主体的な学びを行い、思考力を持って行動できる実行力を身に付ける。
- 学校間連携によって互いの地域課題を発見し、提案することで角度を変えた新たな気づきを生み出す。
- クラウドファンディングを利用することでよりビジネスを意識したイベントの企画・運営を行う。

(2) 工夫

- 学校間のコミュニケーションをスムーズにするために、Google Meet を活用した。オンラインで企画説明や意見交換を行うことで、良好なコミュニケーションが取れた。両校での時間割調整を行った。
- Google Classroomで両校のメンバーのための「クラス」を作成し、両校の生徒間の情報共有をスムーズに行った。
- Google Jamboardで協働授業を行う際の意見集約を行った。

(3) 評価

- グループ活動状況、活度への主体的に取り組む姿勢、企画書の作成・発表



3 成果及び課題

(1) 成果

- オンライン会議の際に、各生徒の顔がわかることで発言等にも責任を持って、協働的活動への参加意識を高められた。物理的な距離をGoogle Meetの利用によって両校を「つなぐ」ことが容易となり、また生徒は1人1台端末によって両校間で授業時間外でも主体的にコミュニケーションを取る事ができた。クラウドファンディングを活用することで、生徒たちは地域からの期待度を知ると同時に1人1人が端末を使って進捗度を支援者に報告できた。

(2) 課題

- 端末に向かう時間が多くなることで情報収集に終始してしまわないよう、思考する時間を設定していく必要がある。

4 今後に向けて

- 端末を活用した上で自らの考えをまとめ、他者の意見を集約・検討するためのツールを積極的に利用したい。簡単に情報収集をインターネットに頼るのではなく、まずは生徒自身が考え、創造性をもって課題に取り組む習慣を身に付ける必要がある。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	長野県	学校名	長野県飯田0IDE長姫高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：3単位）		
連携活動の相手先	飯田市産業経済部商業観光課、セイコーエプソン株式会社 株式会社システム・サイエンス、株式会社クレストック、ケー・グラフィックス		
1人1台端末 以外の使用機器等	スマートグラス（EPSON製：MOVERIO BT-40S） PORECT（システム・サイエンス製：スマートグラスへの一斉配信機器）		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 飯田市中心市街地における課題調査、スマートグラスやXRにおける知識のインプット ・7月～8月 地域住民や飯田市役所職員に対するワークショップの実施 ・9月～10月 コンテンツ作成 ・11月 イベント実施 ・12月 まとめ、論文執筆 <p>(2) 活動内容</p> <p>[令和4年度：スマートグラスを用いて飯田市への移住・定住促進に貢献するためのコンテンツ作成を実施] 生徒自らが主催者となり、高校生や飯田市役所職員向けにワークショップを実施。飯田における「農業」「焼き肉」「天竜峡」を題材とし、360度カメラを用いて動画を撮影。スマートグラスを覗くと様々な映像を閲覧できるようにして、飯田市への移住・定住に対する気持ちがどのように変化するのか調査を実施した。</p> <p>[令和5年度：飯田市中心市街地の歩行者数に焦点を当て、体験型謎解きゲームを作成] コロナ禍以後、中心市街地の主要施設における利用者が増加傾向にある一方、歩行者通行量は減少していることに着目。スマートグラスを用いて体験型謎解きゲームを行ってもらい、中心市街地を歩いてみたい気持ち等がどのように変化するのかを調査・分析した。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な大人と接することで、社会人基礎力を身に付ける。 ・実践に終始するのではなく、根拠に基づいた研究を行う。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の調査をまとめる際に、Googleスライドを用いて共同作業を実施した。 ・研究成果を論文として執筆する際に、Googleドキュメントを用いて編集作業を実施した。 ・生徒の名刺を自身で作成し、名刺交換の経験をさせることでビジネスマナーを醸成させた。 <p>(3) 評価 日々の活動状況や取り組み姿勢、共同編集作業における作業割合等</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と連携してコンテンツを作成し実践できたことで、PDCAサイクルを経験させることができた。 ・論文執筆を通して、根拠に基づいた調査結果を提示する経験をさせることができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートグラスを用いての実験が一度限りであるため、データのサンプル数が少なく、偏ってしまっている点が挙げられる。 <p>4 今後に向けて 1人1台端末を用いる最大のメリットは、共同編集ができることだと私は考える。一方で、面と向かったコミュニケーションの必要性も大きいことから、バランスの取れた学習を進めていけるようにしていきたい。</p>			

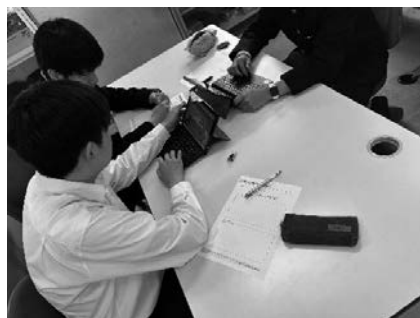


1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	長野県	学校名	長野県松代高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年・4単位)		
連携活動の相手先	松代商店会連合会、NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会、 長野商工会議所松代支所		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～9月 職業資格の取得に向けた学習 10月～1月 地域連携学習、課題研究発表会 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～9月 職業資格の取得に向けた学習 簿記、情報処理、ビジネス計算、ビジネス文書などの検定上位級取得に向けた学習。 10月～1月 地域連携学習、課題研究発表会 <ul style="list-style-type: none"> 10月 プレゼンテーション学習 (他者紹介、松代高校の魅力についての発表) 11月 NPO法人の方からお聞きした「松代町商店街の現状と課題」の講演内容と、グループ毎に担当商店を決めて取材した内容を、Googleドキュメントにまとめる。 12月 Googleマイマップ上に、商店の位置情報、特徴、営業時間、定休日、電話番号と詳細情報をまとめたURLを掲載するために、グループ毎に商店情報を作成する。 1月 「商店の魅力と課題」に関するグループ毎の発表に向け、Googleスライドを作成する。 商店街の方や学校関係者を招待し、Googleマイマップの発表と課題研究発表会の実施。 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 松代高校が立地する松代町以外から通学する生徒も多く、地域の方から直接お話を聞いたり、実際に商店街に足を運ばせ、松代町の良さを感じ取らせるとともに、松代町の課題に目を向けることで、生徒自らが「こんな町であってほしい」、「こんな町にしたい」と考える力や創造性を育みたい。 3人のグループ単位で、商店に伺い、何回か取材をして商店と関わることによって、商店の魅力を発見したり、コミュニケーション能力の大切さ、高校生に対する商店の方々の期待を感じ取ってほしい。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 3人のグループ単位での調査、研究、発表を通して、役割分担を決めて仕事を進めたり、3人で協力して取材や発表を行えるようにするために、Googleドキュメントやスライドの共有機能を利用した。 効果的なプレゼンテーションを紹介し、Googleスライドでプレゼンテーションを繰り返し行った。 <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、取材に取組姿勢、Googleドキュメントやスライドの内容、発表内容、振り返り</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>商店に伺うまでは、上手くコミュニケーションが取れるかを心配する生徒もいたが、実際に伺ってみると、たいへん好意的に取材に応じていただいた商店が多く、商店や商品について丁寧に教えていただき、Googleドキュメントに商店情報をまとめやすかった。また、取材と商店情報の確認も含め5回は商店に伺い、親しくなるにつれて、生徒が商店のためにできることを真剣に考えるようになった。</p> <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 取材先の商店にWi-Fiが整備されていない場合もあり、帰校してからGoogleドキュメントにまとめた。 商店に伺う日時についての連絡はすべて教員側で行ったが、2回目以降は、Google Workspace for Educationの機能を活用し、生徒側から連絡がとれる環境と手段について考えたい。 			
<p>4 今後に向けて</p> <p>現在、生徒が作成したGoogleマイマップを、学校のホームページにリンクを張り、パソコンやスマホから商店情報を検索できる状況にある。今後も1人1台端末を有効に活用して、掲載した商店情報の更新を定期的に行うことと、掲載する商店や観光地を毎年増やしていき、松代町を世界に向けて発信していく。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	静岡県	学校名	静岡県立浜松商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	企業 (天竜森林組合)、地方公共団体 (静岡県林業振興課)		
1人1台端末 以外の使用機器等	Ipad		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>4月～6月 新入生に向けた学校紹介用の動画コンテンツを作成し、校内に設置されたデジタルサイネージにて公開する。</p> <p>7月～9月 文化祭の来場者に向けた学校紹介用の動画コンテンツを作成し、校内に設置されたデジタルサイネージで公開する。</p> <p>7月～3月 企業・地方公共団体と連携し、地域課題の解決に繋がる動画コンテンツを作成し、静岡県林業振興課公式Youtube等で公開する。 天竜森林組合・静岡県林業振興課と連携し、林業の人手不足解決のためのPR動画を作成。</p> <p>(2) 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動画のターゲットや内容についての企画会議を行い、企画書を作成。 2. 企画書をもとに、授業内プレゼン用のプレゼン資料と発表原稿を作成。 3. すべてのグループが授業内プレゼンを行い、相互評価。 4. プレゼンのフィードバックを行い、企画書の修正。 5. 修正を加えた企画書をもとに、動画を作成。 <p>※企業・地方公共団体との共同企画においては、授業内での講話やディスカッションを実施。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 地域課題への理解を深めるとともに、課題解決のための発想力、調整力、計画性などを育成する。</p> <p>(2) 工夫 1人1台端末を活用し、情報収集や資料作成を行う。 これまでに学習したマーケティングの知識を活用し、適切なテーマ・ターゲットの設定を行う。</p> <p>(3) 評価 企画書、プレゼン発表、レポート、学習の振り返り等</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 企画の立案からコンテンツの完成までを生徒が主体的に行うことで、これまでの学習を通して身に付けた知識や技術を活用することができた。また、企業・地方公共団体との連携を通し、地域課題への理解を深めながらコンテンツの公開するという目標を達成した。</p> <p>(2) 課題 企業や地方公共団体との日程や内容の調整自体を生徒が行えるようにするための仕組み作りが必要であった。</p> <p>4 今後に向けて 情報収集や資料作成などの用途だけでなく、さらに幅広く一人一台端末を活用できる方法を検討する。 さまざまな分野の企業や団体と連携を図り、地域課題の解決に向けた取り組みを拡大させたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	愛知県	学校名	愛知県立半田商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年・3単位)		
連携活動の相手先	ひいらぎ特別支援学校		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・ 6月 第1回目の交流
- ・ 6月～9月 第2回目の交流に向けた準備
- ・ 9月 ひいらぎ特別支援学校の教員と本校生徒による内容のすり合わせ
- ・ 12月 第2回目の交流会

(2) 活動内容

- ・ 6月 自己紹介を含めた交流
- ・ 6月～9月 第1回目の交流の内容を元に障がいの程度に合わせた活動内容の選定と実行案の作成
- ・ 9月 Zoomを使用し、生徒の考えた実行案の細部を打ち合わせ
- ・ 9月～12月 9月の打ち合わせを元に交流の細案の作成
- ・ 12月 交流の細案を元に第2回目の交流会

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

多様性が叫ばれる昨今、障がいのある生徒と交流することにより、相手の気持ちや立場に立った考え方を広げ、多様性についての理解を深める。

交流会の案の作成から実行までを生徒主体で行い、計画性、実行力、コミュニケーション能力の向上を図る。

(2) 工夫

Zoomを使用し、本校生徒による交流会案のプレゼン、細部に渡る内容の打ち合わせを行う。

(3) 評価

グループごとの活動状況の観察、交流会での実践状況、レポートの作成、交流会の活動報告状況など。



3 成果及び課題

(1) 成果

ひいらぎ特別支援学校の先生方から実際にアドバイスを受けることにより、障がいに対する理解や生徒自身が作成した交流会案をより深いものにすることができた。また、交流会を通じて生徒の達成感や自己肯定感を高めることができた。

(2) 課題

日程のすり合わせ等も生徒が主体となることができれば、さらに社会へ出た時の実践力が高まると考えられる。

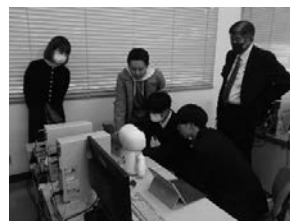
4 今後に向けて

Zoomを使用することで時間や場所に左右されにくい環境下で活動を行うことができた。今後もZoomだけではなくさまざまな場面で1人1台端末を有効に活用していきたい。





また、この講座の中では中学生に向けたマナー講座等の別の活動も行っているため、他の活動の中でも積極的に利用していきたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	愛知県	学校名	愛知県立東海樟風高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	名古屋国際工科専門職大学、イオンモール常滑 愛知県サービスロボット社会実装推進事業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Kebbi Air (AI搭載コミュニケーションロボット)、Tello (ミニドローン)		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～7月 Telloによる飛行制御アルゴリズムの探究 ・ 8月 Kebbi AirやTelloを活用した中学生向け学校説明会での発表 ・ 9月～2月 Kebbi Airによる高大連携授業とコミュニケーションプログラムの開発、発表 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～7月 Telloによる飛行制御アルゴリズムの探究 障害物を回避しながらゴールまで飛行する航路をチームで協力して考える課題に取り組む。チームで協力して、複数機によるデモンストレーション飛行の発表を行い、芸術性を競う。 ・ 8月 Kebbi AirやTelloを活用した中学生向け学校説明会での発表 県内地区内で行われる中学生向けの進学説明会に参加し、Kebbi Airを使用して学校紹介の発表を行う。学校紹介用のプログラムは、昨年度の課題研究選択者(卒業生)が製作したのを使い、次年度に向けて、学校紹介の内容を考える。 ・ 9月～2月 Kebbi Airによる高大連携授業とコミュニケーションプログラムの開発、発表 専門職大学との連携で、より高度なアルゴリズムを学び、企業と協力して社会実験を行う。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>これまで得た商業の学びの中のプログラミングの知識を活用し、ドローンやロボットの飛行・行動のアルゴリズムに応用する。また、専門職大学や企業との連携の中で、プレゼンテーション技法と情報発信、コミュニケーションの大切さを認識する。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>ドローンやロボットのプログラミングには1人1台端末を最大限活用し、校外活動での利便性を体験した。また、卒業生の作品を参考にして、より発表内容を昇華させた。</p> <p>(3) 評価</p> <p>取り組み姿勢、プログラムのソースコード、プレゼンテーション及び発表、グループ活動</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>商業の学びを活かして、ドローンやロボットのプログラミングを実践し、中学生向けの進学説明会では、中学生とその保護者に笑顔で対応し、コミュニケーション能力を向上させた。</p> <p>愛知県サービスロボット社会実装推進事業に参加し、イオンモール常滑にて、来客の幼児に生徒達が作成したロボットのゲームを披露した。</p> <p>(2) 課題</p> <p>現状、専門職大学や企業とのオンライン会議や連絡は、教員が行っているが、自分たちで連絡・調整ができると良いと考える。アポイントなどビジネスコミュニケーションを学べる機会と捉えたい。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末より、自宅や校外での学習を継続的に行うことができるため、活用の幅が広がっている。今後は、急速に普及している生成AIに関する学習も取り入れたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立大垣商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 5単位)		
連携活動の相手先	3年: 大垣市・NEXCO中日本・大垣菓子業同盟会・(株)ヤマニパッケージ		
1人1台端末 以外の使用機器等	Microsoft Teams		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～9月 テーマ設定、調査研究、商品開発プレゼン会、商品開発 ・10月～1月 販売準備、販売実習、成果発表会 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣市の「観光プロモーション」をテーマに課題研究の授業を展開していった。 大垣市のインバウンドプロモーションを進めたいという思いと、台湾の台湾バナナを日本に広めたいという思いがあることを知り、大垣菓子業同盟会の協力のもと、台湾バナナを利用したお菓子開発を行った。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>調査研究</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>台湾とのオンライン交流</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>商品開発プレゼン会</p> </div> </div> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見・調査し、その課題を解決する力を養う。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEXCO中日本様から台湾に関する講演を賜り、その後台湾の現地職員の方々とオンラインで交流を行った。台湾での流行りの味や好みを知り、どのような商品を作るべきか考えるヒントになった。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動状況 取組姿勢 レポートの作成・発表 学習状況の振り返り <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業を通じて大垣市の観光資源を再確認することができた。 そして、さらに地元に対する理解を深めることができた。 大垣市の課題を調査し、その課題解決について取り組むことができた。また、台湾との交流を通じてグローバルな視点で課題研究の授業に取り組むことができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は初めて海外と連携をしたため、台湾の事情が分からず、台湾バナナの仕入にてこずってしまった。また、訪台日程の調整も取り掛かりが遅かったため実現できなかった。 <div style="text-align: right;">  <p>新聞記事掲載写真</p> </div> <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を効果的に活用し、連携授業をスムーズに進めていきたい。 ・この取り組みは来年度以降も継続して実施していく予定である。来年度は台湾現地での大垣市の観光PRや開発商品の試食会などを実現させたいと考えている。 			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	三重県	学校名	三重県立四日市商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究「アントレプレイヤー(起業家育成講座)」(3年・2単位)		
連携活動の相手先	四日市商工会議所、日本政策金融公庫、近鉄百貨店四日市店、高崎商科大学高見ゼミ生		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Classroom、Zoom、Googleドキュメント、Googleスライド		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～9月 近鉄四日市駅周辺の困りごとを解決するビジネスプランの作成 ・10月～12月 近鉄百貨店四日市店で作成したビジネスプランをもとに新たな取組を实践 ・1月 活動報告 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～9月 近鉄四日市駅周辺の困りごとを解決するビジネスプランの作成 起業家の体験談を踏まえた講演、ビジネスアイデアの発想法、四日市市の抱える課題や地場産業の解説などのレクチャーを受ける。 作成したビジネスプランの中から実現可能な取組を、近鉄百貨店四日市店で実践できるように、グループワーク、フィールドワークを実施するとともに、作成したビジネスプランをオンラインにて大学生に提案することで、ブラッシュアップを図る。 ・10月～12月 近鉄百貨店四日市店で作成したビジネスプランをもとに新たな取組を实践 ・1月 活動報告 プレゼンテーションで活動報告を行う。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>自分たちの住む街の付加価値を上げてくれている近鉄百貨店四日市店と連携を図りながら、駅周辺の抱える課題を高校生ならではの視点を活かしたビジネスプランを提案することで解決を図るとともに、生徒自身の起業家としての考え方や知識を醸成する。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>Google Classroomを使用して、教材の共有や提出物の提出、Googleドキュメントを使用してオズボーンのチェックリストからアイデアを広げ、Zoomを利用して発表およびブラッシュアップをオンラインにて行う。また実際に近鉄百貨店四日市店に調査・ヒアリングを実施する。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、取組姿勢、振り返りシート、ビジネスプランの発表、報告書の内容など</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>同じ目的を持った大人達が、真剣に生徒の意見に耳を傾けてくれたことで、生徒は、大人達とともに社会を作っていくという実感を得ることができた。また誰もが思いつくようなアイデアではなく、ターゲットをピンポイントに絞り込むことで新たなビジネスが生まれることも学ぶことができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>起業家としての幅を広げるために、ビジネスプランコンペに参加をしたが、そのビジネスの実現化に至るまでは、多くの課題があるように感じる。また、この新講座は、多くの生徒に学んで欲しい内容であるが、認知度が低いため選択者が少なかった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>引き続き、近鉄百貨店四日市店と連携し、街のために高校生に何ができるかをセッションしながら取り組むとともに、生徒自身の起業家としての考え方や知識を醸成させていきたい。</p>			



スライドを使ってまとめた内容を発表する様子



商工会議所、日本政策金融公庫の方と意見を出し合っている様子




オンラインによりビジネスプランのブラッシュアップをしている様子

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例



都道府県名	三重県	学校名	三重県立松阪商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (地域アンバサダー)		
連携活動の相手先	紀北町役場、オールニッポンレノベーション株式会社、立命館大学学生		
1人1台端末 以外の使用機器等	Jamboard , Google Classroom		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>1 学期 商業施設「VISON」と地域創生・観光促進</p> <p>2 学期 デジタル田園都市国家構想と電子マネー「VISON PAY」の普及活動</p> <p>3 学期 学習成果発表会 (校内) での活動報告</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>5 月 学校PR動画作成</p> <p>6 月 三重県北牟婁郡紀北町訪問、地域活性化のための会議に立命館大学学生と参加</p> <p>7 月 生徒商研での発表</p> <p>10 月 デジタル通貨「VISON PAY」の普及に向けての取り組み</p> <p>1 月 学習成果発表会 (校内) での活動報告</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>多気町が進めるデジタル田園都市国家構想の中核である商業施設「VISON」の集客力を利用し、「VISON」への宿泊者をターゲットとした「観光PR」により美村地域の観光活性化を目指す。</p> <p>地域連携による課題解決学習、協働学習を通じ、地域の課題解決に向き合う姿勢と、態度、納得解への道筋を探究し、予測不可能な社会で主体的に生きる力を身につける。汎用クラウドの活用能力や活動内容をWeb・SNSなどで発信する力を身につける。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>多様性に基づく発想をサポートする仕掛けとして、クラウドを利用した、外部講師・起業家とのリアルタイムなデータ共有や同時編集、オンラインによる意見交換などを通じICT機器を活用する主体性と情報リテラシーが向上するよう段階的に課題を設定した。</p> <p>また、その効果を検証するためインターネットによる発信を通じアクセス数の分析やニーズについて考察し改善策の検討を行った。</p> <p>さらに、学校外のコンテストに参加するなどし、学習成果の共有を図った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、取組姿勢、振り返りシート、動画等制作物、外部講師のフィードバック</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>地域の課題を主体的に解決しようとする産官学が連携し、地域創生について意見を出し合うことができた。特に、紀北町が直面するオーバーツーリズムについては、立命館大学とのフィールドワークを行うなど、さまざまな年齢の方々との活動や、発表がICT活用能力とコミュニケーション力の両面で向上した。</p> <p>(2) 課題</p> <p>地域連携が外部との持続可能な学びの場となるよう、関係の持続が必要</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>地域の課題解決に向け、データの収集、分析のためのビッグデータの活用、地域連携のためのコミュニケーションツールとして汎用クラウドの活用、SNS発信のためのレギュレーション作りなど、生徒が主体的に活用に参加するツールとして、1人1台端末を活用していく必要がある。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	京都府	学校名	京都府立京都すばる高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年・4単位）		
連携活動の相手先	台北市立士林高級商業職業学校（士林高商）、京都府内の企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Meet、Zoom（オンライン会議アプリ）		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～8月 京都府内の企業と連携し、台湾での販売に向けた商品を開発 ・9月～12月 士林高商とオンライン会議（月1回）、国内でテスト販売 ・12月 台湾・台北市内で士林高商生と共同販売実習 ・1月 研究発表会 ・3月 京都市内で士林高商生と共同販売実習 <p>(2) 活動内容（1人1台端末を活用した内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業とのオンライン会議 ・士林高商生とのオンライン会議 ・個人およびグループワーク時の調査研究 ・校外学習や販売実習時の記録写真撮影および広報活動 			
			
			(オンライン会議の様子)
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府内の企業と開発した商品を、台湾の高校生と現地で共同販売することにより、地域の魅力を生かしたグローバルなビジネスマインドを育成する。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議や調査研究活動を行う際、学校のノートパソコンのほか1人1台端末を活用する。 ・グループ内で「記録・広報担当者」を決め、校外学習や販売実習時は端末で写真や動画の撮影を行い、次年度に向けた記録と情報発信（広報活動）に使用する。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加状況、ルーブリック、レポート、相互評価等 			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用することで、授業時間外に各生徒が自宅等から参加することが可能となり、連携企業のスケジュールや台湾との時差にも柔軟に対応することができる。 ・生徒が進んでSNSに授業の様子を発信してくれるようになり、学校の広報活動が活発になる。 <p>(2) 課題</p> <p>士林高商とのオンライン会議では生徒を4グループに分けてGoogle Meetを使用するが、グループごとに別のミーティングを設定するため、教員が全体の進行状況を把握するのが難しい。 →解決策：士林高商側と調整し、Zoomのブレイクアウトルームの使用も検討する。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>レポートや相互評価等にも1人1台端末を活用し、集計・評価作業のDX化を図りたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	京都府	学校名	京都府立京都すばる高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (起業創造科3年・3単位)		
連携活動の相手先	校内の授業担当者間の連携		
1人1台端末 以外の使用機器等	株式会社LoiLo 「ロイロノート・スクール」		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 1学期 (5月～6月) 4回 2学期 (9月～11月) 4回 計8回</p> <p>(2) 活動内容 ・科目「課題研究」の評価の標準化のために、ロイロノートを活用した共通小テスト「ゼミテスト」を実施する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい ・科目の特性上、生徒全員が同じ場所に集まれないことが多いが、「ロイロノート」を活用して、それぞれのグループの居場所で同時刻に実施することができる</p> <p>(2) 工夫 ・実教出版の「事例探究ワークブック」を教科書として使用しており、すべてのゼミで共通して学習する「探究活動に関する知識・技術」を題材として作問している。</p> <p>(3) 評価 ・3観点評価のうちの「知識・技術」の評価材料として組み入れ、科目全体での評価の標準化ができています</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 ・解答後すぐに自動採点が行われることで、生徒がすぐに正答を確認することができ、知識の定着が向上している ・ペーパーレス化、採点の自動化、データ集約のしやすさ、など教員のタスクの軽減にも寄与できている</p> <p>(2) 課題 ・タブレット、アプリケーションの操作が苦手な教員へのフォローがまだ必要であること</p> <p>4 今後に向けて ・運用ルールを工夫し、授業を欠席した生徒が自宅から小テストを受験できる体制を取りたい</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	奈良県	学校名	奈良県立奈良商工高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：2単位）		
連携活動の相手先	奈良市商工会議所、各企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education・電子黒板・ロイロノート		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>① 4～6月 テーマおよび活動内容の設定（地域のお祭りへ出店し、地域を盛り上げる）</p> <p>② 7～8月 活動に向けて準備</p> <p>③ 9～12月 地域のお祭りにて活動、商工会議所との反省会、発表準備</p> <p>④ 1～2月 発表後の反省と改善、引き継ぎ資料作成</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>① 4～6月 「地域貢献」をテーマとして活動内容の設定 生徒たちの取り巻く環境を基準として、現状把握・背景の調査、分析を行いテーマに沿った目標の設定を行う。活動内容と計画の作成。</p> <p>② 地域連携として商工会議所の方々と打ち合わせ、ならびにお祭り出店への準備 準備内容：売上目標の設定、出店内容の決定、取扱商品の選定、プレテスト</p> <p>③ お祭りに出店後、商工会議所の方々と事後の反省会ならびに年度末の校内発表に向けて資料作成。</p> <p>④ 発表後の反省と改善。次年度の後輩に向けて、取り組みの課題と改善案を作成し、引き継ぎ。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、校外で活動することによって、社会で生きる対応力を身につける。 ・背景や現状を把握、分析することで自ら課題を発見、設定する力を身につける。 ・自己の経験や知識を組み合わせ、アウトプットし、課題解決に向けて取り組む力を身につける。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の方々に学校教育の方針等を理解して頂く打ち合わせを年に数回設けた。 ・生徒の体験や経験を重視するために、トライ&エラーが繰り返せる授業計画を立てた。 <p>(3) 評価 グループ活動状況、レポート作成・発表、学習状況の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 企業連携や校外での活動を組み合わせることにより、ビジネスマナーの実践形式での学びや自ら課題を発見し、解決していく力を身につけることができた。</p> <p>(2) 課題 いい意味でも悪い意味でも「高校生が作ったブース」となってしまった。生徒は単年度で活動を終わってしまうが引き継ぎ内容を充実させ、年数を重ねることで内容やブースの出店レイアウト等をより一層改善させる必要がある。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末を活用することで情報の共有やデータの視覚化が円滑に行うことができた。その結果、効率的に学習活動を行うことができた。ただ、デジタル化が進んだとはいえアナログな活動の方が却ってチーム意識が高まる活動もあった。どのツールをどのように使用すると良いかを生徒はもちろん、教員側も考えていく必要がある。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立和歌山商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	クラブ活動・課題研究		
連携活動の相手先	農業高校・メルカリ		
1人1台端末 以外の使用機器等	Teams		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 4月～5月 商品コンセプトの設定。 農業高校との打ち合わせ 6月 キックオフミーティング 7月 第1期販売</p> <p>(2) 活動内容 4月～5月 商品コンセプトの設定 農業高校との打ち合わせ。 キャッチコピー、商品案内文、 法規等の確認、商品写真撮影 6月 キックオフミーティング 農業高校と合同でミーティング 7月 販売サイト作成、販売開始</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 農業高校生と連携し、商品開発、商品PR、商品販売、クロージング、フィードバックまでを学ぶ。 全国のお客様に、和歌山の商品の魅力を知ってもらおう。また、積極的にPRしていく。 簿記を通して、会計業務を請け負う</p> <p>(2) 工夫 農業高校（南部高校 和歌山商業高校より80km遠隔地にある 紀北農芸高校 和歌山商業高校より50km遠隔地にある。 農業高校生（生産者に）にインタビュー 生産者の想い、苦勞、工夫した点等 Teams メール 現地訪問等を通じて</p> <p>(3) 評価 活動状況、インタビューの内容・取組姿勢 レポートの作成・発表 学習状況の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 部活動等の特別な場面以外で接点のない商業科と農業科の生徒が、ECをきっかけに協働する機会を得た。 1人1台端末と、付属するコミュニケーションツールTeamsを活用し、オンラインでの打合せや、販売に関する資料共有により遠隔地間でもコミュニケーションを密に取ることができた。 ともに専門学科であるが、互いにどういう活動をしているのか知らないところから、生産者として、また、販売者として同じ目的をもって顧客に向き合おうとする姿勢を学び取ったように感じる。</p> <p>(2) 課題 本実践において、1人1台端末及び付属するコミュニケーションツールの取扱いを連携校で確認していたが、生徒が個人で使いこなせるところまではできていない。授業実践において、授業者や顧問の手を離れても、端末を使用し生徒自身が自ら進んでより良い端末の使い方を探していけるような促し方や興味の持たせ方が必要と感じる。</p> <p>4 今後に向けて コミュニケーションツールや端末をより効果的に活用できるよう連携校同士での情報共有や、ビジネスの担当者から助言を受けて活用法を見直していきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立箕島高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：2単位）		
連携活動の相手先	有田市社会福祉協議会、有田市役所、空き家所有者など地域の方々		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～7月 地域の空き家の現状について行政からのヒアリングを受けた。空き家バンクを利用しDIY型賃貸をしている地域の方を取材した。 ・ 8月～12月 住宅・土地統計調査について地域の空き家の現状について分析した。RESAS、e-Statを使用し、様々なデータ活用により地域比較を行った。 ・ 1月～2月 発表内容をパワーポイントにまとめ、発表についての練習を行った。 ・ 2月 有田市異世代交流会にて市民の前で発表 <p>(2) 活動内容</p> <p>和歌山県立箕島高等学校情報経営科3年生の課題研究では、地域課題研究班、商品販売開発班、時事問題研究班に分かれ、フィールドワークを重視した活動を展開した。その中で、地域課題研究班は、「地域の空き家の現状と課題」について考察した。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>空き家の定義をはっきりとさせ、地域にとって問題となる空き家とはなにかねらいを定める。地域で空き家が増加している現状について仮説を立て、データをもとに立証する手法について習得させる。課題をみつけ、課題解決について何ができるか考えさせる。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>高齢化と核家族化が原因であるという仮説を立て、マクロ、ミクロ両面から分析をした。ミクロ分析では、全国で空き家率が高い2つの自治体と低い2つの自治体について、高齢化率、高齢者単独世帯率、1980年以前（旧耐震基準前）の住宅割合、5年間の人口増減率を比較しながら考察した。データの取得には、RESAS、住宅土地統計調査、国勢調査、有田市空き家実態調査などを使用した。また、フィールドワークを重ね、地域の方々への取材の機会を得た。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、レポートの作成、振り返りシート、取組姿勢などで評価した。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>「持続的なまちづくり」への取り組みであることが理解できた。SDGsへの探究であることも理解できた。行政のオープンデータから身近なデータが取得できることを理解できた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>「和歌山空き家のサブスク構想」という課題解決のための提言を行ったが、エビデンスを基に政策として実現可能性についても探究し、精度の高い政策提言ができるようにしたい。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>データ利活用により、地域課題を深める作業を進めてきた。何事もエビデンスを基にして現状を分析し、その解決のために何ができるかを考える機会を設けていきたい。今回の取り組みを契機に行政のみならず、NPO関係者、地域の方々と接することができた。こうしたパイプを大切にしていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立米子南高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年・3単位)		
連携活動の相手先	(株)とっとりずむ 代表取締役 酒本勇太氏 (株)GOOD GROW 代表取締役 亀井智子氏 (米子元町通り商店街振興組合理事)		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google スライド		
1 授業概要 <p>(1) 年間計画</p> <p>4月 観光に関する学習、幅広い視点をもつこと (ネット、図書館)</p> <p>5月 講演会等、アイデア共有</p> <p>6月 商店街フィールドワーク</p> <p>7月 公立鳥取環境大学の教員、学生からの指導助言</p> <p>8月 動画制作スタート</p> <p>9月～イベント準備</p> <p>12月 イベント実施、検証、発表準備</p> <p>1月 学習発表会</p> <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> - 4月 鳥取県の魅力等について考察 (ネット調べ、アイデア共有) - 5月 5/19 (金) 亀井さん講演会・アイデア共有 - 6月 6/9 (金) 商店街フィールドワーク (ラジオマジック、高橋茶屋、マルコ、みくくす、びおっと、遠藤全快堂) - 7月 7/7 (金) 米子市職員より米子市総合戦略についての講話 - 7月 公立鳥取環境大学経営学部竹内准教授 (マーケティング専門) と学生の御指導により方策を練る。 - 8月 情報発信のための動画制作 (SNS・ドローン等を活用) → 県教委主催「ふるさと魅力発見! CM動画制作」出品 - 9月～11月末 企画実施準備。 - 12月 12/3 (日) 「Beinan サンロードフェスタ」イベント実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応高校生よなごガイドブック / ・スマホでMOTOMACHIスタンプラリー / ・高校生制作PR動画紹介 / ・ティラノサウルスレース / ・元町歩いてInstagramフォトコンテスト / ・借り物競走 / ・高校生パフォーマンス / ・高校生が地域の未来を語るシンポジウム - 1月 「みつばち学習発表会」にて取組発表 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 地元商店街 (米子元町通り商店街) を観光地化・活性化するためのイベントを企画、実施することとおして、地域社会との連携を図ることで、地域への愛着及び学習したことを自らの人生や社会活動に生かす。</p> <p>(2) 工夫 準備の際に、端末を活用して外部の方とコミュニケーションツールとして使用 (指導助言含む)</p> <p>(3) 評価 グループ活動状況、イベント企画段階での取組姿勢、イベント当日の取り組み姿勢、発表、学習状況の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 ・オンラインを通じて直接的な指導助言を受けることで、生徒の取組のモチベーションアップにつながった。 ・効率的に準備を進めることが可能となった。</p> <p>(2) 課題 ・各ツール等について、多くの生徒が目的に対してどのツールをどのように活用したらいいか理解が不十分のため、教員が準備段階から関わらなければならない。</p> <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒には、さらに普段からあらゆる場面で端末を活用させ、目的に応じたツールの選択から意識させる。 			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	島根県	学校名	島根県立情報科学高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	企業 (MINIMAL ENGINEERING)		
1人1台端末 以外の使用機器等	macbook air、iPad、Scaniverse (3Dスキャン)、Adobe Aero (AR)、レーザー加工機、Google Workspace for Education		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・ 4月～ 6月 課題の発見、題材の決定、3Dスキャンのレクチャー等
- ・ 7月～12月 ARコンテンツの制作、情報ITフェアでの実演
- ・ 1月～ 2月 まとめ・発表 (課題研究発表会・関係各所)

(2) 活動内容

- ・ 4月～ 6月 地域の歴史に関する課題を発見し、IT技術を用いてその課題を解決する方法の考案
 - ・ 7月～12月 ARコンテンツを制作するために、必要な技術 (3Dスキャン方法や活用、アプリの利用方法)、画像生成AIに関するリテラシー、レーザー加工機による素材加工技術 (QRコード、パズル) 等の習得及び制作。(授業では、macbook airとiPadを使用し、データをクラウドに保存して、自宅においてchromebookを使用し、技術の復習とレポートの作成などを行う)
 - 12月の情報ITフェアで来場者へ作品の紹介・実践。
 - ・ 1月～ 2月 1年間の活動をまとめ、校内発表会および安来市立歴史資料館にて成果発表
- ※ 年間を通じて、IT人材育成事業として企業の方と授業を行い、技術的指導及びアドバイスをしてもらっている

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

- ①ソフトウェア開発の現場に必要な知識・スキルの習得
- ②中長期的な視野を持ち、将来、知識・スキルを発揮できる人材の育成
この2つをもとに、道具・手段としてのプログラミングにより課題の発見・解決を図る人材の育成

(2) 工夫

- ・ プロトタイプを作成し、実装しやすい環境 (検証と改善がしやすい環境) を準備した
- ・ ネットワークを利用しない手法 (環境に依存しない) を採用した

(3) 評価

グループ活動状況 (行動観察)、課題研究日誌、レポートの作成・発表 (レポートの作成・発表において、chromebook、iPadを使用)

3 成果及び課題

(1) 成果

地域の課題に対し、ITを用いて解決を図るための試行錯誤を繰り返したことにより、ITスキルだけではなく、コミュニケーション能力も向上した。

(2) 課題

授業の中で、生徒が企業の方に指導してもらうだけでは、時間が不足した。教員も企業の方から学ぶことで、関連する技術力を上げていくことが完成度を高めるために必要である。

4 今後に向けて

1人1台端末と様々なソフトウェアを合わせて使うことで、中長期的な視点を以って取り組める生徒の育成を目指していく。そのためにも、企業の方に協力依頼を続けることも必要だが、教員も関連する知識と技術を学ぶ環境を創出する。

また、今回の取り組みをきっかけとし、地域の魅力や課題を、本校で学ぶITスキルを活用して解決し、多くの人に学校の魅力を発信していく活動につなげていく。

情報ITフェアの様子 その1



情報ITフェアの様子 その2



月山富田城跡魅力向上策の成果報告の様子



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立倉敷商業高等学校																
科目名 (学年・単位数)	課題研究「倉敷AAA」(倉敷美観地区観光ガイド講座) 3年・2単位																		
連携活動の相手先	映像作家 地元企業																		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom																		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～ 6月 倉敷美観地区、観光産業等について知識を増やす ・9月～11月 ガイド実践に向けての準備・ガイド実践 ・12月～2月 1年間の振り返り <p>(2) 活動内容</p> <p>地域の産業や歴史などについて学び、地元の観光資源である倉敷美観地区で観光ガイドを行う。地域や日本文化への愛着や誇りを持つことで、将来地域に貢献する人材に成長することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～ 6月 倉敷美観地区でガイドを受ける・ガイドをされている方からガイドの心得を伺う 倉敷市の観光について、現状と課題を知る・フィールドワーク 倉敷生まれの製品について知る(地元企業によるレクチャー) 理想のガイド像を描く(グラフィックレコーディングとプレゼン発表) ・9月～11月 ガイド実践に向けての準備・リハーサル・ガイド実践 倉敷美観地区の成り立ちを知る(レクチャーとまち歩き) ・12月～2月 1年間の振り返り(個人レポート・グループ別プレゼン発表)・PR動画制作 																			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>サテライトオフィス分福からオンラインでの発表</td> <td>映像作家服部勝孝様を講師に迎えての映像制作</td> <td>カモ井加工紙岡本直人様によるオンライン講演</td> </tr> <tr> <td>(1)ねらい</td> <td>オンライン発表や交流の場を体験させることで、多様なコミュニケーション形態への対応力を向上させる。</td> <td>倉敷美観地区の魅力を客観的な視点で捉え、それをいかに伝えるかを考えさせ、映像作品にまとめさせる。</td> <td>倉敷生まれのマスクングテープについて、誕生の背景や企業戦略などを聴き、ガイド活動に活用する。</td> </tr> <tr> <td>(2)工夫</td> <td>発表の場を校外に設定し、ファシリテーターを置くことで非日常を演出し、発表に緊張感を持たせた。</td> <td>映像制作のエッセンスを学習しながら、作品制作の過程でプロのアドバイスを受けられるようにした。</td> <td>レクチャー後にマスクングテープを使用して収納ボックス製作を行い、製品に愛着を感じるようにした。</td> </tr> <tr> <td>(3)評価</td> <td>発表資料準備と発表練習の過程を観察</td> <td>映像作品とグループ発表</td> <td>学習内容や感想を記述した日誌</td> </tr> </table>					サテライトオフィス分福からオンラインでの発表	映像作家服部勝孝様を講師に迎えての映像制作	カモ井加工紙岡本直人様によるオンライン講演	(1)ねらい	オンライン発表や交流の場を体験させることで、多様なコミュニケーション形態への対応力を向上させる。	倉敷美観地区の魅力を客観的な視点で捉え、それをいかに伝えるかを考えさせ、映像作品にまとめさせる。	倉敷生まれのマスクングテープについて、誕生の背景や企業戦略などを聴き、ガイド活動に活用する。	(2)工夫	発表の場を校外に設定し、ファシリテーターを置くことで非日常を演出し、発表に緊張感を持たせた。	映像制作のエッセンスを学習しながら、作品制作の過程でプロのアドバイスを受けられるようにした。	レクチャー後にマスクングテープを使用して収納ボックス製作を行い、製品に愛着を感じるようにした。	(3)評価	発表資料準備と発表練習の過程を観察	映像作品とグループ発表	学習内容や感想を記述した日誌
	サテライトオフィス分福からオンラインでの発表	映像作家服部勝孝様を講師に迎えての映像制作	カモ井加工紙岡本直人様によるオンライン講演																
(1)ねらい	オンライン発表や交流の場を体験させることで、多様なコミュニケーション形態への対応力を向上させる。	倉敷美観地区の魅力を客観的な視点で捉え、それをいかに伝えるかを考えさせ、映像作品にまとめさせる。	倉敷生まれのマスクングテープについて、誕生の背景や企業戦略などを聴き、ガイド活動に活用する。																
(2)工夫	発表の場を校外に設定し、ファシリテーターを置くことで非日常を演出し、発表に緊張感を持たせた。	映像制作のエッセンスを学習しながら、作品制作の過程でプロのアドバイスを受けられるようにした。	レクチャー後にマスクングテープを使用して収納ボックス製作を行い、製品に愛着を感じるようにした。																
(3)評価	発表資料準備と発表練習の過程を観察	映像作品とグループ発表	学習内容や感想を記述した日誌																
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>倉敷美観地区を多角的に見ることを念頭に秋のガイド実践に向けての準備活動や実践後の振り返りの活動を行ったことで、生徒たちは倉敷美観地区をより客観的に捉えられた。また、「伝える」ことを意識してグループで協力しながら主体的な活動ができ、地域への愛着を深められた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>商業科・英語科・地歴・公民科の3教科担当者ならではの指導がまだ十分とは言えない。教科間の連携を推し進めることが本講座の発展につながると思うので、しっかりとした指導計画を立て、アイデアや情報共有の仕方などを工夫する必要がある。</p>																			
<p>4 今後に向けて</p> <p>一人一台端末を活用することで、遠く離れた外部機関とも容易に繋がれることから、ガイドプランを旅行会社にプレゼン提案するなど、積極的に端末利用×外部との連携を図りながら指導内容を充実させていきたい。</p>																			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	広島県	学校名	広島県立広島商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3学年: 2単位)		
連携活動の相手先	企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 ファイナンスに関するテーマを設定し、調査研究、テーマ発表 ・7月～1月 調査研究、講座内発表及び全体発表 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイナンスに関するテーマ設定、調査研究、発表 ファイナンスに関する課題を自ら設定し、課題の解決策を探究 研究論文 (2,000文字) の作成及びスライド等による発表 ・銀行や証券会社等の金融の専門家との連携 企業見学や専門家による講義、各生徒の研究内容に対する指導助言、発表時における指導助言 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>1・2年生で学んだ商業に関する専門的な知識・技術を活かして、探究の方法を学びながら、自ら解決したいファイナンスに関する課題を設定し、解決に向けた提案を考え、表現する力を育成する。探究の方法を学びながら、自ら解決したいを設定し、解決に向けた提案を考える。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>調査研究時には、BYODを活用し、実際に証券口座を開設して投資を行い、ベストな投資方法を研究したり、金融シミュレーションによって、景気の動向を調査したりするなど、実践的なファイナンスについて探究を行った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>活動状況や取組姿勢、日誌 (学習状況の振り返り)、研究論文及びスライド</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>銀行や証券会社に訪問して、直接、金融の専門家から話を聞くことで、Webページや書籍からでは分からないことを実践的に理解することができた。また、専門家から一人一人の生徒に対する研究について、助言をいただいたことで、課題発見や課題解決に向けた具体的な取組みや提案を考えることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>生徒が自ら課題を見付け、研究テーマを設定する際に、専門家との連携が十分にできなかった。そのため、比較的早い時期に生徒が専門家と協議できる環境づくりをする必要がある。また、生徒の研究に対する専門家からの指導助言について、回数が限られていたため、より充実した研究となるように、頻繁な連携が必要である。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>専門家の指導助言の機会は限られているため、対面での連携に留まらず、BYODを活用したオンラインによる対話にするなど、効果的な連携が必要である。また、大学等と連携し、多くの専門家から指導助言いただくための環境整備が必要である。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	広島県	学校名	広島県立尾道商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	NPO法人むかいしま seeds (ユースセンターズオノミチ)		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Google Workspace for Education、note、canva		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4～6月 尾道の魅力を調査研究、発表 ・ 7～9月 自己探究、マイ・ストーリーテリングの作成、発表 ・ 10～2月 尾道の観光人 (魅力を発信する人) についての探究活動 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4～6月 ユースセンターズの皆様と尾道の魅力についてグループディスカッション (対面・zoom) 各グループが魅力だと思う人・物・場所についてブレインストーミングする。尾道の起業家 (10名) へ取材、尾道の魅力発信の動画コンテンツの作成、発表。Formsで相互評価。 ・ 7～9月 自己探究を行い「マイ・ストーリーテリング」として自身の思いを映像化 (動画撮影、ナレーションやBGM挿入、作品発表会、Formsで相互評価) を行う。 ・ 10～3月 2グループに分かれての活動。①尾商デパートでのポスター、チラシ、CM等をcanva等で作成。校内コンペ後、代表作は尾道市内各所に掲示・配付。②オノショウ・ダイアログ・プロジェクト (尾道の魅力の発信者を取材)、校内発表会、校外イベントで作品発表、noteで発信等、地域の起業家の協力を得て魅力を発信する。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 課題研究での地元企業や地域の起業家等と連携し、これまで学んだ商業の知識・技術を活かし、地域の魅力を探究、デジタルコンテンツにまとめ作成及び発信を行う。</p> <p>(2) 工夫 地域で活躍する起業家 (移住者) 等を生徒が直接取材することで、尾道の町を見る視点が変化し、新たな魅力を発見、地域への愛着の醸成を図る。デジタルコンテンツの作成を通して、誰に何を伝えるかを考えさせた。ユースセンターズの協力で様々な人と交流でき、視野を広げ、ビジネスや企業への興味・関心、理解を深め、実践力を培うことができた。</p> <p>(3) 評価 個人・グループでの取組状況 (インタビューや作品制作に向けた姿勢、成果物の完成度)、振り返りワークシート、レポートの作成・発表、自己・相互評価</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 1人1台の端末で取材やまとめ、デジタルコンテンツの作品制作から発信まで、全ての活動を実施した。Google Workspace for Educationでグループや教員との共有が容易にでき、学習活動を効率的に行うことができた。振り返りや評価もClassroomやFormsを活用し、効果的に取り組めた。地域との連携による生徒の変容を瞬時にまとめ、地域の方々との共有ができることで活動内容をより効果的にするために実施・改善を繰り返すことができた。</p> <p>(2) 課題 4～6月の取材対象の選定が生徒主体にできなかった。どのようなインタビュー (質問) をすれば取材対象をより深く知り、魅力を知ることができるか、その練習が必要である。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>今年度は4～5月に質問ゲームを取り入れ、繰り返すことで人の考えや魅力を引き出す対話について体験的に学ぶ。自己の興味・関心について探究し、自分が取り上げたい地域の魅力 (人・物・場所) を主体的に決定し、取材活動や作品制作を行い、SNS等で発信する機会を増やす。また、他校と協働的な組織を構築し、地域の魅力を探究し、活性化を目指した校外イベント企画・運営、作品発表も行いたい。</p>			



ユースセンターズオノミチの皆様



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	山口県	学校名	山口県立萩商工高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究（3年：2単位）		
連携活動の相手先	萩市役所見島支所、萩市見島ふれあい交流センター、地域企業など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Google Workspace for Education		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・4月～7月 萩市見島の文化「鬼揚子」の伝統継承に関する調査研究、SNSでの情報発信、発表
- ・8月～3月 SNSでの情報発信、販売実習によるPR活動

(2) 活動内容

- ・4月～7月 萩市見島の文化「鬼揚子」の伝統継承に関する調査研究、SNSでの情報発信、発表
『島のプライドを未来へつなぐプロジェクト ～PRIDE OF THE ISLAND～』という活動テーマを掲げ、萩市見島の伝統継承に向けて情報収集し、現地の島民の方との意見交換を通じて、商品開発や広告宣伝活動、販売活動に向けた準備をする。
- ・8月～3月 SNSでの情報発信、販売実習によるPR活動
11月の萩商工祭、12月の本校でのイベントでの販売実習に向け、鬼揚子をモチーフにした商品開発や、SNSなどを利用して広告宣伝活動に取り組む。現地の方から技術指導を受けた高校生による、市内の小中学生に向けた製作体験活動を実施する。

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

- ・SNS班、企画・広報班、調査班に担当を割り振り、萩市見島の現状や課題、島民の方々の思いについて理解を深めさせる。その上で、目標達成のために必要な取り組みについて考え、市や地域企業と連携した体験活動を行うことで、課題解決をめざす。

(2) 工夫

- ・旅費および所要時間の都合上、島を訪れることが困難なため、Zoomを活用することで、島民の方々との繋がりを構築することができ、有益な情報交換を行うことができた。
- ・本校の生徒、教職員、保護者、萩市内の小中学校に向けて、1人1台端末を使用して意識調査のアンケートを実施（Google Form）し、多くの情報収集に努めた。

(3) 評価

- ・班の活動状況、取組姿勢、レポートの作成、発表内容、学習の振り返り。



写真①



写真②

【写真①、②】Zoomを活用した情報交換会の様子

3 成果及び課題

(1) 成果

- ・島の現状や課題などを現地の島民の方から実際に話を聞くことによって、調べ学習では学ぶことができない具体的な内容を知ることができた。

(2) 課題

- ・現地の方との情報共有や地域企業へのアポイントにあたって、生徒への事前指導や教員からの連絡が必要であるため、連絡・調整がうまくいかなかった点が挙げられる。

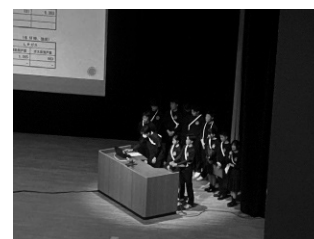
4 今後に向けて

1人1台端末を活用し、生徒がZoomやメールなどのツールを使いこなすことで、さまざまな学習活動を主体的かつ効率的に進めていけるように指導していきたい。

また、今回の活動を通じて関わった萩市見島の方々や地域企業との関係性を中長期的に構築し、持続可能な活動にしていけるよう、新たな挑戦を続けていきたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立西条高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	企業、J A、地方公共団体		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Teams		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 課題研究の班分けを行った。 輝安KOU房 地元の西条市にあった市之川鉱山の歴史や、輝安鉱の魅力について発信や研究を行う。また、輝安鉱石を使った各種商品の開発にも挑戦した。 防西'S 地域の防災リーダーを目指すことと、自分たちが学習した知識や経験を得ることによって防災スキルを高め、市民の方へ情報発信を行った。 商品開発班 地元農協と協力して、青のりを使ったクッキーの商品開発を行った。 5月～12月 各班での調査研究 1月 防西'SがSSH課題研究報告会に参加する。 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月～12月 それぞれの班で、課題や目標を設定し、実証するためにフィールドワークを実施した。地方公共団体や企業と協力して課題解決学習をしたり、商品開発を行ったりするなど、実践的な深い学びを行った。 課題研究で研究したことを、共同作業で、一人一台端末を利用し、ポスターを製作した。その後、大型プリンタを利用して、A1版のポスターにし、ポスターセッション形式で発表を行った。 SSH課題研究報告会で発表を行った。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>課題研究の班で、「地域活性化」をキーワードとし学習を行う。生まれ育った地域に誇りを持ち、積極的に行動する「意思」・「思い」・「心意気」を身に付ける。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>一人一台端末を活用して、遠隔地の調査をする場合はZoomやTeamsを使用し、調査・研究を行った。また、活動の内容を本校のホームページや市のSNSにて情報を発信することができた。</p> <p>(3) 評価</p> <p>活動内容、活動報告書、外部評価、学習の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>SSH課題研究報告会で、防西'Sが1年間の研究成果を西条市文化会館で全校生徒と有識者の前で堂々と発表した。また、一人一台端末等を活用した、ポスターも製作することができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>企業と学校の考えに隔たりがある時もあり、企業との調整が難しかった。また、生徒の事前指導や事後指導にも時間がかかった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>一人一台端末を積極的に活用して、学習効果を高めていきたい。生徒たちは、共同編集をすることで協働することの大切さを身に付けることができた。社会人として必要な自ら課題を見つけ、その解決策を発見し、行動できる自発的な学習についても学ぶことができた。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立小倉商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年・2単位)		
連携活動の相手先	地元企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	電子黒板		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～ 5月 今年度の活動企画書を作成 ・6月～ 7月 企業へ連絡・訪問 ・7月～12月 HP更新、新商品提案など具体的な活動 <p>(2) 活動内容</p> <p>Web倉商マーケットとして6店舗出店しており、先輩から引き継いでいる。1店舗4名で担当。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～ 5月 昨年の反省を踏まえ、今年度取り組みたい内容を考える。 ・6月～ 7月 企業へ訪問し、考えた内容の摺り合わせを行う。 ・7月～12月 企業との打ち合わせ内容にしたがい、HP更新、新商品開発など具体的な活動に取り組む。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍から始まった取り組みで、地元企業支援が目的であった。Web販売の運営をとおして、Webデザインやマーケティングなど既習内容と実体験との違いからこれまで学習した内容について探究させる。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用することでチーム作業を分担させることが可能となり効率的に業務を進めることができた。 <p>また、アンケート集計機能を活用し、効率的に生徒から意見を集めることができた。さらに、企業へ訪問する際に、端末を持参し、事前に作成したスライドを提示することで、相手に伝わりやすい説明をすることができた。</p> <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各段階で行う活動状況報告の内容、レポートの作成・発表 <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>1人1台端末を効果的に活用することでコミュニケーションを円滑に図れることに気付く生徒が多く、よりよく使うにはどうしたらよいか試行錯誤するようになった。他の場面でも積極的に活用しようとする態度を養うことができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>個人のスキルに差があり、特定の生徒に業務が偏る班があった。各自の得意分野が生かせる業務分担をしたり、1年時から使用する場面を多く設定するなど段階的な指導が必要と感じた。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>より多くの科目で1人1台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びを実現させ、生徒の力を最大限に引き出せるようにしたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立若松商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 2単位)		
連携活動の相手先	若松の地元飲食店・日本経済大学職員など		
1人1台端末 以外の使用機器等	生徒用PC		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>4月～5月 若松区の飲食店の調査・探究 レポート作成</p> <p>6月～8月 取材先決定・取材先に対する許可取り・実店舗への取材</p> <p>9月 お礼状作成</p> <p>10月～11月 POP作成</p> <p>12月～1月 課題研究報告書作成</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>4月～5月 若松区の飲食店の調査・探究 レポート作成</p> <p>若松区の飲食店を調査し、取材する店舗の調査を行った。</p> <p>6月～8月 取材先決定・取材先に対する許可取り・実店舗への取材</p> <p>9班に分け、すべての班が1回ずつ実店舗に出向き、注文・インタビュー、レポートを行う。</p> <p>9月 お礼状作成</p> <p>取材に行った店舗に向けてお礼状を作成した。日々の授業で学習していた情報処理の内容を活用して文書作成を行った。</p> <p>10月～11月 POP作成</p> <p>取材した内容をまとめた豆本を製本し、実際に書店で販売するため、手作りPOPを作成した。</p> <p>12月～1月 課題研究報告書作成</p> <p>一年間のまとめを行う。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>若松区の飲食店と連携し、学びの場である若松の魅力を見直すことをねらいとしている。その手立てとして、若松区のグルメ本である「若松グルメ豆本」を作成する。生徒が取材先の決定から許可取り、推敲、販売活動、POP作成、お礼状作成まで一連の活動を通して、商業の知識をアウトプットする機会を設けることで、商業を学ぶ意義を再認識させる。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>生徒に商業を学ぶ意義を再認識させるために、一人一台端末を活用し、取材先決定からお礼状作成までの一連の流れを生徒が個々のペースで学習を行うことで、実践的な商業教育を行った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>インタビュー内容及びまとめの内容、POP作成の内容、レポート内容、学習内容の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>若松区の飲食店をインタビューすることで、普段気づくことができない地元の魅力を再認識し、商業教育の意義を再認識させることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>予算的な部分での課題があり、継続的な活動をすることは難しい。単年度のみ活動になってしまう。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末を活用して、今以上に自宅でのレポート作成や、GoogleClassroomを活用した共同学習等ができればより充実したものになると思う。今回の取り組みをさらに発展させるために、次回においては、他校と共同した「豆本」を作成することも面白いのではないかと考える。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	佐賀県	学校名	佐賀県立唐津商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年・3単位)		
連携活動の相手先	企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Teams、Zoom、Forms		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～ 7月 商品開発の企画立案、調査研究 ・9月～12月 試作品の作成 (商品の味、パッケージデザイン、レシピ) ・1月～ 3月 校内販売、アンケート調査 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～7月 競合他社について調査研究。ターゲットやコンセプト、キャッチコピー等を決定 →企業訪問し生徒が考えた商品の提案と具体的内容について話し合う。 ・9月～12月 試作品の作成 (商品の味、パッケージデザイン、レシピの考案) →製造元企業、販売元企業、生徒3者合同の打ち合わせを行い、商品を形にしていく。 →開発した商品のチラシや商品を使ったレシピを作る。 ・1月～3月 試食会を行い、商品についてのアンケートを実施。 完成した商品を校内販売する。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域食材による商品開発を通して、地域活性化に繋げる。 ・地域企業と連携することで実践的な経験を積み、職場でのスキルや知識を習得する。 <p>(2) 工夫</p> <p>生徒端末を使用した調べ学習、TeamsやZoomを使用して打ち合わせ会議を行った。また、Formsを使い、生徒・教職員対象にアンケートを実施し、集計してまとめた。企業への連絡はメールで行い、伝えたい内容等生徒に考えさせた。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、取組姿勢、アイディアの提案、チラシやパッケージデザイン等の成果物、プレゼンテーション力、報告書の作成</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>企業がどのようにして商品開発を行っているかを実践で学べたことは、生徒にとって大変貴重な経験となった。一人一台端末を活用し、作業を分担して行うことで効率的に進めることができた。また、TeamsやZoomを活用したことで、企業訪問する時間の節約にも繋がった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>作業を分担した結果、生徒一人ひとりの進捗状況をグループで共有することがうまくできなかった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>他の教科においても一人一台端末を利用した授業を行ってはいるが、今後はさらに外部(地域企業)と連携した活動をする機会を増やし、生徒の主体的・実践的な学びに繋げていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

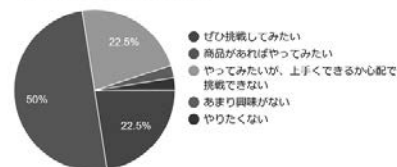
都道府県名	佐賀県	学校名	佐賀県立鳥栖商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年・3単位)		
連携活動の相手先	近隣小学校		
1人1台端末 以外の使用機器等	Scratch, LEGO		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 【4月】今年度の実践に向けた準備 【5月】近隣小学校とのスケジュール調整 【6～10月】授業内容の検討 【11月】「小学校プログラミング教室」実践 【12月～2月】実践報告書のまとめ、発表、次年度への引継ぎ</p> <p>(2) 活動内容 情報管理科を中心とするメンバーを編成し、近隣小学校にて「小学校プログラミング教室」を実施している。令和5年度は6年生を対象に2時間の授業を行い、1時間はScratchのみを用いたゲーム制作、次の1時間はLEGOで組み立てた車等をScratchのプログラムによって動かすという授業を行った。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 「課題研究」では、3年生が自ら研究テーマを決め、様々な研究手法やツールを用いて課題に取り組んでいる。地域経済の一員として活躍することを想定し、「地域」を研究内容に入れることとしており、「地域×商業」が生徒全員の共通テーマである。 多様な研究活動が行われている中、一人一台端末（佐賀県では「学習用PC」と呼ぶ。）を最も効果的に用いたのが「小学校プログラミング教室」チームである。「プログラミング」で学習した内容を生かし、地域の教育に貢献することをねらいとした。</p> <p>(2) 工夫 2020年度から小学校におけるプログラミング教育が必修化された。小学生が楽しんで学ぶことができるとともに、小学校の先生方の授業の参考となるよう「順次・選択・繰り返し」の基本を盛り込むような教材を生徒自ら開発した。 また、画面上だけの実行だけでなく、LEGOを用いた題材が小学生の興味・関心を高めることを前年度から引き継いでおり、年々LEGOを用いる時間を増やしている。</p> <p>(3) 評価 チーム内での貢献度や研究活動の進捗具合、また、プレゼンテーションや報告書の内容等を材料とし、どのような力が身に付いているかを捉え評価している。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 児童は「プログラミング」と「高校生」に触れることができ、本校生徒にとっては学習成果を地域に還元できている。児童はもちろん、小学校の先生方からも高い評価を受け、本校生徒もやりがいを感じており、互いのメリットは大きい。</p> <p>(2) 課題 4年間行っているが、担当する1チームを教師側が無理に集めることなく必ず編成できてきた。毎年実施できるよう、必ず1チームを編成できるような体制づくりを行う必要がある。</p> <p>4 今後に向けて 令和6年度のチームも既に動き出し、今回はドローンを用いたプログラミング教室ができないか具体的に検討を進めている。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	大分県	学校名	大分県立大分商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究「EC分野選択者」 (3年:3単位)		
連携活動の相手先	BASE株式会社 Corporate PR 早川 優子 氏 BASE株式会社 Corporate PR Section Manager 田中 頌子 氏		
1人1台端末 以外の使用機器等			
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>9月【講義】ECマーケットについて [知識] 10月【ワークショップ】 ネットショップの作り方 [技能] 11月【講義】ECマーケットの効果的運営について [思考・判断・表現]</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>ネットショップ作成サービス「BASE」を活用した、ECサイト作成体験授業を実施。自分だけのオリジナルのネットショップを作成</p> <p>1回目 9月【講義】ECマーケットについて [知識] 2回目 10月【ワークショップ】 ネットショップの作り方 [技能] 自分のネットショップを立ち上げ個人店舗として販売 3回目 11月【講義】ECマーケットの効果的運営について [思考・判断・表現] (見せ方・誘導・ブランディング・SNSとの連携等)</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>①デジタルネイティブ世代が中心となる県内事業活性 ②将来的な県内ブランドを見据えた研修</p> <p>ネットショップ作成サービスを利用して商品販売企画からネットショップの開設・販売を実践し、将来を担うデジタルネイティブ世代の事業者育成およびビジネスでの活用できる知識や技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>大分の魅力発信という題材をネットショップで取り扱うにあたり、商品等の写真の見せ方や魅力を伝える文章作成など、多くのWebページやSNSを参考にした。</p> <p>(3) 評価</p> <p>取組姿勢、レポートの作成・発表、作品の完成度、学習今日の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>対面販売のみだと購入できる人が限られており、ネットショップをうまく使っていけば、地域、年齢を問わず購買力が増すことに個々の生徒が気づき、ネットショップのレイアウトや写真の撮り方、見せ方に工夫をする姿が見られた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>お客さんとの直接のやり取りがないので、伝えたいことを絞って文章にしないといけないため、語彙力が必要。自分のやりたいことをすべて詰め込んでしまうと画面が窮屈になってしまっていた。一人の視点だけで決めてしまわず、多くの意見を取り入れることが大切。また、著作権などについても考えていかなければならない。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>一人1台端末やスマートフォンからWebページやSNSを利用した商品販売について、様々な販売視点を学ぶことができた。今回利用したワークショップを利用することで、企業だけでなく個人の活動が目を引きつけかけになると感じた。今回の取り組みをきっかけに、企業との連携を深め商品開発だけに視点を置くだけでなく経営や広告、販売促進といったマーケティング活動にも力を入れていきたい。</p>			

Q3.今日の授業を聞いて、実際に自分でもネットショップをやってみたいと思いましたか？



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立屋久島高等学校
科目名 (学年・単位数)	課題研究 (3年: 3単位)		
連携活動の相手先	企業, 地方公共団体など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom, Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 屋久島へ来島する観光客向け観光マップWebサイトの作成およびヒアリング ・通 年 クルーズ船入港による歓迎・出港セレモニー <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 屋久島へ来島する観光客向け観光マップWebサイトの作成およびヒアリング Googleサイトを活用したWebページ作成を行う。 屋久島島内にある観光名所や宿泊, 飲食店, お土産などのコンテンツに分けてWebサイトを作成する。 地方公共団体との日程の打ち合わせや事業所に対してはWebページの掲載などの承諾やコンテンツの充実を図るためのヒアリングを行う。 ・通 年 クルーズ船入港による歓迎・出港セレモニー 屋久島に来島するクルーズ船のセレモニーにおいておもてなし活動を行い, 観光客向けに様々なコンテンツに区分したWebページより, 屋久島を観光するためのツールとして活用してもらう。 Webページを参考にした観光客に対し, アンケート調査を行い, Webページの改善を図り, 掲載した事業所へのコメントがあった場合はアンケート内容を送付する。 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>地元屋久島の情報発信を通して, 屋久島の観光ビジネスの観点における潜在的な魅力の発掘につなげる。コンテンツごとにグループ分けを行い, Webサイトを共同編集し, ICT活用力の育成を図る。クルーズ船入港による歓迎・出港セレモニーだけでなく, それ以外の観光客に向け, 継続的な情報伝達を行う。</p> <p>英語等にも対応したWebサイトを作成し, グローバルな視野で考え, 情報発信を行う。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>タブレット端末の活用を促し, Webページ作成に主体的に取り組ませることができた。また, 利用者が端末を選ぶことなく閲覧できるようQRコードを作成した。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況, レポート作成・発表, 自己評価</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>高校生ができる企業連携の活動を通して, 地元の魅力の発掘につながった。ICT活用した実践を通して, ビジネスを担う職業観・勤労観の育成ができた。情報の精査が大切であることから情報リテラシーの重要性を感じる事ができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>外国人とのやりとりをもっとスムーズに行うために, ビジネスにおける英会話の機会や翻訳アプリの活用を充実させる必要性を感じ, 教科を横断した授業実践が課題となった。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>高校生が発信する観光マップの取り組みから, 今後は, 地元事業所のホームページの作成や保守・管理を担うことで, どのようなマネタリングが行われるのか実践したい。そうすることにより, 観光ビジネスの視点だけではなく, ビジネス情報の視点としても学校と企業との連携を充実させたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	栃木県	学校名	栃木県立宇都宮商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合実践（3年：3単位）		
連携活動の相手先	各種教育機関、企業等		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoon、Teams		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期 基礎実践 ビジネスマナー、株価チャートやビジネス文書等の作成方法を学ぶ。 ・2学期 模擬実践 一人1社で商事会社を設立し、責任を持って業務を遂行することを学ぶ。 ・3学期 模擬実践 決算を学ぶ。 <p>(2) 活動内容</p> <p>1学期（5月）にビジネスマナーに関する講習をZoomにて開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校の先生を講師に招き、実演も兼ねた講話を受講する。 ・講師が用意したワークシートを利用してビジネスマナーの知識を身に着ける。 ・受講生徒はグループを作り、講師の指示に従って、ロールプレイを実施する。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおけるコミュニケーションの概要について理解する。 ・コミュニケーションの意義と課題について、ビジネスの円滑な展開と関連付けて考える。 ・コミュニケーションについて自ら学び、ビジネスにおいて他社とコミュニケーションを図ることに主体的かつ協同的に取り組めることを目標とする。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zoomを利用して、講師のビジネスマナーの実演を見ることで、説明が理解しやすくなり、対面で実施することと遜色なく取り組める状況とした。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞く時の態度、グループワークでの活動状況、ワークシートの作成状況。 ・ビジネスの実務で対応できるように定着しているか。 <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応対に関するビジネスマナー（言葉遣い、表情、電話対応、座席配置等）のビジネスの場面を想定した実習を行うことができた。 ・交際に関するビジネスマナー（慶事、弔辞等）のビジネスの場面を想定した実習を行うことができた。 ・接客に対するビジネスマナー（販売活動における接客の心構えと方法、ホスピタリティの概念と重要性）について学ぶことができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続状況に不具合が生じたときにはどのような対応が適切か十分に検討し、備えておく必要がある。 ・身に着けた知識が定着し実際に運用できるか、確認を十分に検討する。 <p>4 今後に向けて</p> <p>グローバル化する経済社会において、組織の一員として協働し、ビジネスを展開する力が一層求められるようになっている状況を踏まえ、ビジネスにおいて円滑にコミュニケーションを図るために必要な資質・能力を身に着ける必要がある。そのためには、さらに、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力や日本と外国の商習慣の違い、また、ビジネス英語等外国語も学ぶなど、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	新潟県	学校名	新潟県立新潟商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合実践（3年：2単位）		
連携活動の相手先	ソフトバンク株式会社		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Teachable Machine (Google)、Dialogflow (Google)、SnatchBot		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 AIの活用事例を学習し、AI活用企画を立案、発表 ・7月～9月 識別系、会話系のAIを構築し、実装実習 ・10月～1月 STREAMチャレンジへの応募準備 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～9月 AIの活用事例を学習し、AI活用企画を立案、発表 AIの種別、活用事例、変化する仕事を学習し、AIの活用についての企画を立案、発表する。 課題の発見、解決策の立案をパワーポイントで作成し発表。 ・7月～9月 識別系、会話系のAIを構築し、実装実習 識別系AIによる手書きの文字や写真の見分けや会話系AIによる挨拶の受け答えを制作。 ・10月～1月 STREAMチャレンジへの応募準備 9月まで学習した内容をベースに、AIを活用してSDGsの目標達成に貢献する課題を自ら設定し、解決策を考案・実装・評価する。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>SDGsの17の目標の中から、AIを活用することで解決させるというテーマで、グループ学習を展開。社会課題を調べ、解決策を模索することでSDGsの目標についての理解を深め、身近な問題として捉えることが出来た。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>途中経過としてソフトバンクの担当者に課題発見から解決策にいたる説明をzoomで行い、それを評価・講評してもらうことで内容をブラッシュアップしていった。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、レポート・スライドの作成・発表、学習の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>課題の発見、解決策を見いだすために「ロジックツリー」や「ボトムアップアプローチ」を活用させることで、ロジカルシンキングを身に付けることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>AI実習を行うにあたり、校内のPCではフィルタリングや回線の問題でインターネットに繋がりにくいことがあったり、webカメラなどの機器が人数分そろってなかったりと、様々な点で授業に支障が出るがあった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>企業など外部と繋がるだけでなく、活動を評価してもらうことで生徒に新たな気づきを与えることができるので、いろいろな科目で活用していきたい。</p> <p>また、今回の取り組みをきっかけとして、AIに関する様々な実習を行っていきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	兵庫県	学校名	明石市立明石商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合実践（3年・3単位）		
連携活動の相手先	教師・生徒間、生徒間、企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom, Google Workspace for Education		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・4月～6月 金融教育に関する基礎知識習得、レポートの作成、株式学習ゲームへの参加
- ・7月～3月 日経ストックリーグへの応募準備

(2) 活動内容

株式学習ゲームを通して、株式に関する基礎知識を習得させ、1,000万円の資金をファンドマネージャーとしてどのように運用していくのかという説明責任を、レポートを書かせることで持たせた。その中で、テーマ型ファンドとして資金を運用していく流れが出来て、日経ストックリーグへの良い流れが出来た。

日経ストックリーグに参加し、自分たちでテーマを設定し、500万円のポートフォリオを作成した。テーマに合った銘柄をスクリーニングしていく際に、実際の企業に質問を送ったり、Zoomを使って、実際にヒアリングをしたりと、企業とも連携を取ることが出来た。レポートやスクリーニングは、Googleドキュメントで作成しているため、学校ではなく、生徒が各家庭からそれぞれで連絡を取り合いながら、作成をするチームが多かった。また、添削やアドバイスも、共有されたドキュメントに書き込みや、生徒とZoomをしながら、行うことが出来た。

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

東証上場企業が投資家にどのくらい目を向けて、株主の目線に立ち、活動をしているかを実感させる。

実際のIR担当の方と触れ合うことで、株式会社や、株式市場というものが、パソコン上の数字が動いているだけでなく、実社会で動いているものだ実感させる。



(2) 工夫

こちらが制限をかけずに、はじめは自由に取引をさせて、徐々にファンドマネージャーとしての説明責任が果たせるような取引をさせていき、テーマ型ファンドに上手く誘導が出来た。その中で、実際の企業の話が聞きたいという生徒からの要望を上手く引き出した。

(3) 評価

ファンドレポート（2週間に1度）、金融知識に関する授業内考査、各種レポート、日経ストックリーグのレポート、グループでの活動状況（貢献度）。すべてルーブリック評価表を用いた。

3 成果及び課題

(1) 成果

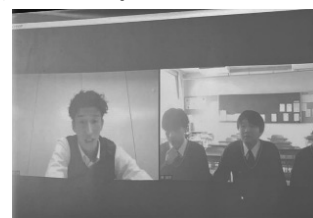
浜松ホトニクス様と、Zoomでのミーティングを行えた。

IHI様と、メールでの質疑応答が行えた。

日経ストックリーグでの入選を果たした（41/688）

(2) 課題

12チームでの参加したため、すべてのチームが企業と連携が出来たわけではなかった。全チームが同様の活動が出来るようにしたい。



4 今後に向けて




1人1台端末と、Google Workspaceを上手く活用し、活動が出来た。日経ストックリーグのレポートを通して、金融知識だけでなく、様々な知識・経験をさせることが出来た。今後の活動に活かしたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例




都道府県名	山口県	学校名	山口県立柳井商工高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合実践（3学年・3単位）		
連携活動の相手先	大阪商業大学		
1人1台端末 以外の使用機器等	ネットワークプリンタ（無線）、大型ディスプレイ		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 取組の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用したプレゼンテーション能力の向上 ・ビジネスアイデアの発想 ・コミュニケーション能力の向上 <p>(2) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～5月 プレゼンテーション練習 テーマ「新聞記事の要約発表」「他己紹介」 ・6月 SDGS等を考慮したビジネスアイデア考案 ・7月 ビジネスアイデアについてのプレゼンテーション <p>(3) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使用したプレゼンテーションの実施 ・ブレインストーミングによる、チームとしてビジネスアイデアの検討 ・大阪商業大学主催の「ビジネスアイデア甲子園」に応募することで、どのように見せるかを意識した取組をさせる。 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>大学主催のイベントへの応募を通して、学校の枠を超え、できるだけ広く調査し、深く思考することを狙いとして実施。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>チームを組み、その中でブレインストーミング、ディベートを行いながら作り上げる。また、コンペティション方式でプレゼン、相互評価を実施し、代表作を選ぶ仕組みにすることにより、生徒のモチベーションを向上させる。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動、コミュニケーションの姿勢（話す・聴く）、レポート作成、発表（表現）による</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>コミュニケーション能力の向上、表現力のスキルアップが見られた。また、チーム内でのグループワークや協力による協調性、リーダーシップの発揮など、生徒自身が新しい力を発見することができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>今後は、いかに生徒のモチベーションを向上させる仕組みをつくるかが課題となると考えている。学校外との組織との連携を図り、講演や講義、実習、研修等をしていただくなど、学校外の方々の御協力をいただくことが、生徒の更なる成長へ結びつくのではないかと考えている。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>授業の目的を生徒へ理解させること。伝えるだけではなく、実施後、振り返りを行った際、成長と達成感を実感できるような授業に出来ればと考えている。結果ではなく変化と成長という成果を感じることができればと感じる。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	長崎県	学校名	長崎県立佐世保商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合実践 (情報マーケティング科マーケティングコース3年・3単位)		
連携活動の相手先	企業、近隣高校、海外個人事業者など		
1人1台端末 以外の使用機器等	機器：iPad, スマートフォン ソフトウェア：Microsoft Teams, 画像編集フリーソフト, Instagramなど		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～6月 商品開発実習 6月～12月 定期販売実習 1月 販売促進実習 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～6月 <u>商品開発実習「佐世保のお土産品開発」</u> 本実習では、実際の企業との商品開発実習に取り組んでいる。開発過程では、企画書やプレゼン資料作成など全てMicrosoft Teamsを使用し、「OneNote」や「PowerPoint」などでグループの協働を進めた。 6月～12月 <u>定期販売実習「SASHOマルシェ」</u> 校内の店舗にて、毎週2日間開店する「SASHOマルシェ」を運営し、一般公開している。取引先は市内企業、近隣の農業高校や海外企業など多岐に及び、連携手段にはMicrosoft Teamsによるオンライン会議やSNS活用した。チラシ作成については画像編集フリーソフト、会計端末にはiPad、デジタルサイネージにも一人一台端末を活用した。 1月 <u>販売促進実習「一店逸品チラシ作成」</u> 地元の隠れた逸品を紹介するため、お店の方取材をして1枚の記事を作成する実習を行った。企業家や企業へのアポ取り・インタビュー・記事作成と短い期間でよく活動していた。チラシの作成に際しては、「PowerPoint」等を使用しグループ間での協働作業は、授業のみならず自宅学習においても見受けられた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「アントレプレナーシップ教育」の醸成を目指した「ミライの企業家育成プロジェクト」という本校独自のプログラムの一環で下記内容を展開した。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>商品の試食</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>海外とのオンライン</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>生徒の制作物(一部)</p>  </div> </div> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 地元や海外の起業家や企業と連携し実践力を身に付け、これらの一連のプロセスを通じて企業家として必要な資質・能力を身に付けていくようにしている。</p> <p>(2) 工夫 年間を通して、企業家や企業との関りを行わなければ成しえない実践課題を与え、多くの社会人とのやり取りを経験させている。</p> <p>(3) 評価 グループ活動状況、各種レポート・プレゼン資料、制作物、実習状況については教員の見取り など</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 商品開発では、スイーツの商品化についてSDGsの観点から原材料を精選した事で、県内のコンテストでも高く評価される取り組みとなった。販売実習では、地元企業からの仕入れのほか、近隣農業高校や海外企業との取引を経験し、生徒が将来、世界を見据えた広い視野でビジネスを展開する態度を養うことができている。各種実習により、ビジネスの学びはもちろん、地元の方々との交流を通じた地元愛の醸成を図ることもできた。</p> <p>(2) 課題 生徒の事前指導が足りず、企業へご迷惑をおかけすることがあったので改善していきたい。</p> <p>4 今後に向けて 今後も時代に合わせて販売実習の形態を模索するとともに、引き続き「社会に開かれた教育課程」の実現を図りたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	沖縄県	学校名	沖縄県立八重山商工高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合実践（3年：4単位）		
連携活動の相手先	企業、地方公共団体など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education PC(Adobe Premire Pro)		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～ 6月 石垣市の課題解決に向け何ができるか考え、コースの特性を生かした課題解決 ・ 7月～12月 企業への依頼・撮影・インタビュー等、課題解決のための動画作成 ・ 1月～ 2月 石垣市への発表 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～ 6月 石垣市の課題解決に向けて自分たちに何ができるか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1人1台端末を活用し、ブレインストーミング・KJ法を活用し、協働学習を行いグループでの課題設定・課題解決の方法を考える。プレゼンテーションソフトでまとめて発表。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月～ 9月 企業をいくつか取り上げ、その企業へのインタビューやフィールドワークをグループごとにアポイントを行った上で行う。 ・ 10月～12月 PCを使用し、タブレットで撮影した動画を編集。 ・ 1月～ 2月 コンテンツ完成発表会。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>シビックプライドの醸成。個人で石垣島の課題を考え、グループで課題を共有し、その解決に向けて自分たちに何ができるか考える。これまで学習した成果を生かす。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>端末を活用するとともに会議手法である、ブレインストーミング、KJ 法等でアイデアを創出する。Jamboard や Google スライドで共同編集等を行い、情報の共有を図る。</p> <p>生徒が取材を行いたい企業をピックアップし、アポ取り、訪問等を行いタブレット端末で動画を撮った。動画編集はこれまで授業で学習した Adobe Premire pro を使用し、動画作成を行った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動、インタビューの内容・取組姿勢・発表・学習状況の振り返り、コンテンツの内容</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>ビジネスマナーやプレゼンテーション能力、コンテンツ制作等これまで学習した成果を発揮することができた。商業科の学習の意味を実践的な学習を通して感じる事ができた。</p> <p>何気なく過ごしてきた石垣島の課題について考えることでシビックプライドの醸成につながった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>自分たちの住んでいる地域についての学習が必要。歴史・自然・文化を知ることによってさらなるアイデアの創出につながるだろう。</p> <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の島とも繋がりをもてるようにZoom等を活用し、リモートでインタビュー等を行いたい。 ・ 商業科の他コースとも連携し、各コース特色を活かせる授業づくりにしていきたい。 			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	富山県	学校名	富山県立富山商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	マーケティング（流通ビジネス科2年・4単位、ビジネスマネジメント科2年・会計ビジネス科2年・情報ビジネス科2年・2単位）		
連携活動の相手先	企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom, Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 ・外部講師によるプロジェクト学習 5月1回、6月3回、7月2回、12月1回</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>①デザインシンキング 概念とプロセスの説明 ・デザイン思考で富山商業高校における制服の意義をリフレームし、革新する工程</p> <p>②仮説設定 ・分類された資料から重要度の順位付けをする (校則との制服の意義を議論し、実際の制服から富山商業高校にとって必要な要件と機能を検討する)</p> <p>③デジタルマーケティング手法について ・実際に制服検討について取り組みを広める方法をワークショップする ・集客方法 ターゲットの明確化、クリエイティブを考え、オンライン配信に向けた SNS を活用した</p> <p>④スケッチプロトでの検証1 ・制服の所有の仕方（サブスク、リース、成長に合わせて変えるなど）の議論 ・スケッチプロトの改良の議論</p> <p>⑤スケッチプロトでの検証2 ・アイデア展開まとめ</p> <p>⑥実際のプロトタイプを確認 ・何パターンかある制服デザインまたは制服スタイルを検証、生地でのプロトタイプ確認、プロトタイプ発表の準備 8月のオープンハイスクール、プロトタイプ中間発表 11月 TOMI SHOP ファッションショー (ア) 地域の小中学生や保護者から関心を引く (イ) 中学生、保護者の要望をリサーチする (ウ) 卒業後の生徒将来に目を向ける (エ) 卒業後の受け入れも踏まえて卒業生、地域の方々にも関心を持ってもらう機会とする (オ) アンケート調査で得た結果を反映する</p> <p>⑦結果検証からの改善施策ワークショップ、リサーチ結果のまとめ ※感想やプロトタイプへの投票などは Google Workspace for Education から入力</p> <p>2 連携活動のねらい</p> <p>(1) ねらい 制服のリニューアルをきっかけとして外部講師の講義により、ゼロから1を創り出す方法としてデザイン思考を活用しながら、生徒一人ひとりが深く考え、試作、検討、ブラッシュアップを繰り返すことにより、生徒自身が本校で学ぶことの意義や自分自身を知ることにより、学校生活のあらゆる場面において制服を意識しながら成長していくことをねらいとする。</p> <p>(2) 工夫 Zoom ミーティングによる企業からの講義や Google Forms による生徒の感想レポートの提出、アンケート回答などは、生徒のタブレットで行う。</p> <p>(3) 評価 レポート提出状況や内容、アンケートの回答状況、グループ活動におけるワークシートなどの成果物により評価する。</p> <p>3 成果および課題</p> <p>(1) 成果 デザイン思考の活用により、タブレットによる提出物などは、生徒自身の考えが深く考えられており、内容が簡潔にまとめられた表現になっていた。グループ活動では、コミュニケーションが持てるようになり個々の意見を述べられるようになった生徒が増えた。</p> <p>(2) 課題 タブレットを活用することで、多くの情報を収集することが可能となるが、授業への集中を欠く生徒が出てくる。グループによる学習活動を多く取り入れるなど、協働的な学びの中に参加できるよう配慮を行う。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>生徒の身近な問題の中からマーケティングの内容となる題材についてのレポート提出を文書ではなく、各生徒がタブレットによりビデオ撮影を行い、決められた時間内に簡潔に報告やプレゼンができる取り組みを学習計画の中に取り入れる。</p>			



【デザイン思考による
制服リニューアルの説明】



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	静岡県	学校名	富士市立高等学校
科目名 (学年・単位数)	マーケティング (2年:2単位)		
連携活動の相手先	一般社団法人シズクリ、県内企業など		
1人1台端末 以外の使用機器等	GoogleClassroom、Google Slides		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・ 4～7月 マーケティングの基礎知識の習得
- ・ 9月～1月 探究プログラム「エンジン」の実施
- ・ 2月～3月 企業によるマーケティング講義

(2) 活動内容

- ・ 4月～7月 マーケティングの基礎知識を主に教科書を用いて学習する
- ・ 9月～1月 株式会社教育と探求社の探究プログラム「エンジン」における静岡カップ出場の準備
地域資源を使ったイノベーションのアイデアについて県内企業の方にアドバイスをもらい、プレゼンを行う。その中で、優秀班は1月の静岡カップで発表を行った。
- ・ 2月～3月 マーケティングに関する実社会での活かし方をマーケティング会社から学ぶ
ライフイズテック株式会社の「身近な、マーケティングから学ぶ実践論」教育プログラム
株式会社インテージによる「マーケティングリサーチを知ろう！」教育プログラム

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

1学期は主に知識の習得を中心に、2学期からその知識をもとに地域資源を活かしたイノベーションのアイデアを考えさせる。その際、県内企業の方にアドバイスをもらうことで地域の視点や、実際の企業での知識や経験をアイデアに反映させる。

(2) 工夫

企業の方とのやりとりは、例えば企業の方に質問がある場合は、対面時だけではなく、メールでも質問をすることで、聞きたいことを常に聞くことができた。また、事前に生徒が作ったプレゼン資料を送ることで、企業の方にもじっくりと見てもらうことができた。

(3) 評価

グループ活動状況、プレゼン資料の作成・発表、学習状況の振り返り



3 成果及び課題

(1) 成果

グループ学習で1人一台端末を使用することでスライドの作成を共有し、発表したりすることで作業の効率化や考えを深めることができた。

企業の方から実際にアドバイスや話を聞くことで、教科書だけでは読み取ることのできない内容を知ることができた。

(2) 課題

企業について事前の調べ時間が少なかったため、1回目の顔合わせ授業で質問等が上手くいかない部分もあった。メールでの質問も教員を経由していたため、生徒に任せればもう少し活発な質問になった可能性がある。




4 今後に向けて

1人一台端末を活用することで、授業や企業とのやりとりを効率的かつ効果的に進めていけるようにしたい。今回、連携させていただいた企業とは引き続き協力して内容を深めていきたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立勝間田高等学校
科目名 (学年・単位数)	マーケティング（2年：4系列（森林・園芸・食品・ビジネス）各2単位）		
連携活動の相手先	本校農業科職員 農業関係者 先進的な取り組みをしているベンチャー企業 他		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education ・ Zoom ・ 書画カメラ ・ プロジェクター等		
<p>1 本校の概要 本校は総合学科であり、系列として商業・農業・工業の幅広い学びができる場所が特徴である。各系列の学びを専門的に展開し、産業教育に特化した地元密着型の学校である。</p> <p>2 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>4月 科目のねらい・系列結合による相乗効果の意義の認識・各系列でのテーマ設定等。 5月～12月 基礎知識と様々なデータ分析手法の習得・市場調査・各プロジェクトの立案・実施。 ※プロジェクトには、STP分析・4P政策による理論的な裏付けを必須とする。 1月～2月 マーケティングマネジメント（PDCAサイクル）・4グループでの発表・報告会。</p> <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各系列に特化した題材を用いて、ビジネスの観点を重視したプロジェクトの立案・実行により、農林業における持続可能性（サステナビリティ）を探究し、アグリビジネスの確立を目指す。 1人1台端末によるICT環境での学びを確立する。円滑な意見の共有に「Google Keep」を活用。先進的な取り組みをしているベンチャー企業の経営者とのZoomによる講演および意見交換。 資金調達手段の1つとして、クラウドファンディングに取り組み、キャリアの構築を目指す。 <p>3 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>令和6年度岡山県教育委員会が示す建議において、商業教育では「地域や企業等と協働してビジネスプランやビジネスモデルを作成・提案する学習等」が、農業教育では「地域資源を活用した6次産業化に関する学習」がそれぞれ求められている。そこで、商業の科目「マーケティング」に農業の教員・生徒が参画することで、教育課程における商業教育・農業教育の垣根を越えた学びにより起こる相乗効果を期待するものである。体験的な学びをビジネスの理論で裏付けることで、生産から消費までの一連の過程を学び、食と食に関わるビジネスのマネジメントができる人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林・園芸・食品の3系列にそれぞれ商業の科目「マーケティング」を開講し、3講座すべて異なる教員の組合せ（商業教員1農業教員1の2名によるT・T）で授業展開を行う。 グローバル化・少子高齢化の進展する現代のマーケティング環境において、特に農林業生産物の市場的価値の高まりを意識させ、アグリビジネスへの意欲・関心を高められるようにする。 ICT・メディアの活用により、地域での販売活動のみならず、幅広い販路開拓を体験させる。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 各系列において、ビジネスの視点が確立されているかを重視する。グループ活動における主体性、協働的に学ぼうとする態度、定期考査、プレゼンテーションの完成度および発表態度等で評価する。 <p>4 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林業の知識・技術にマーケティング・ICTを組み合わせ、各系列の活動の中に会計的思考を取り入れ、スマート農業の推進に寄与する人材の育成に繋がることが期待できる。 <p>5 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 各プロジェクトにおいてPDCAサイクルを推進し、次年度の課題研究に繋げ、探究を深めさせる。 食の安全や気候変動による食糧危機、環境負荷低減などの課題を、農業DXにより解決することを自らの使命と考えさせ、本校の各系列の学びの中で、自らの職業選択に生かせる取り組みにしていく。 			

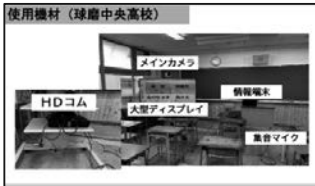


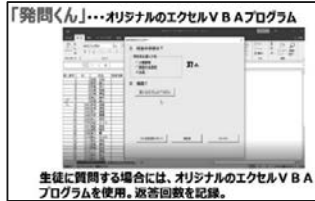
1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	香川県	学校名	香川県立三木高等学校
科目名 (学年・単位数)	マーケティング（2単位）電子商取引（2単位）広告と販売促進（2単位）		
連携活動の相手先	企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Windows (desktop)		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～6月 三木町小菘地区の地域活性化のための調査研究、そこでの食材を使った商品開発 ・ 7月～12月 3つの商品の開発、企業とのコラボ商品のイベントでの販売、マーケティング活動 小菘地区の行事への参加および食材の宣伝。消費者の反応、アンケート等。 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～6月 小菘地区で採れる食材（米や野菜）をもとにサンプル商品を自作し、最初の企業へプレゼンを行った。タブレット端末を使いながらメール等でのやりとりを行い企業へ出向いてのやりとりで商品を完成させるようにした。2番目の企業では、キンパを作る予定だったが、小菘地区の食材をメール等のやりとりで納得いく形にするのに時間がかかった。 ・ 7月～8月 3番目の企業でのライスプリン、小菘地区産の米をミルクかゆの形でプリンに乗せるものであったが、米粒の形を残すということでメールでのやりとり、実物でのサンプルの試食などでかなり難易度が高かったが何とか企業とのやりとりで完成にこぎつけた。 ・ 9月～12月 地域活性化の目的で数々のイベントで販売を行った。 マーケティング戦略面で工夫が必要だった。 			
			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>地域活性化を目標に、地場産品の食材を使い商品開発を行うことによって、地域のPRを兼ねて紹介も行い、地域行事に参加をしてもらうことや実際に訪れてもらう。企業には食材の良さを知ってもらう。</p> <p>2 工夫</p> <p>タブレット端末を使って小菘地区をPRするWebページ（晴ノチコミノ）を運営し、InstagramやX等で販売時にはPRを行っていた。</p> <p>3 評価</p> <p>活動状況、アンケート、取組姿勢、発表（ビジネスアイデアコンテスト）、振り返り</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>企業が高校生の提案した商品を、社会貢献の目的で商品開発と一緒に取り組んでいただいたことは大きなことであった。小菘地区の地場産品にこだわったことで解決すべき課題が多かったが何とかクリアして9月までに商品の完成にこぎつけられたのは良かった。タブレット端末を使ってWebページの運営およびSNSでの発信もできたので良かった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>企業や地域の方々とアポイントを取ることや内容精選にあたり、生徒への事前指導やどこまで教員が入りこめばよいかなど十分に話し合っておく必要がある。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>タブレット端末を使って地域活性化を目標にいろいろな取り組みを行ってきたが、地域の担当者の変更になる可能性が出てきて、見通しが不明瞭な状況にあるので今後、PRや関連した商品開発等を行っていくにあたって工夫が必要となる。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	長崎県	学校名	長崎県立諫早商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	マーケティング（3年：3単位）＋ 総合実践（3年：2単位）		
連携活動の相手先	地元信用金庫 および 地元中小企業26社		
1人1台端末 以外の使用機器等	Teams、Zoom		
<p>1. 授業概要</p> <p>(1)年間計画</p> <p>4月～6月 企業訪問・会議の進め方について</p> <p>7月～8月 ヒアリング、提案書作成</p> <p>9月～12月 販売促進・新商品開発活動</p> <p>1月 発表会</p> <p>(2)活動内容</p> <p>地元信用金庫が取引企業へ協力を呼びかけ、賛同した企業へ本校生徒が赴き、販売促進（POPやポスターの作成、SNSを利用した企画）、高校生の視点を活かした新商品開発、企業PRのための企画の提案等の支援を行う内容の実習授業。</p> <p>2. 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1)ねらい</p> <p>地域が抱える課題に生徒一人ひとりが向き合い、これまで学んできた知識や技術を実践的な学びの中で発揮しながら実践力を身に付け、地元貢献していくことを目標とする。</p> <p>(2)工夫</p> <p>企画提案時のプレゼンテーションや連携企業との連絡ツールとして、一人一台端末を活用する。</p> <p>(3)評価</p> <p>グループ活動状況、発表会、学習状況の振り返り</p> <p>3. 成果および課題</p> <p>(1)成果</p> <p>友の会会員募集のHPの見直しを依頼した企業において会員数が20倍に増加した事例、新たな長崎名物の創造をテーマに食品を製造販売する企業へ生徒が提案した新商品がヒットし人気商品となった事例、菓子製造業者と農産物生産者のコラボを実現させ新商品開発に至る事例などの成果をあげた。</p> <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に至るまでの活動期間が短い。 企業側の依頼内容が明確でない場合がある。 <p>4. 今後に向けて</p> <p>商品開発活動が単年度で終わってしまっているため、複数年にわたって企業支援を行えるような体制を整えたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立球磨中央高等学校
科目名 (学年・単位数)	マーケティング（2年：2単位）	※小国高校は3年：2単位 ※文部科学省指定COREハイスクール事業	
連携活動の相手先	熊本県立小国高等学校		
1人1台端末 以外の使用機器等	HDコム、大型ディスプレイ、メインカメラ、集音マイク、ビデオカメラ		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>4月～6月 班を編成し、各班で市場調査のアンケートを考える。 両校の全校生徒及び全職員にアンケートを実施。</p> <p>7月～12月 マーケティングに関する詳細な講義開始</p> <p>1月初旬 1年間の振り返り</p> <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小国高校へ毎時間授業を配信。 ・球磨中央高校生に小国高校を加えた班を作る。 (班ごとにGoogle Meetを立ち上げ、小国高校生を招待する) ・毎時間、授業内容のスライドを作成して詳細な説明を実施。 ・各層の終わりにグループ活動により、深い学びへとつなげる。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人吉球磨にいながら小国の生徒と協同的に学ぶことを通じて、「学びに向かう力」や協調性、コミュニケーション能力を育む。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双方向の遠隔授業のため、一方的に伝えるだけの授業にならないように、小国高校の生徒の様子を常に確認しながら授業を展開。 ・両校の生徒間でGoogle Meetを通じてコミュニケーションが取れるような機会を頻繁に設ける。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゲグルスライド」の成果物や「ゲグルスプレッドシート」の意見入力などを、評価の見取りに活用。 ・「探究シート」や「ポートフォリオ」を、「思考・表現・判断」や「主体的に学習に取り組む学ぶ態度」の評価に活用。 ・オリジナルの発表者指名ソフト「発表くん」を活用して発表回数等のデータを蓄積し、「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む学ぶ態度」などの評価に活用。 <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる学校の生徒と触れ合うことによって、多様な他者と対話することができ、深い学びへとつながった。 ・両校生徒の学年は異なっていたが、学びに向かう姿勢など刺激を受け、活発に意見を出すことによって各種課題を解決できた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する課題として、画面越しであるため、受信側の生徒の理解状況の把握に工夫が必要。 ・授業に関する事前打合せや準備に多くの時間を要する。 ・両校の学校行事などに相違がある場合、調整が容易ではない。 ・商業の基礎科目である「ビジネス基礎」を学習していない小国高校の生徒に対して、より専門性の高い「マーケティング」を理解させる手立てが必要。 <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」へとつなげるために、「探究シート」や「ポートフォリオ」を作成し、探究型の授業に挑戦する。 			
 <p>使用機材（球磨中央高校）</p>			
 <p>授業の様子（球磨中央高校）</p>			
 <p>授業の様子（球磨中央高校）</p>			
 <p>「発表くん」…オリジナルのエクセルVBAプログラム</p> <p>生徒に質問する場合には、オリジナルのエクセルVBAプログラムを使用。返答回数を記録。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	北海道	学校名	北海道札幌東商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	商品開発と流通（2年・4単位）		
連携活動の相手先	企業（飲食等）、北海道販売士協会、中小企業庁、大学、地方公共団体など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Google Workspace for Education		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・4月～6月 商品開発の基礎知識、ブレインストーミング、KJ法
- ・7月～10月 日本経済大学、大阪商業大学、千葉商科大学、札幌学院大学のビジネスアイデアコンテスト応募及び準備
- ・11月～3月 ビジネスアイデアを企業に提案

(2) 活動内容

- ・4月～6月 アイデア創出法について実習を交えて学ぶ。KJ法については付箋を使って実習をする他、GoogleJamboardも使用する。
- ・7月～10月 各大学のコンテストに応募するために、グループワークにてブレインストーミングやKJ法によりアイデアの創出を行う。さらに、本選出場を見据えてクラス内発表会を行う。
- ・11月～3月 企業（飲食）から実際の課題を挙げてもらい、その課題を解決するためのビジネスアイデアを創出する。アイデアを発表するために、各個人の端末からスライドの共有機能を使いグループワークにて発表資料を作成する。作成途中にはプレ発表会を行い、遠方の企業の方々についてはZoomを使いアドバイス等をいただいた。最終発表では企業の方に各グループから提案を行う。その際には各端末で作成したスライドのデータを使用した。遠方の審査員については、オンラインにより審査を行っていただいた。



2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

授業のねらいの一つは、「うまく人に伝える事ができるようになる」ということである。その際に様々なツールを利活用し、情報収集をしてアイデアをまとめ、学校外の人にプレゼンを実施し、発表技術を身に付けさせる。できるだけ多くの人に伝えるため、端末を利用して離れた場所にいる人とも連携する。



(2) 工夫

これまででは、決まった生徒が、決まった時間にしか資料を作成できなかったが、Googleの共有機能を使うことによって、全ての生徒がいつでも参加することができるようにした。



(3) 評価

活動取り組みシート、取り組み状況、発表の相互評価 振り返り

3 成果及び課題

(1) 成果

資料作成等に全員が参加できた。外部とは常にオンラインで繋がることのできるため、必要なときにすぐに対応してもらうことができるようになった。

(2) 課題

オンラインの有用性を認めつつも、対面でのコミュニケーション力の育成も必要である。

4 今後に向けて

個人による活動を、周りと共有することによって新たな気付きや学びの深まりを実感できるようにしていきたい。外部との連携を更に充実していきたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	秋田県	学校名	秋田県立平成高等学校
科目名 (学年・単位数)	商品開発と流通（2年：2単位）		
連携活動の相手先	大阪商業大学		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期 商品の企画について教科書に沿って学習 ビジネスアイデア甲子園についての取り組み方を説明 ・夏休み中 グループまたは個人で応募内容を考え、クラスルームにスライドで提出 ・2学期 アイディアのプレゼンテーションと企画書の完成・応募 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 アイディアの出し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミング、SCAMPER、KJ法、ポジショニングマップ ミニワークシート ・4F（不満、不足、不十分、不便）を使って、サービスや商品について考える。 ・身の回りのサービスや商品の工夫について考える。 ・7月 夏休み中にビジネスアイデア甲子園への応募内容を考える。 Googleのクラスルームによりスライドを作成する。 ・8月 グループ及び各自で考えたアイデアをプレゼンテーションする。 企画書（応募用紙）の書き方 ・9月 企画書（応募用紙）の完成 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 全国の高校生に応募資格があり、問題意識をもって生活することでビジネスセンスを身につけさせるきっかけづくりとして応募した。</p> <p>(2) 工夫 夏休み明けにグループまたは各自が考えたアイデアのプレゼンテーションの後に、スプレッドシートに改良点や質問などをクラス全員で意見を書き込み、発表者は皆からのアドバイスをもとに考えたアイデアについてブラッシュアップしたものを応募した。</p> <p>(3) 評価 活動状況、取り組み姿勢、アイデアの内容、プレゼンテーションの態度、企画書の完成度</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 Google Workspace for Educationの共有機能を利用して、グループでも夏休みを有効利用して活動することができた。残念ながら入賞はできなかったが、共有機能によりグループで分担・協力して作業を進めることができた。</p> <p>(2) 課題 すでにある商品や過去の受賞作品にはないアイデアであるかを教諭が把握してチェックしなければならぬ点が挙げられる。</p>			
<p>4 今後に向けて 3年生の課題研究において、今回の取り組みを生かして商品開発の活動につなげたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立徳島商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	商品開発と流通（2年：3単位） 課題研究（3年：3単位）		
連携活動の相手先	企業、地方公共団体、大学		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、スマートフォン		
<p>1 授業概要</p> <p>「徳商デパート in マツシゲート」での取り組み</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～6月 今年のテーマ決定、プレゼンテーションの作成、発表 ・ 9月 企業と商品開発、イベントの準備 ・ 10月 Zoomによる最終打ち合わせ ・ 11月 徳商デパート開店 ・ 11月以降 報告書作成、報告会 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～6月 地産地消、SDG sに関するテーマ設定 「本部」「店舗」「イベント」「PR」の各グループによるプレゼン ・ 9月以降 企業と商品開発打ち合わせ、イベントの準備 ・ 10月 Zoom会議（マツシゲート担当者・商品開発企業・大学生等と最終打ち合わせ） ・ 11月 松茂町のイベント（マツシゲートにて）「徳商デパート」開店 オープンスクール中の本校と中継で結び生配信（中学生・保護者へPR） <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元徳島の特産物を使用した商品を企業と開発し、徳島県の活性化・魅力の発信をおこなう。 ・ SDG sを意識した商品やイベントの企画、開発、販売実践、振り返りを通し、コミュニケーション能力や課題解決能力を養う。 <p>(2) 工夫</p> <p>マツシゲート公式アプリを活用し、SDG sに関するクイズに答えてもらうARスタンプラリーをおこなう。5つのスタンプを集めた人には、SDG sの目標をモチーフにしたキャラクターのARシールを配布。スマートフォンでQRコードを読み込むとシールの上にSDG sのロゴや文字・イラストが飛び出す仕組みを作ることで、集客を目指す。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループの活動状況、プレゼンテーションの作成・発表、レポートの作成・発表、学習の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>事前学習を通して、お客様に地産地消やSDG sの理念について説明ができ、商品コンセプトや取組の目的を伝え、知っていただく機会となった。</p> <p>商品開発をおこなうプロセスや販売実習を通して、商品コンセプトの重要性を理解するとともに関係機関とのコミュニケーションの大切さがわかった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>ARスタンプは、親子連れのお客様に大変好評で、SDG sを知ってもらうコミュニケーションツールとしても大変有効なものであった。しかし、すべての教員がARの指導ができるだけでなく、今後も継続した取組を行うためには、教員の指導力の向上が課題である。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>徳島県ではタブレットの不具合が相次ぎ、現在授業で活用できていない現状であるが、1人1台端末が再び可能となれば、企業との打ち合わせや交渉、会計報告や実践報告など様々な場面でタブレットを有効に活用していきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	福島県	学校名	福島県立福島商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	ビジネス・マネジメント（2年：2単位）		
連携活動の相手先	起業家		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>10月～11月 ビジネスプランの立案 12月～1月 ビジネスプランのブラッシュアップ 2月 発表会の実施</p> <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人中小企業基盤整備機構「起業家教育プログラム実施支援」を活用した起業家講演 ・グループによるビジネスプランの立案と改善 ・校内ビジネスプランコンテスト（発表会）の実施 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>「地域課題を解決するビジネスプラン」というテーマで実践的な取り組みをさせることで教科書の理論と実践の往還による深い学びと、専門家の対話やアイデア創造演習等の協働的な活動を通してコミュニケーション力の向上及びチャレンジ精神の涵養に資することをねらいとした。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>ビジネスアイデアの創造には、人間が持つ慣性や固定概念にとらわれない思考を育成し、かつ、まずはどのようなことに対しても自分の意見を持つことやチャレンジする精神が重要となるため、4人1班を編成し、ターゲット顧客に関するペルソナ設定の後、ビジネスプラン立案をGoogle Jamboardを使い、質より量、批判禁止などの基本ルールを順守させたながらブレインストーミングを行わせた。ブレインストーミングの後、同アプリケーションでKJ法によるグルーピング、ビジネスプランの絞り込み、起業家や専門家と連携したプランのブラッシュアップを実施した。最後に、各班でGoogleスライドを使用しプランをまとめ、地元起業家を招いて発表会を実施した。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動の様子、感想及びレポートの提出、パフォーマンス評価（発表）</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>自身の端末をインターネット検索だけでなく、ブレインストーミングやKJ法などの思考ツールやGoogleスライドでの発表ツールとして実用的に活用できることを認識させ、技能を向上させることができた。また、ツール（道具）を何に活用するかについて、起業家教育と結びつけることで、協働性、主体性、創造性、表現力の向上につなげることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部との連携にあたり、基本的なビジネスマナーや社会人スキルの定着が必要。 ・タブレットの活用スキルに個人差がある。 <p>4 今後に向けて</p> <p>ビジネスプランを立てるにあたり、地域の課題やニーズを把握するために、校外で市場調査やインタビュー等が行えれば良かったのだが、2クラス80名をグループ分けし、さらに教員1名で実施するのは、困難を要するため実施しなかった。今後は、生徒自身で調査対象と最適な調査方法（学校内でオンラインによる調査）を進めていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	群馬県	学校名	群馬県立高崎商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	経済活動と法 (3年: 2単位)		
連携活動の相手先	企業、地方公共団体など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Forms、Google Meet、Google Classroom		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～11月 教科書の内容を中心に民法の基本や労働者と情報の保護及び税に係る法規について学習 ・12月～2月 企業活動と法規、知的財産と法規、税と法規、企業責任と法規の中から、テーマを決め調査研究、発表 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～11月 法規の改正などの動向・課題など地域の新聞やインターネットなどを活用して情報を入手。ビジネスを適切に行うための法の役割を理解し、雇用契約や売買契約、知的財産の保護など法規と関連付けて分析し、考察する学習活動を取り入れる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>地元企業について調べ、実際に就職している先輩へインタビューを行い、ビジネスを適切に行うための法の役割について理解を深める。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・12月～2月 決めたテーマにもとづいて、校内の生徒研究発表の準備。スライドや動画など、1人1台端末を活用して作成する。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>先輩が就職している企業について理解を深めるとともに、授業で学んだ法規について実際の企業ではどのような対応がとられているのか、調査研究を行う。</p> <p>雇用契約や売買契約、個人情報の取り扱いなど一つテーマを取り上げて、企業の方に直接質問を行う。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>1人1台端末 (本校はChromebook) を活用して、情報を集め、発表資料 (スライドや動画作成) などを行った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>法規についての知識、企業の方へのアポイント (準備・マナー)、テーマの設定や活動内容、スライドや動画の作成・発表態度</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>地元企業について調査研究することで、就職先について理解を深めることができた。また、新聞やインターネットで調べ学習をすることで、企業が直面している法規の事例を学ぶことができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>全国的な食品会社の異物混入や賞味期限改ざんなどがあるが、不正行為を行った企業に直接その内容について伺うことは難しいため、先輩などから働き方改革などの実際の事例について伺うことに限られた。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>Chromebook (1人1台端末) を活用して、Google Formsでアンケートを作成したり、スライドを作成したりして、発表の資料を作ることができている。今回の取り組みをきっかけに商業で学んだことを就職先でも生かして、卒業後の活躍の場を広げてほしい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立宮崎商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	グローバル経済（2年：2単位）		
連携活動の相手先	地方公共団体 企業 大学		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 教科横断型学習（グローバル経済、外国語・論理表現Ⅱ、総合的な探究の時間） 4月～6月 マイナビの教材を用いた、グローバルに関するテーマを設定し、調査研究 7月～3月 テーマに対して宮崎市役所、株式会社Katatium 宮崎国際大学で研究発表 論理表現Ⅱにおいて英語ディベート マイナビキャリア甲子園に向けて応募準備</p> <p>(2) 活動内容 ・4月～6月 マイナビの教材を用いた、グローバルに関するテーマを設定し、調査研究。 統一テーマに対して、グループ学習を行い、1人1台端末を用いながら、調査研究を行う。 onedriveにプレゼンを保存し、自宅でも作成ができるよう共有化を図る。 ・7月～3月 宮崎市役所(観光戦略課) 株式会社Katatium 宮崎国際大学でグループ発表 調査研究について関係機関よりフィードバック。 Zoomでマイナビキャリア甲子園の担当者からアドバイス。 論理表現Ⅱ・英語ディベート グローバルな視点で、マイナビキャリア甲子園へ応募。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 科目「グローバル経済」の視点を活かし外国語と探究的な学びを結びつけ、教科横断型学習を行う事により、予測不可能な時代に向けた生きる力を育成する。 その上で、市役所や企業、大学と連携し、社会との結びつきを深めグローバルな視野を広げる。</p> <p>(2) 工夫 教科横断型学習を行う事により、体系的な学びが実現できる。市役所や企業と連携することで、生徒達がより自分ごととして問いを捉える事ができた。グループ発表やグループ同士で、ディベートを実施することでより、思考判断表現を身につける工夫を行った。</p> <p>(3) 評価（グローバル経済） グループ活動（行動観察）、プレゼン発表、単元テスト、期末テスト、ディベート レポート、学習の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 地方公共団体、企業、大学と連携することで、生徒達がより深い学びへと向かっていく様子が見受けられた。1人1台端末を活用しながら効率的なプレゼン作業やアンケート調査を行う事ができた。教科横断型学習を行う事で、体系的な学びを実践できた。</p> <p>(2) 課題 グループ学習での役割分担やある一定の生徒に任せる部分もあり、学習評価に反映する事になったが、協働的な部分の学びの教師の関わり方やアドバイスに一部課題が残った。</p> <p>4 今後に向けて 1人1台端末を活用し、グループ学習は元より外部機関と更に連携を図っていきたい。今回の取組をきっかけに、教科横断型学習をさらにカリキュラムマネジメントの視点で行っていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立釜石商工高等学校
科目名 (学年・単位数)	観光ビジネス (3学年・2単位)		
連携活動の相手先	株式会社かまいしDMC		
1人1台端末 以外の使用機器等	なし		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>4～6月：観光ビジネスへの理解と釜石市が目指す新たな観光についての考察</p> <p>8～11月：市内事業者と協働し、観光促進のアイデア創出 (Teamsを利用したWeb会議)</p> <p>12～1月：市内観光フォーラムでの研究活動発表</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>4～6月：市内事業者から現在の観光プログラムと今後の展望を学ぶ 中学生を対象とした観光プログラムの周知活動 (担い手育成) 新たな観光プログラムの考察</p> <p>8～11月：観光促進のアイデア創出 観光促進商品等の研究</p> <p>12～1月：観光に対するプログラム作成・ブラッシュアップ 市内事業者や観光研究に携わる方との意見交換 市内観光フォーラムでの研究活動発表</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>釜石市が提案する新しい観光の形、オープン・フィールド・ミュージアムは、国際的な認証機関から高く評価を受けている。そこには、地域の資源をそのまま活用することや地域住民やその生活を観光の資源として活用することが含まれている。この事業創出に携わる企業と連携することで、新たなビジネスを創造する姿勢を学ぶとともに、地域理解を深める機会とすることがねらいである。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>釜石市の観光プログラムには多くの事業者がかかわっている。それらの事業者を広く関わる機会を持たせることで視野を広げる機会としたい。また、観光に関する学びを深めるために、観光ビジネスの授業では、端末を活用した調べ学習やオンラインによる事業者からの情報収集等により基礎的な知識を学び、体験的・実践的な学びは課題研究の時間を活用している。</p> <p>(3) 評価</p> <p>基礎的な知識については、観光ビジネスで、課題・提出物・レポート・各期考査から評価をする。実践的・体験的な学びについては、課題研究で、提出物・レポート・考察活動の内容から評価をする。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>活動は始まったばかりであるが、生徒たちは釜石市の取り組みについて理解が進んでおり、自分の知らなかった地域の良さを感じている。さらに、外部団体とかかわることで、商業の視点を養っていると感じる。</p> <p>(2) 課題</p> <p>実践的・体験的な学びによる成果を出すためには、基礎的な知識は不可欠である。そのため、観光ビジネスの授業をどのように進めていくかが重要となる。また、外部で経験したことを、その都度生徒自身に振り返らせ、活動を評価させることが学びの深まりにつながると考えている。さらに、それらについて指導者側の評価のタイミングと評価の観点整理が重要となり、これらが課題と考える。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>今後は、連携事業者との活動が増えてくるため、それを念頭に置きながら授業の進捗計画や内容の精選をしていく必要がある。そして、それぞれの活動の中で、生徒自身が考察した内容やアイデアを大切にしながら、観光とビジネスの関り、地域産業への貢献、地域文化の理解などの視点を意識し取り組みを続けたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	宮城県	学校名	宮城県南三陸高等学校
科目名 (学年・単位数)	観光ビジネス（2年：2単位）		
連携活動の相手先	南三陸町観光協会		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google workspace		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 南三陸町で起きた震災復興に向けた活動、復興祈念公園、防災、特産品、観光地などについて、生徒が計画した内容でガイド実習を行う。</p> <p>(2) 活動内容 【4～5月】 ・南三陸町の歴史や震災について学ぶ（外部講師より体験談を聞く） ・観光ガイド計画（311メモリアル職員と連携） 【6～3月】 ・観光ガイド実習→振り返り→外部講師より体験談を聞く→プラン考案→ガイド実習（※このサイクルをまわす） ・レポート作成（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末） ・後輩への引継書作成 ・学習成果発表会プレゼンテーション準備</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい ビジネスを適切に展開し、企業の社会的責任を果たす視点をもち、南三陸町で起きた震災（チリ地震津波、東日本大震災）やその後の復興に向けた取組、町の特産品や観光地について、生徒が観光ガイドとして観光客へ説明する。この活動を通して、観光資源の効果的な活用やマーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組む態度を養う。また、自然環境が豊かであり自然と共存するこの町づくりを担う一員としての当事者意識を醸成させる。</p> <p>(2) 工夫 東日本大震災当時2、3才であった生徒だが、こちらの想定以上記憶が鮮明にあることから、生徒の体験談を踏まえたオリジナルのガイドをつくれるよう震災当時の振り返り学習やプレインストーミングの時間を行ってから、震災のインプットを行った。また、震災伝承施設311メモリアル（南三陸町観光協会）や、実際に語り部を行っている方にご協力をいただき、顧客向けのガイドプラン実現に向けて取り組んだ。その際に、iPadを活用してガイドプラン立案に向けて写真や動画の撮影をしたり、ガイド実習の様子を撮影し合いフィードバックに生かしたりした。</p> <p>(3) 評価 ・ルーブリック表を用いたパフォーマンス評価 （グループ学習、ガイド実習、学習成果発表会等のプレゼンテーションの様子） ・レポート</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 ・自分達で写真や動画を自分達で撮影し、ガイド実習に生かすことで当事者意識が芽生え、受け身ではなく能動的な活動になった。</p> <p>(2) 課題 ・校外ではWi-Fi環境が整っておらず、LTE接続もできないことから、写真や動画のアップロードやインターネット検索が即座にできない。結果、生徒本人のスマートフォンを使用し、円滑に活動を進められたが、生徒本人に通信料を負担させることになった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>・ネットワーク環境の確認や整備を行う。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	福井県	学校名	福井県立奥越明成高等学校
科目名 (学年・単位数)	観光ビジネス（2年：2単位）		
連携活動の相手先	大手旅行会社（株式会社日本旅行）、地方公共団体（大野市）、 地元企業等（一般財団法人越前おおの観光ビューロー、野村醤油株式会社）		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、WindowsPC		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 実践的学習として、教育旅行（修学旅行、研修旅行）商品の開発に取り組む。 4月：観光、観光ビジネスの概要 5月～12月：観光政策と観光資源、観光マーケティングの研究・考察 1月～3月：観光ビジネスの展開</p> <p>(2) 活動内容 5月～12月 ・修学旅行の変遷（昭和～平成～令和）、次世代修学旅行について考察。 ・地元地域の観光資源・観光素材の造成および研究、福井県版修学旅行のモデルコース考案、発表。 ・モデルコースのフィールドワーク（取材・撮影）→プロモーション動画制作 1月～3月 ・コースの検証→モデルコース精査（地元企業等による外部講師授業含む） ・オンライン交流会（R6.5に修学旅行で来県する高校） ・コースでのアテンド予行練習 →サステナブル・ブランド国際会議2024で来県の高校生をアテンド</p>			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい これまで本校で取り組んできた観光教育、特に地元の高校生が地元の魅力を発信することについて、より実践的な活動を行うことにより、地元の魅力再発見、愛郷心を高めるとともに地元の観光活性化に貢献する。</p> <p>(2) 工夫 全生徒が確実に参加し、尚且つ主体的に活動させるために、授業スタイルはワークショップ型を中心にした班・グループ単位で行った。都度、授業シート・制作物等はGoogleドライブ上で連携相手先にも共有することで、リアルタイムに意見をもらうことができた。</p> <p>(3) 評価 講義内容テスト、各種発表（内容・他者からの学びの有無）、各種シートの作成、班活動、振り返り</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 観光客と観光業に携わる人とのつながりがより良い観光になることに気付き、地元の魅力について、一人ひとりの考え方が変わり、自分たちの地域に誇りを持つようになった。1年間の活動を通してクラス全体として成長できたことを生徒たち自身が実感できた。</p> <p>(2) 課題 班・グループ学習で一人1台の端末を使って簡単に地域の情報を収集できることは良いが、多くの情報量の中から有効な情報を取捨選択し、知っている知識と結び付けて自分の言葉に直して表現する力の育成が必要である。そのためには、国語科と連携する教育課程の編成も考えていかなければならない。</p>			
<p>4 今後に向けて 単発で終わらせることなく、次年度以降に継続していくために「地域のことについて学ぶ」時間の増量および外部講師を有効活用するための検討をしていく。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	島根県	学校名	島根県立浜田商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	観光ビジネス (2年: 3単位)		
連携活動の相手先	起業家 (OB)、観光従事者、役場観光課、学校横断型探究プロジェクト参加校		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Google Workspace for Education、SchoolTakt、Canva		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～ 6月 地元を知り、地元の魅力発信 7月～11月 地元を生かした着地型観光プランの設計 12月～ 3月 地元観光業を支え、地元の社会課題を解決する新規ビジネスプランの設計 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～ 6月 役場観光課の職員による講話、観光協会資料より地元魅力の再発見 Canvaにて地元の魅力PRチラシを作成、県外生徒にZoomで発表 7月～11月 地元観光業2社より観光プラン作成授業。着地型観光プランの考案 地域大人にプレゼン、改善したプレゼンを県外生徒にZoomで発表 12月～ 3月 地元起業家(OB)によるブルーオーシャン戦略の授業を週1回の講義を受け、社会課題を 解決する新規ビジネスプランを考案。発表会には地元関係者や事業家が参加、また県外 生徒や卒業生にはZoomで発表 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>地元を知り、地元の魅力に改めて気づくことで地元を誇りに思う授業設計を展開。地元観光資源を生かしたPR、観光プラン、ビジネスプランを考案させた。市町村が考える観光業や観光従事者、起業家からリアルな観光やビジネスについて深く知る。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>生徒が考案したチラシやプランは生徒同士→地元大人→県外生徒と発表・評価・改善を3回行うことでブラッシュアップを図った。多くの意見から生徒が改善ポイントを自ら選択するような流れを設計。</p> <p>(3) 評価</p> <p>生徒成果物、発表による生徒や起業家による評価、取組姿勢、振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>実際に地域で従事されているプロフェッショナルに講話や指導をいただくことでリアルな現場と教科書にはない深い商業知識を得ることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>地元の観光資源を生かした1、2学期の計画であったが、新規ビジネスの考案は観光資源が十分に生かされなかった。講話に対して端末によるメモが十分に取らざらく一方的に聞く場面もあった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末を用いることで、生徒と県外生徒が1対1でコミュニケーションを図ることができ、情報交換が密に出来るため、積極的に活用していきたい。起業家との連携を行う上で、教科書の内容を基本とし、実際のビジネスプラン考案を経験させていくうえで、より深い商業教育を実践していきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立松山商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	観光ビジネス（2学年・2単位）		
連携活動の相手先	松山青年会議所 河原外語観光・製菓専門学校		
1人1台端末 以外の使用機器等	教員PCのブラウザによるテキストマイニング（無料ソフトの利用）		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～3月 観光ビジネスの概要学習・観光産業の特徴について・事例研究 ・ 9月～11月 専門学校の講師招聘による、「ツアープランニングプログラム」の実施 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元観光スポットのSWOT分析、地域資源についての探求 ・ 「松山学Ⅱ」班活動による地元観光スポットのキャッチフレーズ考案 ・ キャッチフレーズを元にしたツアープランニングの実施（作成、発表、評価） <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 TeamsやFormsの機能を活用して生徒の主体的な活動を促すとともに、各班の意見を共有し学びを深める。 2 自分の考えをまとめ、他者に理解してもらうためのプレゼンテーション能力を身に付けさせる。 3 外部講師やA I解析による評価を取り入れることにより、学習の深化を図る。 <p>(2) 工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の投票による考案したキャッチフレーズの順位付けをする際、生徒の主観的な投票にならないようにA I解析を取り入れた。 2 班活動ではTeamsの画面共有機能を用いて班ごとの意見を共有、集約することで理解の深化に努めた。発表時にはFormsのアンケート機能を用いて集計結果を教室の前面に表示し、発表と評価の一体化に取り組んだ。 3 旅行業務取扱管理者資格を持つ外部講師による評価を生徒に示してもらうことで、ツアープランニングの改善に役立てた。 <p>(3) 評価</p> <p>自己評価（生徒個人の取組姿勢や理解度、学習状況の振り返り）、相互評（班活動の状況、ツアープランの作成・発表）、外部講師評価（ツアープランニング全体）による多角的な評価を取り入れた。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己評価を取り入れたことにより、課題への取組姿勢や理解度、学習状況の振り返りなど、生徒自身の取組状況が即時に確認できることで学習意欲が向上し、主体的に学ぶ姿勢が身に付いた。 2 相互評価を取り入れたことにより、プレゼンテーションソフトに発表内容のポイントをまとめ、限られた時間で発表するなど、プレゼンテーションスキルの向上が確認できた。 3 外部講師による評価を取り入れることにより、専門的かつ効果的な意見を聞くことができ深い学びにつながった。 <p>(2) 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 より理解を深めるために、旅行代理店等の見学を通して、実務ではICT機器をどのように活用してツアープランを作成しているのかを体験させたい。 2 1人1台端末は学びを深めるための一つの手段であることを理解し、1人1台端末の操作が授業の中心（目標・ねらい）にならないように留意する。 3 テキストマイニングによるA I解析は、一定の指標として見せることしかできず、評価に取り入れることができなかった。そこで、生成A Iを利用したループリック評価表を活用し、評価の効率化と公平な評価に努めていきたい。 <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末を活用し、teamsやformsなどを授業に取り入れながら、様々な学習を効果的に進めていくことに加え、teamsのプラットフォームを活用した生成A Iによる評価表の作成により、評価の効率性と透明性、公平性に努めていきたいと考えている。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	高知県	学校名	高知商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	観光ビジネス (2学年/4単位)		
連携活動の相手先	石筒 覚 (高知大学地域協働学部) 六反田 裕 (株式会社One Habit) 長尾 智史 (高知県観光振興部観光政策課) 木森 颯人 (高知大学 人文社会科学部) 岡村 龍弥 (こうち観光ナビツォーリストセンター) 浜崎 洋 (高知県観光コンベンション協会) 加藤 愛子 (日高村地域おこし協力隊) 森戸 香奈子 (じゃらんりサーチセンター)		
1人1台端末 以外の使用機器等	アプリ (Canva/テキストマイニング/ロイロノート)・教材 (じゃらん とーりまかし)		

1 授業概要

(1) 年間計画

- 1 学期 (商店街フィールドワーク/観光振興策立案/アンケート調査)
- 2 学期 (観光振興策の立案と提案/目標設定と情報収集/課題解決に向けたアイデアの創造)
- 3 学期 (企画書のブラッシュアップ/プレゼンテーション)

(2) 活動内容

5人×7つのプロジェクトチームを編成し、高知県の観光振興策の立案に向けて学びを進めた。



2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

①観光ビジネスについて実務に即して、体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。②観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。③ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学習指導要領より)

(2) 工夫

「観光」「観光ビジネス」の分野についての学びをとおして、世界や日本、地元高知や地方、地域の課題について考え、その解決手段について考える。

自治体や企業、NPOやNGOの方々と繋がりを持たせていただき、学校での学びをより深めることに取り組む。

(3) 評価

外部講師による外部評価

3 成果及び課題

(1) 成果

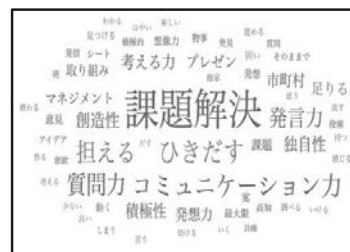
生徒たちはプロジェクト(高知県の観光振興策)実現に向けチームで役割分担をしながら、自主的に調査活動や外部関係者との連携を行い、自ら「やってみたいこと」に挑戦する姿が見られるようになった。必然的に生徒一人ひとりに役割が生まれ、自身のやってみたいことに挑戦できる環境からお互いを大切する行動と指摘をし合う関係性が生まれた。

(2) 課題

令和5年度の取り組みでは、生徒たちはまだまだ「本当の高知」「高知の魅力」を知らないと感じる場面があった。幼少期から「高知は何もない」と感覚的に刷り込まれ、育ってきたためと思われるが、果たして本当に「高知は何もない」のか。生徒たちにはこの課題に対して検証の時間を十分に確保できなかったことが課題としてあげられる。

4 今後に向けて

「企画脳」を高める学習活動や、生徒が1年次から学んできた他教科や商業科目との結びつけを行いながら、自分たちの振興策を多面的・多角的に分析する仕掛けを取り入れていきたい。



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	青森県	学校名	青森県立三沢商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	簿記(1年・5単位) 財務会計Ⅰ (2年・3単位) 財務会計Ⅱ (3年・3単位)		
連携活動の相手先	日本商業教育振興会		
1人1台端末 以外の使用機器等	ZOOM、Google、YouTube		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ① 通年：インターネットを活用し、動画視聴により予習・復習
- ② 3月～6月 日商簿記1級・2級プロジェクト参加
- ③ 8月～11月 日商簿記1級・2級プロジェクト参加

(2) 活動内容

- ① 授業、自宅学習
- ②③ 自宅学習(週1回) 20:00～21:30
1級プロジェクト→日商簿記2級に合格した生徒が参加
2級プロジェクト→日商簿記3級に合格した生徒が参加

※リアルタイム(ZOOM)参加が出来ない場合は後日YouTubeによる視聴

本校はSAH(スーパー・アカウンティング・ハイスクール)に指定されて10年目。学校全体で日商簿記1級検定等高度な簿記会計分野の資格取得を目指す生徒たちに対する取組を行っている。

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

生徒が夢を実現するハイレベルな教育を実践し、商業高校出身者として地域や本県、ひいては国の経済発展のために第一線で活躍する職業会計人を育成するとともに、広く簿記の能力を生かした社会貢献に資する。

商業高校で3年間簿記を学び、興味を持った生徒が大学へ進学し税理士、公認会計士になる夢を叶えることで一生ものの仕事をつかむことを目的としている。

(2) 工夫

簿記会計に関する普及活動、簿記会計教育に関連する施設や環境の整備および指導体制を強化している。また月に一度公認会計士を招聘し、講演会や授業での指導をしていただくことで意欲向上に繋げている。

(3) 評価

参加状況、テキスト・問題集の取組状況、動画視聴状況

3 成果及び課題

(1) 成果

簿記に興味を持ち、専門性を高めるために簿記教育を受けられる進学先へ進んだ生徒が多い。その後公認会計士として社会で活躍している卒業生が多く誕生している。近年では在学中に日商簿記1級合格者を2年連続で輩出することができた。

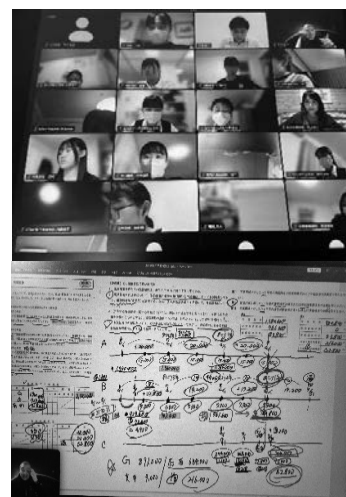
(2) 課題

20:00から21:30までのプロジェクトであるため強制はできない。いかに生徒が日商簿記2級に合格したいという気持ちを高めるかが課題である。高校3年間で日商簿記検定1級合格への道筋を立て、その後上級学校で公認会計士への橋渡しとなるような方向性を学校全体で進めていく。

4 今後に向けて

中学校社会科の新学習指導要領では、適正な「会計情報」の提供や活用により、企業経営が成立することを理解させるよう求められている。また高校の「公共」でも、「企業会計」「会計情報」に触れながら、経営への関心を高める指導を求められている。以上のことから本校は、中学生に対し早期から「会計」に興味をもってもらえるような活動や学習支援を通して、将来は地域社会に貢献できる人材の育成につなげていきたいと考えているため、「中学校との連携した会計教育の取組」を推進していく。

一人一台端末になったことで、意欲ある生徒が主体的に学習に取り組める環境ができ、それを活用できる生徒を増やしていきたい。





↑プロジェクトの様子

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立所沢商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	簿記（1年：4単位）		
連携活動の相手先	未定		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月～3月 簿記に関する知識と技術を習得させ基本的な仕組みについて理解させるため、Google フォームを活用し、取引の処理を中心とした小テストを毎時間実施する ・ 1月 簿記検定3級受験 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月～3月 取引の仕訳、勘定記入、決算など授業内容に即した確認テストをGoogleフォームを活用し実施する。 授業の最後に、タブレット端末より小テストの解答および解説を行い、企業における日常の取引について適正な会計処理を行う能力を身に付けさせる。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で取り扱った内容を、その日のうちに小テストとして振り返り、知識・技術の定着を図るとともに、資格取得意欲向上に努める。 ・ すぐに生徒に結果がフィードバックされ、理解度の把握を意識させる。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 解答を選択形式で行わせることで、簡単に取り組むことができるようにした。 ・ 最後に授業の感想を入力できるようにし、意欲的な授業態度を継続させるようにした。 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み状況 ・ 正答率 <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すぐに結果が分かるため、ゲーム感覚で積極的に取り組んでいた。 ・ 繰り返し取り組んでいる生徒が見受けられた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 解答を選択式にしたため、出題方法が限られた。 ・ 定期考査の結果にははっきりとした関係が見られなかった。 <p>4 今後に向けて</p> <p>家庭でも解説等が見られるようにすることや、出題方法について模索する必要があるなど多くの課題が見つかった。</p> <p>学校での学習を、家庭でも同じように行えることが1人1台端末の強みであると考え、家庭学習にも活用できるような教材開発や活用方法、専門学校や大学等との連携についての検討を進めていきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立岩槻商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	簿記（1年：5単位）		
連携活動の相手先	なし		
1人1台端末 以外の使用機器等	生徒の端末はiPad（アプリケーション「メタモジクラスルーム」を活用）		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 簿記の通常の年間計画と変わらない。</p> <p>(2) 活動内容 授業の解説は、どの単元でもメタモジクラスルームでの画面共有を利用する。教科書や問題集、オリジナルプリント等を生徒と画面共有して、生徒は机上にあるiPadで確認しながら紙の問題集やプリントに記入する。 宿題はメタモジクラスルームで配布をして、即座にチェックをする。できていない部分は個別にヒントやコメントを書く。個別の進捗状況や達成状況が分かり、個別の支援ができる。 自習や家庭学習用にメタモジクラスルームで記入しながら、画面録画をした動画をYouTubeでアップして生徒にクラスルームを通じて配布している。 協調学習にもメタモジクラスルームは活用しやすい。グループごとにまとめたり、クラス全体での発表も画面共有でき、その場で写真を貼り付けられるので、スムーズに運営できる。</p>			 <p>YouTube メタモジクラスルームの画面録画をした動画</p>
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 個別の支援がしやすい点にある。個別の達成状況を確認しやすい。動画解説を共有してあげることで、各自で勉強に取り組む環境を整えることができる。 簿記については、とくに手元のiPadで確認できるのはメリットが大きい。帳簿の記入での線の引き方やその他記入上のルールなどを黒板では伝えにくい点、分かりやすく伝えることができる。 教員が教えて、受け身になってしまいがちだった生徒が、すぐに自分で調べたり、表現するツールとして活用できる。このような授業形式は、個別最適な学びにつながると考える。</p> <p>(2) 工夫 生徒の様子をよく観察したり、生徒と対話することを大切にしている。私自身、試行錯誤しながら扱っているので、生徒に分かりやすいものになっているのかをよく確認しながら進めている。 この生徒の観察・対話がメタモジクラスルームを活用することで、短時間かつ効率的に行うことができる。紙媒体での記入と組み合わせて運用している。</p> <p>(3) 評価 取り組み状況や正答率。</p>			 <p>協調学習の様子</p>
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 生徒の帳簿の記入がとても美しい。これは生徒が手元で詳細を確認できている成果である。黒板を使って板書していたときではできなかった達成具合である。昨年度の様子を見ると、動画をYouTubeでアップした部分の出来がよかった。とくに外国籍の生徒は何度も観たようで、動画部分はほとんど満点であった。家庭学習の支援に役立っている。</p> <p>(2) 課題 動画の撮影についても効果はあるが、準備と時間の確保に苦勞する。勤務時間内には全く追いつかない。</p>			
<p>4 今後に向けて 今後の計画としては、教材や指導方法等に関して専門学校や大学等との連携を検討し、学びの深化を図っていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	山梨県	学校名	山梨県立北杜高等学校
科目名 (学年・単位数)	簿記(2年:4単位)		
連携活動の相手先	北杜市役所・北杜市内企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	Teams		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・4月～7月 「食杜北杜」に関わる事業概要、SDGsに関する学習
- ・8月～3月 「食杜北杜」活動開始(商品開発・販売実習)

(2) 活動内容

- ・4月～7月 これまでの先輩たちが継続してきた活動(商品開発・販売実習)を振り返る。
- ・8月 第0回ワークショップ(事業説明・日程確認)
- ・9月 第1回ワークショップ(企業とのマッチング)
- ・10月 第2回ワークショップ(生徒考案ブランディングシートプレゼンテーション)
- ・11月 第3回ワークショップ(企業実習)
- ・12月 第4回ワークショップ(試作品検討1)
- ・1月 第5回ワークショップ(試作品検討2・パンフレット検討)
- ・2月 第6回ワークショップ(SDGsドミノ・パンフレット校正1)
- ・3月 ※1 Teamsでのやり取り(パンフレット校正2)
※2 販売協力事業者によるECサイト運営・販売実習講座
成果報告会(事業報告、SDGsバッジ・プロジェクト修了証授与、試食)
販売実習(本年度開発商品及び過去開発商品を道の駅などで販売)



2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

北杜市の山々で育まれた豊かな水や自然環境がもたらす「食と農」を活用し、地域の中小企業者と次世代を担う地元高校生が連携し、ビジネスにつなげることを通じて、地域の稼ぐ力を醸成することを目的とした、新商品開発プロジェクトで、SDGs11番目の開発目標である「住み続けられるまちづくり」を視野に入れている。

(2) 工夫

北杜市役所・北杜市内企業・学校が一堂に会して、事業を実施することで生徒のキャリア観を具体的に育成することができるようにしている。班別に分かれそれぞれが商品を開発し販売するまでの商業の一連の学びをリアルに体験できている。グループワークの際には、アナログ的な付箋や模造紙を使った発表に加え、情報共有ツールとしてBYODを使用し、ICT機器を活用したワークショップを行えている。

(3) 評価

プロジェクト日誌、レポート作成、グループ発表、振り返り

3 成果及び課題

(1) 成果

これまで授業で学んだ知識・技術を活かし、商品の企画・製造・販売までのビジネス活動をリアルに体験し、授業では学べない内容を体験することができた。

(2) 課題

商品を今後も継続して、販売していくためには、利益計画もさらに具体的に学び、企業会計についても学習する機会を設けたい。



4 今後に向けて

BYOD端末をより活用していくために、ECサイト運営の協力や活動内容を発信するなどの学習をすすめ、パンフレットやSNSなどを利用した販売促進へもつなげていきたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	奈良県	学校名	奈良県立商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	簿記（会計科1年・5単位）		
連携活動の相手			
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		

1 授業概要

(1) 年間計画

- ・10月下旬 単元「記帳の効率化 会計ソフトウェアの活用」

(2) 学習内容

- ・会計ソフトウェアの利点と活用（1時間）
- ・会計ソフトウェアによる伝票の起票（3時間）
- ・会計ソフトウェアによる決算（2時間）

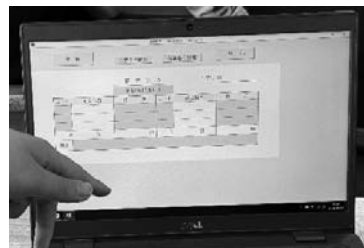


図1 教科書に準拠した
会計ソフトウェア

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

会計ソフトウェアの教材を使用して実習することにより、一層実務に即した学習となる。その結果、会計ソフトウェアの利点や活用について効率的に理解することができる。また、会計ソフトウェアの活用が進んだとしても、簿記に関する知識や技術を習得することの必要性に気付かせる。

(2) 工夫

使用した会計ソフトウェアは、操作方法の説明・理解・習得に時間をかけることがないよう、教科書に準拠したものを採用した（図1）。

(3) 評価

授業内容や学習の進め方の妥当性を検証し、授業改善に生かすため、Google Formを活用した。生徒の振り返りより、「会計ソフトウェアを使うと簿記が必要なくなるわけではない」といったコメントが見られ、ねらいを達成できたと思われる。また、「紙など消耗品費の削減ができる」ことに気付く生徒もおり、前向きに学習に取り組む様子が見られた。

3 成果及び課題

(1) 成果

実習であることから主体的に取り組むことができ、取り組んだ内容をクラスメイトと確認・共有する（図2）ことから対話的に学ぶことができた。実務に即した学習内容となったことで、単元の内容理解だけでなく、ここまでの学習内容の理解の定着に効率的に繋がったと思われる。



図2 会計ソフトウェアを見て
クラスメイトと確認・共有する様子

(2) 課題

本実践は、実習を取り入れるため、時として会計ソフトウェアの使用方法の説明に終始しがちである。会計ソフトウェアの利便性に気付かせるだけでなく、簿記本来の一連の流れを会計ソフトウェア上でも丁寧に再確認させる必要がある。

4 今後に向けて

本実践は、操作方法の説明にかかる時間を極力省くために教科書に準拠した会計ソフトウェアを使用した。その結果、補助簿の機能が備えられていなかったため、簿記の一連の流れや補助簿の必要性を確認しながら学習を進めるには、少し不十分であった。より良い教材を採用するには、教材研究の時間が必要であることや、教材によっては費用がかかることも考えられる。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立日立商業高等学校						
科目名 (学年・単位数)	財務会計Ⅰ (2年:4単位)								
連携活動の相手先	生徒、教員等								
1人1台端末以外の使用機器等	Google workspace for Education								
<p>1 授業概要</p> <p>年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～7月 財務諸表分析を学習し、財務比率の意味と財務諸表分析の評価基準を理解させる。 ・8月～1月 金融庁「EDINET」を活用し、財務諸表の分析と発表を行う。 <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～7月 財務諸表分析に関する毎時間の課題を Google Classroom で各生徒に送り「個別学習→グループ学習」の流れで知識を深めていく。個別学習で作成した「スライド対応プリント」を生徒間で共有し、グループ学習につなげる。 ・9月～1月 金融庁「EDINET」を活用し、財務諸表の分析と発表を行う。 グループごとに1企業を選択し、 ア 分析に必要な情報を収集、計算する。 イ 安全性・収益性・成長性の3観点から分析する。 ウ 約2か月単位で学習内容について発表する。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメントシート等を共有することでグループ活動をより活発なものとする。 ・欠席者も遅れることなく授業に参加できる。 ・生徒の活動を把握しやすくする。 <p>工夫</p> <p>全ての学習活動を端末を使用して行う。情報収集、レポート作成、発表用スライド作成等。</p> <p>評価</p> <table border="0"> <tr> <td>・「知識・技術」</td> <td>毎時間の課題</td> </tr> <tr> <td>・「思考・判断・表現」</td> <td>レポートの作成、グループ活動状況、発表</td> </tr> <tr> <td>・「主体的に学習に取り組む態度」</td> <td>取組姿勢、学習の振り返り</td> </tr> </table> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本物」の財務諸表を分析することで、基礎知識を実践活用する機会となり、知識を深めることにつながった。 ・生徒の活動等をデジタル形式で記録、共有することで教師はそれをリアルタイムで把握し、フィードバックすることも可能となる。これにより、より客観的な評価ができ、授業改善にもつながった。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助教材の工夫とグループ活動での効果的な課題の設定が必要である。 ・より適切な評価基準や方法を確立する必要がある。 <p>4 今後に向けて</p> <p>生徒の端末を活用することで効果的な学習活動や評価につながっている。紙で実施していた作業はデータで整理されており、コミュニケーションにも大いにつながっている。今回実施した「内部での連携」を「外部との連携」につなげる努力をしていきたい。</p>				・「知識・技術」	毎時間の課題	・「思考・判断・表現」	レポートの作成、グループ活動状況、発表	・「主体的に学習に取り組む態度」	取組姿勢、学習の振り返り
・「知識・技術」	毎時間の課題								
・「思考・判断・表現」	レポートの作成、グループ活動状況、発表								
・「主体的に学習に取り組む態度」	取組姿勢、学習の振り返り								

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例



都道府県名	兵庫県	学校名	兵庫県立姫路商業高等学校						
科目名 (学年・単位数)	財務会計Ⅱ（3年：3単位）								
連携活動の相手先	大学、県内の協会加盟校など								
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Google Workspace for Education								
1 授業概要 <p>(1) 年間計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>1 学期</th> <th>2 学期</th> <th>3 学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 財務分析の演習 財務分析レポート作成 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 財務分析中間発表 レポート再考 ビジネスモデル研究 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 発表資料作成 発表準備 発表会実施 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 活動内容</p> <p>1 学期は財務分析の比率の総復習と同業他社を2社比較分析し、演習を行った。その後、生徒が興味のある企業を2社程度選定し、夏季休業中に財務分析を行った。</p> <p>2 学期に大学講師より、Zoomを用いてレポートの中間発表を行い、フィードバックをもらった。フィードバックしてもらった内容をもとにレポートを再考し、対象企業のビジネスモデル研究も併せておこない、対象企業への理解を深めた。</p> <p>3 学期は発表会に向けて、発表資料の作成と発表準備をおこなった。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>校内に留まるのではなく、校外とのつながりを持つことで生徒自身の視野を広げることをねらいとした。その為にZoomで大学講師と連携し、助言やアドバイスを頂く機会を多くとった。また、発表会の実施にあたっては、協会加盟校に連絡し、Zoomで発表会に参加してもらうことで多くの教員や生徒に評価をしてもらう機会もつくった。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>大学講師との連携に際しては、一方的なやりとりにならないように生徒が作ったスライド資料を事前にPDF化し共有した。また生徒には質問したい内容などをGoogle Formsでアンケートを取り、集約しておくことで、双方向のコミュニケーションが図れるよう留意した。</p> <p>Zoomでの発表会では、チャット機能を利用し、スライド資料の配布とGoogle Formsで作成した評価表を共有することでリアルタイムに繋がる工夫もおこなった。</p> <p>(3) 評価</p> <p>連携活動の評価に関しては、当日の参加者（校内、校外）の発表評価（55点中平均48.15点）と発表会に至るまでの活動の取り組み姿勢などを総合評価した。参加した先生方からは「財務データだけでなく、期間比較や増減の理由も考察していて良かった。」などの評価をいただいた。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>生徒自身が正解のない問いに対して、自分で仮説を立て、調べ、考えるという作業を通し、商業の学びを体系的に理解し、学んだ内容が社会と繋がっていることを実感できた。また、学校内で学びを完結するのではなく、学校外の人達との繋がりを持ち、研究を評価してもらえたことも生徒にとっては貴重な経験となった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>今回は生徒の発表がメインになってしまい、参加者との議論や情報の共有が十分にできなかった。今後はブレイクアウトルームなどを活用し、少人数で議論、多人数で共有できるような仕組みを作りたい。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末を活用し、場所や時間に囚われず生徒自身の研究を進めていくとともに個の作業になるのではなく、端末を利用しながら様々は人たちとコミュニケーションを図り、視野や考えを深めさせるきっかけづくりをおこなっていききたい。</p>				1 学期	2 学期	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 財務分析の演習 財務分析レポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 財務分析中間発表 レポート再考 ビジネスモデル研究 	<ul style="list-style-type: none"> 発表資料作成 発表準備 発表会実施
1 学期	2 学期	3 学期							
<ul style="list-style-type: none"> 財務分析の演習 財務分析レポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 財務分析中間発表 レポート再考 ビジネスモデル研究 	<ul style="list-style-type: none"> 発表資料作成 発表準備 発表会実施 							



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	神奈川県	学校名	横浜市立横浜商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	情報処理 1学年 3単位		
連携活動の相手先			
1人1台端末 以外の使用機器等	・Google Workspace For Education ・ChromeBook ・スマートフォン等BYOD端末		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期 企業活動と情報処理、情報の集計と分析、プレゼンテーション ・2学期 コンピュータシステムと情報処理、情報の集計と分析、ビジネス文書の作成 ・3学期 コンピュータシステムと情報処理、情報の集計と分析 <p>(2) 活動内容</p> <p>各単元での考察事項に対し、意見共有をGoogleFormやスプレッドシートを利用して実施した。</p> <p>①自分の意見をまとめる ②意見を伝える形に整える ③クラスの意見を共有する ④共有した意見を踏まえて自分の意見を再考察する</p> <p>の流れを一人一台のICTを活用し、スムーズかつインタラクティブに行う。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>限られた時間の中で意見をまとめ、整え、伝え、再考察をICTを活用して行い、意見共有をより主体的で深い学びの実践を行った。</p> <p>従来の意見共有では発表が目標になりがちだが、共有した意見が文字として残るため、意見を伝える・聞くで終わらずに再考察する機会を用意する。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>自分の意見を声ではなく文字によってアウトプットするため、ICT機器の操作力や言語化能力の差を教職員のサポートで埋める。</p> <p>(3) 評価</p> <p>意見の具体性、わかりやすさ、主体的に取り組む様子、意見の変化が明確かつ根拠が具体的である。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>ICTを活用した意見共有により、一人ずつ発表を行う形式よりもスムーズかつインタラクティブな意見共有となったと考える。</p> <p>声を出しての発表を得意としない生徒も意見を発表することができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>個人の技術に応じて意見の内容に差が出たと考えられる。生徒の技術を底上げしたうえで、具体的な質問や声掛けが必要である。</p> <p>グループや一人でのICTを使用した発表・プレゼンテーションの場も設定し、意見を伝わりやすい形に整えて伝達する技術も身に付けさせる必要がある。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>一人一台端末を調べ学習だけではなく、多様なコミュニケーションのツールとして活用することで、さまざまな学習効果を高めていきたい。</p> <p>生徒個人の多様なニーズに対応することで、個別最適な学習環境を整えることができると考える。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立つるぎ高等学校
科目名 (学年・単位数)	情報処理 (地域ビジネス科1年・5単位)		
連携活動の相手先	企業		
1人1台端末 以外の使用機器等	BOYD (生徒自身のスマートフォン等)、動画編集アプリ		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～6月 企業と連携したワークショップを通し、「ものづくり(映像制作)」の楽しさを体感する。また、インターネットや1人1台端末・生徒自身のスマートフォン等を活用し、撮影・編集を一貫して行うことで、高額な撮影機材やパソコン等を使用せず、誰でも簡単に作品を作ることができることを、ワークショップを通して体感し、映像制作への第一歩を踏み出す。 7月～3月 生徒は単純に映像制作を行うだけではなく、プロの映像制作者から伝えられる「ものづくり(映像制作)」に対するこだわりや集中力を体感する。また、作る喜びに加え、自分が制作した作品をインターネットを通じて世界へ、そして未来へ残したいと思えるような「ものづくり」を考える。 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～7月 インターネットや1人1台端末・生徒自身のスマートフォン等を活用することで、プロの機材や経験がなくても、世界に通用する作品づくりは可能であることを知り、すべての映像制作に共通する「表現の基本」や「自分にしか撮れない作品づくり」の手法を学ぶ。 7月～3月 「ものづくり(映像制作)」において企業(プロ)が、まず何を考え、何を思いながら、更には作品で何を伝えたいのかなど、「ものづくり(映像制作)」の本質について考える。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 情報通信ネットワークを活用して、動画編集等に関する情報を検索・収集・活用するワークショップを行い、情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 工夫 撮影は1人1台端末や生徒自身のスマートフォン等を使用する。企業(プロ)の本格的なレクチャーで、高額な撮影機材を使用せず、設定と撮影のコツを掴めばハイレベルな撮影ができることを体感する。</p> <p>(3) 評価 観察、ワークシート、作品、発表</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 動画の編集は、撮影した動画を並び替えたり、カットをしたり、更には音楽やテキストを追加して作品を制作した。また、撮影と同様、大切なことは高額な機材を使用することではなく、作り手のひらめきや独自性、インターネットの活用等が大切であることを学習した。</p> <p>(2) 課題 動画の内容を盛り込み過ぎること等により、動画の内容が薄くなり、主旨が伝わらなくなることがある。1番伝えたいことは何かをしっかりと考え、動画を制作していく必要がある。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>ワークショップでは、動画編集ではなく、インターネットの活用や「ものづくり(映像制作)」の本質を学ぶことを重視する。また、生徒は放課後等を利用して、県内の映画祭へのエントリーを目指す。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	大阪府	学校名	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校
科目名 (学年・単位数)	ビジネス情報管理 (3年選択：2単位)		
連携活動の相手先	SAPジャパン株式会社		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education, Canva, ChatGPT		

1 授業概要

- (1) 年間計画
 - ・4月～11月 生成AI、Web3.0等、最新鋭の情報に関する学習を進める。
 - ・11月 連携授業の実施
 - ・12月 振り返り授業の実施
- (2) 活動内容
生成AI体験、学習の実施



SAPジャパン株式会社との連携授業の実施 3回 3時間

- ・生成AIの歴史、ビジネスの活用事例、体験
- ・生成AI活用課題解決体験、ペルソナの設定
- ・振り返りとレポート作成

2 連携活動のねらい・工夫・評価

- (1) ねらい
生成AIが実際にどのように活用されているか、事例をもとに学び触れることで、今後どのように活用されるかを予測でき、活用する能力の育成を図る。
- (2) 工夫
連携授業の実施において、1人1台端末の活用とともに、様々なICT機器を活用した授業を実施することで、プラットフォームに依存しない能力の育成を行った。
- (3) 評価
振り返りレポート、小テスト (生成AIについての知識)、作成物、発表

3 成果及び課題

- (1) 成果
最先端の現場ではどのようにICT、生成AIが活用されているかを実際に聞くことができ、貴重な体験を行うことができた。まだまだ活用に課題や未来がある技術を身近に感じることができ、生徒達のキャリアに良い影響があった。
- (2) 課題
内容がやや複雑な面も多く、事前学習に十分な時間をかけても難易度が高い。連携授業の回数を増やすことができれば、より理解が深まると感じた。

4 今後に向けて

今までは学校のPCでしか行えなかった生成AIの事前学習や課題を、1人1台端末の活用で、自宅でも行うことができるようになった。連携授業は今後も積極的に行い最新の情報や技術に触れる機会を設けたい。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	島根県	学校名	島根県立出雲商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	ネットワーク活用 (3年・3単位)		
連携活動の相手先	生徒同士		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>ネットワーク活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1学期 ・第1章情報通信技術の進歩とビジネス ・第2章情報コンテンツの制作 ○2学期 ・第3章企業情報の発信とWebデザイン <ul style="list-style-type: none"> ① HTMLやCSS、JavaScriptによるWebサイトの制作 ② CMSを利用したWebサイトの制作 ・第4章インターネットとセキュリティ ○3学期 ・第5章電子商取引とビジネス <ul style="list-style-type: none"> ③ CMSを利用したWebサイトの制作 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒同士の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・HTMLやCSS、JavaScriptによるWebサイトの制作を行う際にはクラウドIDE環境を利用する。IDEを利用することで、生徒の個人端末 (ChromeBook) でもコーディングをすることができる。またクラウド環境を利用することで、グループで企画を考えて制作する際にデータの共有を行うことができ、自宅にいても他者と協働してプログラミングをすることができる。 ○システムエンジニア - 生徒の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・Googleクラスルームを利用して生徒それぞれがクラウドIDE環境のリンクを提出することで個々の進捗が共有できるとともに、生徒とのメッセージのやり取りができる。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>パソコン教室だけでなく、家庭環境で実習ができることで技術の向上や主体性を育むことができる。ペアプログラミングにより、プログラムの作業効率を高めるとともに、細かいバグの修正をすることができる。また、労務費の高いシステムエンジニアに時間をかけることなく、生徒の支援をしていただくことができる。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>地域企業のシステムエンジニアと単元の内容や授業スケジュールを共有し、見通しを持った授業展開をしている。</p> <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難度の高い内容に躓きがちな生徒が、ペアプログラミングによって、理解を深め主体的に取り組んでいる。 ・より高度な技術を求めている生徒が、専門家 (SE) との連携により質の高い学習に向かっている。 <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>パソコン教室だけでなく1人1台端末を利用することにより、家庭でも時間をかけて実習の続きを行うことができる。また、生徒同士やシステムエンジニアと生徒で内容や進捗を簡単に共有できる。</p> <p>(2) 課題</p> <p>ペアプログラミングでは、協働して行うことで、技術の高い生徒が中心で制作してしまうことが課題となる。役割分担とかかわり方のルール作りが必要。SEとの連携は、授業時間と時間が合わないことが多々あり、調整が難しい。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>「ネットワーク活用」の学習目標を達成するには、多くの実習の時間と専門性が必要だと感じている。そこで一人一台端末を利用しながら家庭に持ち帰って取り組む実習と、パソコン室で行う実習との精査。そして専門性の高いシステムエンジニアとの連携を深め、ネットワークを活用したビジネスの創造に挑戦できるところまで取り組みたいと考えている。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	宮城県	学校名	宮城県大河原産業高等学校
科目名 (学年・単位数)	商業デザイン実習Ⅰ（1学年・2単位）		
連携活動の相手先	企業や地方公共団体等		
1人1台端末 以外の使用機器等	iMac		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 デザインの概要について学ぶ ・7月～1月 仙南地域について学ぶ ・2月～3月 知的財産権について学ぶ <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月 独自教材をもとに、デザインとは何かを考え、商業デザインの基礎・基本を理解する。 ・7月～1月 仙南地域の歴史や文化、経済活動、農業、工業などの分野について、それぞれ外部講師から講演をいただき、レポートにまとめる。 ・2月～2月 様々なビジネス活動における知的財産権について、理解を深める。 			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>商業の見方・考え方について、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。体験的学習や外部講師の活用を通して、自ら課題を見つけ論理的・創造的に表現することを目指す。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>外部講師は、企業や地方公共団体、本校農業科教員など多岐にわたっており、実際に話を聞くことで仙南地域について深く学ぶことができる。講演時は各自iPadを使用しメモを取り、AirDrop機能でMacのPCにデータを移し、レポートを作成していく。iPadでレポートの原案を作成できるため、授業以外にも課題に取り組んでいる。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動、レポートの作成・発表</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>複数の講演を通して仙南地域についてより深く学ぶことができた。レポートの作成を何度も重ねることで、自分の考えを論理的に表現する力を身につけることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>生徒にとってiPadとスマートフォンの活用の区別がないため、制限が必要かまたどのような活用が効果的かを検討していく必要がある。</p>			
<p>4 今後に向けて</p> <p>昨年度開校した学校のため、連携活動の実践事例がほとんどない状態である。今後、地域の外部講師の活用や体験的な学習を通して、商業の見方・考え方を身につけさせるため、授業内容を検討しながら実施を進めていきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	千葉県	学校名	習志野市立習志野高等学校
科目名 (学年・単位数)	キャリアデザイン (学校設定科目) 3年2単位		
連携活動の相手先	大学・専門学校等		
1人1台端末 以外の使用機器等	生徒所有スマートフォン等		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>1学期 自己診断 職業適性等</p> <p>2学期 進路に関する情報収集等 自己の進路実現に向けて</p> <p>3学期 社会保障制度 保険や年金</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>自己の進路実現に向け、AI等を用いた適性判断結果と自らの希望のマッチングを検討する。狙いとして、入社または入学後のミスマッチによる意図しない進路変更等を防ぎ、自ら「生きる力」を高めるため。</p> <p>ICT活用について</p> <p>本校は市立高校で、現在BYOD端末としてのPCやタブレットの整備が完全に完了はしていない。(本年度完了見込み。)しかし、BYOD端末の定義では、スマートフォンも利用が可能である。普段から使い慣れている、スマートフォンは生徒にとってはゲーム機やSNS等の連絡ツールでしかない。それをあえて授業で積極的に情報収集に活用させることで、「ビジネスツール」としての役割に昇華させることができる。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>具体的な連携は、5月に近隣主要大学などへの実地訪問を行う(進路指導部と連携)。オープンキャンパスと異なり、学校単位で伺うため、より詳細な情報や入試に関する内容を聞くことができる。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>当日の集合や連絡、報告、メモ等もBYOD端末を利用し、すべてペーパーレスで実施した。</p> <p>(3) 評価</p> <p>自己分析等のデジタルレポートや、GoogleClassroomを活用した意見交換など、ICTを活用しようとする姿勢等々。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>自らの進路を受け身ではなく、主体的に調べることで、各自の目標とする自己実現に近づく一歩となった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>ICTを活用して、ビジネスパーソンとしての基礎スキルを定着させたいと考えていたが、端末の整備等が進んでおらず、今後の整備とさらなる活用の術が課題となった。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>課題として挙げている端末や環境の整備が急務である。また、目標は導入ではなく、いかに活用するかという点であり、教職員間でより研究を重ねる必要がある。また、ITではなくICTとして、C「コミュニケーション」を行うツールであることも重要視し、単なる調べ学習とならないよう、授業の構成を考えていく必要を感じている。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	東京都	学校名	東京都立葛飾商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	ビジネスアイデア (2学年・3単位)		
連携活動の相手先	民間企業等		
1人1台端末 以外の使用機器等	Surface		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月から6月 PowerAppsの使い方、グループワークを通して各自の役割を決定し、架空の店舗を作成 ・ 7月から3月 東京都教育委員会主催 モバイルアプリコンテスト2024応募 商業コンソーシアム東京の協力のもと、オンワードHD様にPowerAppsを活用し、テーマについての提案をいただく <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月から6月 PowerAppsの使い方、グループワークを通して各自の役割を決定し、企業リサーチ、発表、各グループが独自の店舗を作り、アプリを作成する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>各グループが独自の店舗を作成する際に、STP分析等のマーケティングツールを活用し、ターゲット等を明確にする。また、アプリのデザイン担当、プログラミング担当、全体総括の3人1グループで作業を行う。</p> </div> <p>PowerAppsを使用し、PowerPoint等を活用し発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月から3月 東京都教育委員会主催 モバイルアプリコンテスト2024応募 オンワードHD様から「新しいアパレルブランドの立ち上げ」というテーマのもと、PowerAppsを活用し、オリジナルブランドのアプリ開発 2月に各グループが考えたアイデアを企業の方に発表した <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>モバイルアプリ開発のため、各企業のHPやアプリ等を調べ、企業ブランドについて理解を深める。</p> <p>グループワークを通して、自らの意見を述べるだけでなく、他者の意見を否定せずに聞く傾聴力を養う。高校生に地域社会への貢献意識を醸成し、社会の一員としての責任感を高める機会を提供する。</p> <p>2学年全生徒にデジタルスキルの習得を図る。アプリ作成を通して、各自の役割を明確にし、責任感を養う。</p> <p>この活動を通じてマーケティング能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>生徒の端末を使用して、PowerAppsだけでなく、オンラインプレゼンテーションを行った。</p> <p>ニーズの明確化、協力関係の構築、計画と評価の徹底を連携活動により効果的に実施した。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループの活動状況、取組に対する姿勢、アプリの完成度、発表、ワークシートの完成度等</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>アパレル企業の取り組み、売れる仕組み、ターゲットの明確化、インサイト、デザインの必要性等、SNSでは読み取れない内容を知ることができた。また、インタラクティブな学習体験を通して、学習プラットフォームを用いることで個々の生徒のニーズに応じたサポートや指導を提供することができた。</p>			



(2) 課題

生徒のデジタルデバイスの利用能力や技術スキルにばらつきがある。一部の生徒が高度な技術を持っている一方で、他の生徒がそれに追いつけない場合がある。このような差異が生じると、学習効果の均一性に影響を及ぼす可能性がある。

4 今後に向けて

1人1台端末を活用し、オンラインインタビューや企業とのメールでやり取り等、教員が段取りを準備するのではなく、生徒が行えるような環境を整えていきたい。



また、令和6年度は地元企業や区役所からテーマをいただき、生徒が興味のあるテーマの企業等を選択し、課題解決する授業展開を行っていく予定である。その際に、メールの送り方や挨拶の仕方等のビジネスマナーも教え、学校外（地元企業や区役所）の方と交流を図ることで、地元葛飾区へ還元することもできると考える。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

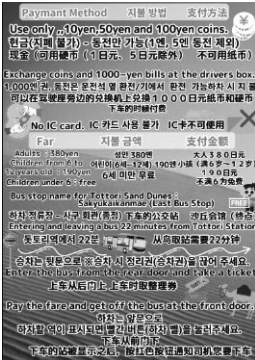
都道府県名	東京都	学校名	東京都立江東商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	ビジネスアイデア (2学年・3単位)		
連携活動の相手先	産業能率大学 大神教授		
1人1台端末 以外の使用機器等	プロジェクター、スクリーン、スマートフォン等		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネスにおける基礎知識学習(1学期) 2 調査・研究活動、産業能率大学との連携(2学期) 3 調査・研究活動、発表、産業能率大学との連携(3学期) <p>(2) 活動内容</p> <p>1学期は、ワークシートを活用し、ビジネスにおける基礎知識を学習する。また、日々の授業の記録・振り返りを行い知識の定着を図る。定期的にレポートを課し、そのテーマに沿って成果物を作成する。</p> <p>2学期は、テーマに沿ってグループワーク(調査・研究)を行う。その際、産業能率大学の大神教授と連携し、定期的にビジネスに関する講義を聴講する。大学から出た課題については、一人1台端末等を活用しその課題に取り組む。日々の授業の記録・振り返りやレポートについては1学期同様、継続して取り組む。</p> <p>3学期は、一人1台端末等を活用し、まとめ、発表活動を行う。その際、産業能率大学の教授、東京都商業コンソーシアム事務局にもご来校頂き、発表に対しての講評を頂く。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>外部機関からビジネスに関する講義を聴講する機会というのは、生徒にとって貴重な経験になると共に、高校の教員とは違った視点からのアドバイスを頂けるため、生徒の学習において相乗的な効果が得られるのではないかと考えている。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>大学側に生徒のグループワークの進捗度を伝えているため、そのタイミングにあった講義をして頂くことができる。また、定期的(月に1度程度)に講義して頂くことにより、次の講義までの間に振り返りを行うことができるため、生徒がより理解を深めた状態で次の講義を聴講することができる。毎回の講義はオンライン(TEAMS)で行って頂いているため、一人1台端末やICT機器を活用した授業を行うことができる。</p> <p>(3) 評価</p> <p>大学側から出た課題への取組状況や、講義の記録を評価する。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>オンラインでの講義は生徒達の印象に残りやすく、グループワークを行う上で非常に参考になっている。今回も得た知識をすぐに自分たちのグループワークで活用している場面が多く見られた。さらに、一人1台端末を活用することで、ICT機器の利用に関するスキルも高まることが成果となった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>オンライン講義を生徒の一人1台端末を用いて、一人ひとりの画面で見られるようにしたいが、学校Wi-Fiに多数接続すると、多くの不具合が生じてしまう。一人1台端末の機器トラブルの対応により、授業時間が圧迫される課題がある。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>すべてを一人1台端末で完結させることが大切なのではなく、単元の内容を必要な場面で効果的に活用させることが大切であると考え。連携活動において、一人1台端末をさらに効果的に活用できるようにするためにはどうすれば良いのか、今後さらなる教材研究が必要である。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立安曇川高等学校
科目名 (学年・単位数)	地域連携（情報） 3年：2単位		
連携活動の相手先	社会福祉協議会 自治会		
1人1台端末 以外の使用機器等	実習室端末		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>4月～7月 マイテーマ探し</p> <p>9月～10月 情報収集</p> <p>10月～12月 アクション</p> <p>1月 振り返り、発表</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>地域連携（情報）の授業で、情報に関する知識、技術を生かして地域に貢献できることを考えた。その中の一例が「シニアのためのスマホ教室」である。高齢者やスマホ操作の不慣れな方を対象に便利なアプリを楽しみながらスキルアップに繋がる講習会を開催した。</p>  <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>高齢者へのデジタルデバイド解消の機会。 地域の自治会のイベントとして世代間交流の促進。 地域のなかで教える側も教わる側も楽しみながらスマホ操作が習得できることを目的とした。</p>  <p>(2) 工夫</p> <p>イベントを企画するにあたり、関係先にメールで相談したり、リハーサル時には来校いただき、アドバイスをいただいた。 パワーポイントで説明する際、高齢者に分かりやすいようにスライドをデザインした。また、スマホ教室の中で個別の質問などに対応できるように複数人で参加した。</p> <p>(3) 評価</p> <p>ワークシート、情報収集内容、取組姿勢、グループ活動状況、発表、振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>参加いただいた方からは、「とても勉強になった」、「知っているようで、知らなかった」「内容が良かったのでまた開催してほしい」とご好評いただいた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>多くの方にデジタル化の恩恵を享受できるよう複数の会場でオンラインでの相談窓口を設定できるとよい。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>コースを分けて複数回実施していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スマートフォンの電源の入れ方やカメラの使い方などの初心者コース ②インターネットの使い方、アプリについてなどの基本コース ③LINEの使い方、電子申請などの応用コース 			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立鳥取商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	グローバルビジネス（3年：3単位 学校設定科目）		
連携活動の相手先	鳥取大学、鳥取県人口拡大本部観光交流局国際観光誘客課、 鳥取市企画推進部文化交流課、日ノ丸自動車株式会社		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education、Canva		
<h3>1 授業概要</h3> <p>(1) 年間計画</p> <p>4月～6月 地域産業の特徴及び事例研究</p> <p>7月～10月 鳥取県の観光資源と観光政策に関する調査研究</p> <p>11月～1月 ビジネスプランの作成</p> <p>通年 ビジネスに必要な英語表現の学習</p> <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～6月 地域資源を活かして世界的なビジネスにつなげた事例をもとに、鳥取県において世界的なビジネスにつなげられる取り組みについて研究し発表する。 7月～10月 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">メール等のツールを使い、生徒自身が県や市の国際交流員のアドバイスを受けながら『多言語のバス乗車案内』をデザインツール「Canva」を活用して作成し、プレゼン方式で発表する。また、インバウンドの増加を見据え、県や市の公共交通機関で取り組んだほうが良いことを考え、ポスター形式で作成し、発表する。</div> 11月～1月 鳥取で自慢できる点を挙げて、2026年開業予定のマリオットホテルでの滞在客に提案できるビジネスプランを立案し発表する。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <h3>2 連携活動のねらい・工夫・評価</h3> <p>(1) ねらい</p> <p>地域におけるグローバル化への対応に関する課題を発見し、事例研究やビジネスプランの立案・実践を通して、地域と世界を結ぶビジネスにおいて創造的に解決する力を身に付ける。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>メール送信に慣れていない生徒が多いことから、県や市などとやり取りをする前に、メールの作成や送信についての方法やマナーについての指導を行った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>レポートの作成、プレゼン発表、英語表現に関するペアワークの状況、学びのリフレクション状況</p> <h3>3 成果及び課題</h3> <p>(1) 成果</p> <p>韓国語と中国語は翻訳ソフトを活用してバスの乗車方法等を表現したが、ネイティブの方が言い回しを教えていただき、自分の翻訳文と比較することで、国による違いを感じることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>授業時間数が限られるため、バス会社へ完成した「多言語のバス乗車案内」を提供するのがかなり遅くなってしまった。納期を定め、逆算して取り組んでいる必要がある。</p> <h3>4 今後に向けて</h3> <p>1人1台端末は授業等で活用されているが、インターネット等で調べる程度でとどまっているケースが多い。プレゼンテーションツールやメール、meetなどのコミュニケーションツールを使い、企業や地域とさまざまな連携活動が行える環境を作っていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	高知県	学校名	高知県立伊野商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	起業家教育（2年選択：2単位）（学校設定科目）		
連携活動の相手先	BizWorld Japan（高知県起業家教育プログラム事業委託先）		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 4月～7月 投資について（知識と実践） 8月～12月 探究活動（情報収集と実践） 1月～3月 地域との連携活動（実践）</p> <p>(2) 活動内容 投資等について体系的に理解し、その技術を身につけるため外部講師による講義及び実習を行う。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) 授業でのねらい 株式投資に関する説明を受けた後、Googleのスプレッドシートを活用し、株式投資の現象を再現し、観察・分析を行うことで、投資についての概念や方法論等を体験的に理解する。</p> <p>(2) 工夫 説明だけではイメージできない部分も多くあり、周りの教職員に資産運用について質問をして、身近な人の投資方法を調べさせた。また、一人1台端末（タブレット）を活用し、企業情報や株価の動向などの必要な情報を各自が検索したり、株価をスプレッドシートに入力してシュミレーションし、そこから得られた情報をグループ内で共有できるよう工夫した。</p> <p>(3) 評価 個人・及びグループでの活動状況を観察するとともに、シュミレーションによる気づき等を発表してもらうことで、理解の深まりを評価する。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 投資に関する説明や実際に株式の情報を得ることで、資産運用について理解を深めるとともに、興味関心を高めることができ、次のステージで行われる株式の売買ゲームに繋げることができた。</p> <p>(2) 課題 社会・経済や企業に関する基本的な情報が不足しており、株式投資の意義や目的、株価の変動の社会全体への影響などについて、協議するところまで至らなかった。 起業家教育を通じ「利益の追求」について学んではいるが、周囲から影響を受け“投資＝ギャンブル”といった考え方もあることがわかり、資産運用の意義や重要性について、しっかりと教えていく必要があると感じた。</p> <p>4 今後に向けて 今後は社会の情勢や投資戦略の効果など、さらに投資について生徒の理解を深め、興味関心を高める授業を展開していく。 また、現在進めている起業家教育が、単なる利益を得るための行動を学ぶものではなく、ビジネスについて幅広く理解し、探究心や課題解決能力、チャレンジ精神を醸成することができるよう、連携している企業や同じ起業家教育を実践している学校と情報共有を図りながら、より良い方法を模索していきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立熊本商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	商品開発 (3年情報処理科・2単位) 電子商取引 (3年情報処理科・2単位)		
連携活動の相手先	市役所・コンベンション協会・大学・地域商店街振興会・地域活動団体		
1人1台端末 以外の使用機器等	スマートフォン・w i x・オープンストリートマップ・カメラ・ポケットw i f i ・ i p a d		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 9月1日イベントまで：展示・ステージ・バザー・広報の4部門に分かれ、それぞれがイベント企画を立てて商品開発・販売準備・広報活動等を実施。 イベント後：開発商品の商標登録手続き (12月)、スタンプラリーのアプリ化 (9月)。アプリコンテストへ応募 (11月)。地域100ヶ所めぐりWebサイト及びマップ制作 (10月)。年間活動報告会実施 (1月)。</p> <p>(2) 活動内容 熊本地震によって倒壊した「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」再建に伴う熊本市主催の記念式典、オープン記念イベントの実施協議会に地元高校メンバー (謎解きJ倶楽部) として参加し、高校生企画の取り組みを提案実行した。(主な活動) 商品開発 (パン・シチュー・缶バッジ・スタンプラリー・クリアファイル) 広報活動 (Webサイト作成運営・インスタグラム開設運営・街歩きマップづくり・新聞各社への記事掲載依頼・PR動画作成) 企業・大学と連携 (商品開発協力企業と管理栄養士養成大学ゼミ) 販売実習 (イベント・熊商デパート・活動報告会)、コンテスト作品出品 (ビジネスプランコンテスト・webアプリコンテスト) 年間活動報告会 (レポート・スライド作成・会場設営・リハーサル・外部来場者への案内)</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 地域財産を活用した商品開発に取り組む過程において、地域の企業、自治体と連携して協働する仕組み、大学や地域との連携をとおして共に学ぶ仕組み作りを行うことをねらいとした。</p> <p>(2) 工夫 企業や大学等との連携において、生徒全体が主体的な活動に参加できるよう、活動は、極力少人数編成の班で行うこととし、提示する課題については、班同士の協力がなければ達成できないものを設定した。</p> <p>(3) 評価 [協議会]：行政主体の運営とスケジュールに高校生の意見反映は難しかった。[大学]：高校生と大学生両方に効果が見られた。(自分たちの研究・学習の取り組みがイベントとして実現された) [企業]：高校生の意欲的な取り組みに高い評価をいただいた。[地域活動団体]：地域財産をデジタル化することにより高い評価と高校生と同じ授業をつくることへの謝辞をいただいた。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 生徒たちが自主的・主体的に活動する中で、地域の財産を知り、その活用方法を提案、実行できた。企業等と連携して取り組む中で協働することの大切さを体験的に学ぶことができた。この他、生徒それぞれが地域の方々、大学生、大学職員、企業の方々とのコミュニケーションを通して社会との関わり方を学ぶことができた。</p> <p>(2) 課題 継続して取り組むための体制づくり。担当職員を増やす。</p> <p>4 今後に向けて 継続して取り組みができる状態をつくり、担当職員を育成することで、学校全体の取り組みへと昇華させ、1年生から年次進行で発展的に学習する体制を確立し、商業高校の特色としたい。イベント体験を「知る」から「出る」へ、「出る」から「創る」へとレベルアップさせていくことで、連携活動をより高度な形に高めていきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立延岡商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	地域ビジネス (学校設定科目：2学年3単位)		
連携活動の相手先	えきまえ商店街活性化協議会、山下新天街商店街振興組合、まちづくり延岡、延岡市役所、エンクロス、延岡こども未来創造機構運営委員など		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 まちづくりのためのデザイン思考 4月～7月：デザイン思考の理解、ニーズ調査、アイデア出し・試作、プロトタイプテスト 9月～3月：実践、柔軟にPDCAサイクルを回し、改善を続ける</p> <p>(2) 活動内容 まちづくりの拠点となる施設を活用し、使い手であるまちづくりをされているプレイヤー、生徒による協働学習を行う。プレイヤーと協働し、活動を実践することで、まちなかで「活動する人を増やしていこう」という活動。まちなかで活動する人を増やす仕組みをつくるために、まちづくりのためのデザイン思考を学び、人間中心の発想で問題の発見・解決を行い、現状をより良い状態へとする。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい まちづくりのためのデザイン思考で問題解決と新たな価値創造に挑戦する。また、市民、プレイヤー、生徒が協働し、まちづくりへの参加を促進する。本校生徒とプレイヤーの相互理解と協働体制の強化をすることで、有用性、実現可能性、持続可能性の視点でまちづくりの課題解決と活性化、生徒の地域貢献意識と社会性の向上を目指す。</p> <p>(2) 工夫 Google Meetを活用してインタビュー時の動画を記録し、共有、振り返りを行う。Google FormsとGoogle Sheetsを活用してまちなかボランティア募集情報を効率的に共有し、参加を促進する。また、活動後の振り返りとして、ボランティア活動で得た経験や学びを企業と生徒と共有し、活動に活かす。Google Sitesを活用して、発表プレゼン動画を共有し、関係者からフィードバックを集めることにより発表内容のブラッシュアップを実現する。また、外部評価を取り入れることで、実際の仕事現場での評価基準に基づいて評価をお願いする。</p> <p>(3) 評価 知識・技術：習得状況を評価するための確認テストなど。 思考・判断・表現：活用状況を評価するためのレポート、パフォーマンス課題、外部評価など。 主体的に学習に取り組む態度：自ら学ぼうとしている意思を評価するために、振り返り、観察シートなど。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 活動内容や成果をGoogle Workspaceアプリにより広く共有することで、活動への参加者を増やすことができた。また、活動記録やアンケート結果などを共有することで、活動の反省点や改善点を共有し連携活動の活性化に繋がった。さらにプレゼンテーション動画や外部評価アンケートを活用することで、第三者からの評価を得られるため、生徒のモチベーションが向上した。評価が良い場合は自信に繋がり、評価が思わしくない場合は課題に気づき、改善に取り組むことができた。実際の仕事現場での評価基準に基づいて行われるため、実践的な学習をすることができた。</p> <p>(2) 課題 情報セキュリティ、著作権、継続的な運用などの課題が存在する。これらの課題を克服するためには、関係者との連携や研修、最新情報の収集などが挙げられる。</p> <p>4 今後に向けて 多様な評価指標の開発、評価方法の多様化、教員の評価スキル向上が必要である。これらの取り組みを通して、連携活動による協働的な学びの成果を可視化し、生徒一人ひとりの成長を適切に評価していきたい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	秋田県	学校名	秋田市立秋田商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合的な探究の時間 (代替：課題研究)		
連携活動の相手先	生徒同士のグループウェア		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education		

1 授業概要

(1) 年間計画

4～7月：商品の考案、企業との打ち合わせ、8～9月：販売準備、10月：販売実習、11～12月：決算・まとめ・報告会、1～2月：次年度に向けた学習

(2) 活動内容

本校では平成14年度から「ビジネス実践」という名称で、『AKISHOP』を実施している。毎年、2・3年生が企業と連携し、商品開発、販売実習、イベント企画・運営、活動報告を行っている。

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

『AKISHOP』では、2・3年生混合でイベント班、開発班、地域経済班などに分かれて活動している。班内でも活動が分かれることがあるため、Google Workspace for Educationを活用して、グループ内の情報共有や教員への課題等の提出の効率化、協働的な学びの促進を目指した。これにより、欠席生徒がいても活動の方向性やその日の活動内容を見失わずに活動でき、企業との打ち合わせでもスマホ等で書類を共有し確認できるようになることが期待できる。

(2) 工夫

Googleスプレッドシートを活用し、シートごとに以下のような書類を用意した。

- ・活動計画管理 (ガントチャート)：活動内容、締め切り、活動期間の目安を示し、今どの作業を進めるべきか分かるようにした。
- ・メンバーシート：班員の把握と出欠の管理をグループ内で行った。
- ・活動日誌：日々のグループごとの活動内容を継続的に記録した。
- ・企画書等：従来は紙ベースでの提出や共有フォルダへコピーしていたものを載せ、いつでも確認・修正できるようにした。
- ・企業との打合せメモ、仕入情報等：自由形式で保存させた。



(3) 評価

- ・共有スプレッドシートそのものに評価はない。
- ・ビジネス実践の評価：
観察、学習の振り返り (活動日誌等)、提出物 (企画書等)

3 成果及び課題

(1) 成果

- ・少しずつではあるが、グループごとに自立して活動することができた。
- ・中心となるメンバーが欠席しても、ある程度その日の活動を行うことができた。
- ・配布及び回収の手間の削減、紙の削減を図ることができた。
- ・リアルタイムに入力も確認できるため、その場での指導が可能であった。
- ・あとから必要書類が増えた場合や様式の変更があった場合でも、すぐに対応できた。

(2) 課題

- ・生徒がこのスプレッドシートの操作に慣れるまで時間がかかる。そのため、総合的な探究の時間以外でも、活用方法をレクチャーする必要がある。メインで操作していた生徒が欠席すると、操作に不慣れた生徒が操作することになり、入力が不十分な場合があった。
- ・他の班へコピーや次年度へ引き継ぐには不向きである。スプレッドシートの共有や権限の委譲をする必要があるため、従来のファイルのコピーよりもかなり手間がかかる。

4 今後に向けて

- ・さらに発展させ、そのまま企業と共有したり、googleサイトで発信したりといったところまで広げたいが、そのためには他の授業等において操作方法の習熟を図る必要がある。

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	山形県	学校名	山形県立米沢商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合的な学習の時間 (キャリア探究) 2年生: 1単位		
連携活動の相手先	企業、米沢市役所など		
1人1台端末 以外の使用機器等	各自のスマートフォン		

1 授業概要

(1) 年間計画

- 4月～9月 SDGsに関するテーマを設定し、研究調査
- 10月～1月 まとめと発表準備
- 2月 発表会と振り返り

(2) 活動内容

- 4月 グループ分け SDGsに関することを調べる (1人1台端末利用)
- 5月 グループメンバーの調べたことを発表し研究テーマを絞る (グループワーク)
- 6月～9月 研究テーマの調査研究 ここで協力企業や市役所等と各自アポイントを取り実際に現場に出向いて調査する。
- 10月～1月 発表に向けた準備 (調査もあり) 2月 連携先企業などを招待しての発表会

2 連携活動のねらい・工夫・評価

(1) ねらい

- ①グループ内のコミュニケーションと外部の方とのコミュニケーションをしっかりとる。
- ②必ず外部の方を巻き込んだ活動となるようにする。
- ③インプットとアウトプットの大切さを認識させる。

(2) 工夫

- ①必要経費については限度を設けて補助した。 ②可能な限り外部に出掛けさせた。

(3) 評価

令和5年度から始めた為に教員も手探りの状態で指導した。しかしながら案ずるよりも生むが易しで生徒は楽しく取り組んでくれた。机上の考えを実際に形あるものにする大切さを認識した。

3 成果及び課題 (実際の成功例から「私たちが未来を創る～空き家を作らせない取組み～」)

(1) 成果

空き家問題に注目し様々団体と連携をとった。生徒たちは建設業者や市役所などを訪問し、空き家についての知識を深めた結果として空き家になるのは、多くの人が他人事と考えて空き家になることを考えていない事や、後継者との話し合いがなされていない事に気が付いた。それをまとめたチラシを作り市内の公民館などに置いていただいた。大変に好評であった。

(2) 課題

一人一台端末による調べ学習の幅は広がり、生徒は様々な事に疑問を持つようになった。そして本気で調べるにはネットの世界だけではなく実際に足を運んで調べることが必要だと気づくただし授業時間内だけでは移動などが出来ずに放課後などを利用して調査している。外部に出向く時間などが課題。予算も。

4 今後に向けて

令和6年度も同じような形で学びを進める。今年度は各班に調査研究用の経費を与える。また、発表会には連携した企業や行政の皆さんをご招待して実施している。昨年度も実施したが殆どの連携先の方からお出でいただき、生徒も自信につながった。

空き家抑制
～空き家の責任はだれにある～

まず、空き家問題を考える前に皆さんに考えてほしいことがあります。それは、空き家の責任はだれにあるのか。一般的には空き家の所有者と答える人が多いでしょう。しかし、空き家の問題はさらに前、空き家になる以前の所有者の責任が大きいのです。

簡単に説明をしましょう。
・実家が空き家になる可能性を考えていない (想像していない)。
・空き家になる以前に家の後継者との話をしていない (遺品整理等)。
主にこの二つが原因である。

これらのことが出来ていないと、どのような事が起こってしまうのだろうか。


預された者たちが遺品整理すなわち思い出の片付けを本人の意思知らずにやらなければならないようになります。

そうするとなかなか片付けが終わらずに管理が手薄になってしまいます。

空き家は空き家になったから人が住まないのではなく人が住まなくなったから空き家になるということを忘れてはいけません。

公民館に置いたチラシ

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

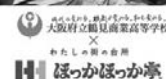
都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立千葉商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合的な探究の時間（2年：1単位）		
連携活動の相手先	財務省関東財務局千葉財務事務所		
1人1台端末 以外の使用機器等	特になし		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画 キャリア教育、消費者教育、道徳教育、地域文化、進路研究の学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、問題を解決する資質や能力を育成するとともに、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。</p> <p>(2) 活動内容 4月・・・進路研究 5、6月・・・キャリア教育 7月・・・消費者教育、地域文化学習 9、10月・・・地域文化学習 11月・・・道徳教育 12月・・・探究学習発表会の参加 1月・・・キャリア教育 2、3月・・・進路学習</p>			
			
<p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい 日本の財政に興味を持ち、社会問題を自分事として捉えられるようにする。また、夏季休業中の課題「金融と経済を考える高校生小論文コンクール」に応募するための事前学習としても役立つ。</p> <p>(2) 工夫 本校では、1年生で千葉県税理士会に協力していただき、税についての学習を実施している。2年生では、その学びの発展として、生徒1人1台端末を使用し日本村の予算案を編成する。課題解決のための手段などグループワークを通して主体的・対話的で深い学びをする。また、財政教育を実施することで段階的な指導を行っている。</p> <p>(3) 評価 グループ活動状況、レポートの作成・発表、振り返りシート</p>			
<p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果 財政教育を通じて、社会の仕組みや経済財政へより深い関心を持つきっかけになった。また、予算編成のシミュレーションを通じて、受益と負担の両面性（トレード・オフ）を理解し、多面的な見方が重要であることに気付いた。</p> <p>(2) 課題 ネットワークの通信環境がBYOD端末を全員が使用して作業するには非常に不安定である。</p>			
<p>4 今後に向けて 生徒たちにとっては、とても貴重な経験になった。今後も本取組みを継続して実施したい。</p>			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	新潟県	学校名	新潟県立十日町総合高等学校
科目名 (学年・単位数)	3年次 総合的な探究の時間、マーケティング		
連携活動の相手先	十日町市役所、NPO法人市民活動ネットワークひとサポ、十日町市内企業5社		
1人1台端末 以外の使用機器等	電子黒板 (BigPad)、Google Workspace for Education		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～7月 ふるさと納税返礼品開発ワークショップ①～③ ・7月～8月 ふるさと納税返礼品関係企業との協議①～② ・9月～11月 ふるさと納税返礼品広告宣伝ワークショップ①～②、企画プレゼン、インスタ作成 ・12月～1月 振り返りアンケート、返礼品販売状況の報告等 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～7月 ふるさと納税返礼品開発ワークショップ①～③ ・7月～8月 ふるさと納税返礼品関係企業との協議①～② 十日町市内企業5社 (株)きものブレイン、(株)雪の魚沼、(有)フォームランド木落、(株)ムラオ、ボブファーム 企業と連携し、高校生として地域貢献を目的として返礼品の開発に取り組む。 ・9月～11月 ふるさと納税返礼品広告宣伝ワークショップ①～②、企画プレゼン、インスタ作成 連携している企業に対し、当該グループが広告宣伝やSNS活用について企画プレゼン。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十日町市内の企業と連携し、十日町市のふるさと納税返礼品開発をすることにより、地元企業についての理解を深めるとともに、ふるさと納税の仕組みを知り、十日町市の財政に貢献する。 <p>(2) 工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで生徒が自主的に企業と連絡を取り合う主体性を重んじた取組、開発した商品をどのようにPRし、販売機会を得るか様々な方法を模索する、Zoom活用によるオンライン会議、Googleフォーム活用による企業からの評価 等 <p>(3) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動状況、取組姿勢、レポートの作成、「商業クラブ」での発表、学習状況の振り返り、ルーブリック評価の活用 <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容、ターゲット、キャッチコピー等、自分が将来モノを販売したいと考えた時に使える知識や考え方等を知ることができた。 ・普段考えることのない開発者側、販売者側の気持ちになってモノゴトを考えることができた。 ・身近な地域に自分たちのやりたいことを本気で応援してくれる大人がいることを実践を通して知ることができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論を進める上で、自分の意見をしっかりと相手に伝えることの難しさを体感した。 ・商品開発において購入者目線でモノゴトを考える難しさを体感した。 これらのことを踏まえ卒業後、様々な分野で活躍できる人材になるべく研鑽を積む必要がある。 <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台タブレット端末を活用し、Google Workspace for Educationの諸機能を駆使し次に繋がる以下の活動を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・商品の強み、弱み、特徴等を改めて分析する。ターゲットを意識し伝える言葉を検討する。 ・WEB広告媒体の種類等を学び、その商品に合った効果的な広告媒体を選定する。 ・選定した広告媒体を活用し、実際に商品を発信する。お客様の反応を見ながら継続して行く。 ・販売実績と照合しながら、効果があった取組、無かった取組とその理由等について検証を行う。 			

1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	大阪府	学校名	大阪府立鶴見商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合的な探究の時間、特別時間割り		
連携活動の相手先	株式会社ほっかほっか亭総本部 商品部・販売促進部 辻調理師専門学校		
1人1台端末 以外の使用機器等	Google Workspace for Education (Meet, Forms, スプレッドシート, スライド)、BYOD		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <p>6月～9月 商品開発に関連する学習、商品企画の考案、商品の試作・原価計算</p> <p>10月 商品企画の提案（クラス内発表）</p> <p>11月 商品企画の提案（企業への提案）</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>概要</p> <p>「高校生に売れるお弁当を開発せよ！×ほっかほっか亭」</p> <p>令和の高校生はどんなことを大事にしている、どんなことに興味があるのか？そんな大人にはなかなか理解できない“高校生”というターゲットを高校生自身が徹底解剖！特定のニーズに合わせたお弁当またその販促動画を各グループから提案しました。</p> <p>6月～9月 商品開発に関連する学習、商品企画の考案、商品の試作・原価計算 各グループで商品企画の考案を行い、商品企画書を作成（A4・1枚） 商品企画書へのコメント及び添削を連携企業からいただくとともに、 試作会で得られた原価データ等をもとにして、企画のブラッシュアップ → 商品企画書、スライド、販促動画の3点を企画提案資料として作成</p> <p>10月 商品企画の提案（クラス内発表） 企画提案資料を提示しながら全25グループがプレゼンを実施した。</p> <p>11月 商品企画の提案（企業への提案） 連携企業の方に審査及び講評をお願いし、本校体育館にて発表会を実施 企画提案資料を提示しながら全3グループがプレゼンを実施した。</p> <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なシーンにおいて、自ら課題を発見・設定し、解決のためのアイデアを考えそれを実現に移し価値創造できる人材の育成へとつなげる。 将来の社会生活や職業生活において、他者と協力・協働することができるようコミュニケーションスキルの向上へとつなげる。 答えのない問いに対して粘り強く向き合う姿勢を身につけ、予測不能な未来を生きる力の向上へとつなげる。 <p>(2) 工夫</p> <p>連携先からの講義はGoogle Meetを活用し、オンライン実施とした。 試作会後の原価計算ではGoogleスプレッドシートを活用し効率化を図った。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、商品企画の内容・発表・取組姿勢、学習状況の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>振り返りアンケートの結果、協働することの大切さに気づいたかという問いに対しては83.3%の生徒が、課題解決に対する意識が高まったかという旨の問いに対しては73.3%の生徒がそれぞれ肯定的な回答をしている。</p> <p>(2) 課題</p> <p>2年生全生徒を対象とした授業内での特別プログラムであるため、企画提案後の商品化に向けた活動に、なかなか進展しづらい。また、企業との連携授業はスケジュールの都合上、折り合いがつかないことが多々あった。オンラインでの実施など、非対面でも可能な方法についても考える必要がある。</p> <p>4 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科「商業科」としての特色化を図るべく、教科横断的なプログラムとする。 振り返り活動を充実させ、自己の実現や進路の実現に寄与できるプログラムとする。 			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	沖縄県	学校名	沖縄県立具志川商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	総合的な探究の時間（1～3年：各1単位）		
連携活動の相手先	地元企業、地方公共団体		
1人1台端末 以外の使用機器等	Microsoft 365、Air REGI、mPOP ほかに		
<p>1 授業概要</p> <p>(1) 年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～10月 7課（14係・15店舗）に配置され、具商デパート実施に向けた事前学習 11月中旬 具商デパート実施（2日間） 12月～2月 各係での振り返り、各店舗での決算・諸帳簿作成、株主総会実施 <p>(2) 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～10月 7課（14係・15店舗）に配置され、具商デパート実施に向けた事前学習 各店舗では連携したい企業を研究後、仕入先として取引の内容や価格等を交渉。見積依頼書や注文書等証憑を作成。提携企業を招いての商品説明会実施やPOP広告作成など。レジ係は端末を利用してAir REGIによる商品登録や会計処理などを事前学習する。 各課（総務・用度・会場・経理・宣伝広報・サービス）では、当日の運営に向けて事前準備に取り組む。総務では舞台の部の計画と運営、マスコミ対応、福引きなどを計画している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一人一台端末を活用して企業研究、POP広告やポスター・チラシの作成、活動日誌の作成や議事録作成、Formsを利用した出欠確認や振り返りシートの作成を行っている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 11月中旬 具商デパート実施（2日間） 金曜日・土曜日の2日間開催で、過去10年間の平均来客数は約5,600人、平均売上高は5,300,000円前後。コロナ禍ではインターネット開催を実施。令和6年度で31回目の開催となる。 12月～2月 各係での振り返り、各店舗での決算・諸帳簿作成、株主総会実施 各係は反省や課題、改善方法を全体発表会で振り返るための資料を作成。各店舗でも同様に振り返り資料作成および損益計算書を作成。生徒執行役員が株主総会資料作成と総会運営を行う。 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <p>地元企業と連携を図ることで、地域の課題発見や解決に必要な知識及び技能の習得を図るとともに、自分及びチームで課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現できるビジネスに必要な資質・能力を育成することをねらいとしている。</p> <p>(2) 工夫</p> <p>商業科目で学習した内容を多く取り入れるとともに、オリジナル商品を企画・作成・販売するため、企業や役所の方々を招いて企画会議での指導助言、企業現場実習などを実施している。</p> <p>(3) 評価</p> <p>グループ活動状況、取り組み姿勢、レポートの作成や発表、振り返りシート作成など。</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>実際のビジネスに近い実践活動を行うことで、教科書で学んだ内容を深く理解できるとともに、進路意識の向上に繋がっている。</p> <p>(2) 課題</p> <p>マンネリ化しないための工夫、電子決済への対応など今後も継続して課題解決に取り組んでいく。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末をより有効活用するため、便利なコミュニケーションツールを積極的に活用して学習効果を高めていきたい。また協力して頂いている企業とより連携を深めるとともに、新たな企業開拓も進めていきたい。</p>			



1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立和歌山商業高等学校
科目名 (学年・単位数)	令和6年度第18回商業教育フェスタ2024		
連携活動の相手先	商業教育フェスタ実行委員会（商業科を設置している県内の高等学校）、商業教育フェスタ生徒実行委員会（商業科を設置している県内の高等学校に在籍する生徒）、和歌山大学、企業、地方公共団体等		
1人1台端末 以外の使用機器等	Zoom、Google Forms、Teams		
<p>1 授業概要</p> <p>(1)年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年 6月 6日（木）第1回商業教育フェスタ実行委員会 ・令和6年 7月 4日（木）第2回商業教育フェスタ実行委員会・第1回生徒実行委員会 ・令和6年 9月 6日（金）第3回商業教育フェスタ実行委員会・第2回生徒実行委員会 ・令和6年10月26日（土）第18回商業教育フェスタ開催 ・令和6年11月 5日（火）第4回商業教育フェスタ実行委員会・第3回生徒実行委員会 <p>(2)活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒実行委員会主催イベント・役割分担・広報等について協議、各校のプレゼンテーション ・フェスタ当日の運営 ・振り返り、総括 <p>2 連携活動のねらい・工夫・評価</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の商業を学ぶ高校生が企業や関係機関と連携・協働し、学習の成果を広く地域に発表することを通して、商業教育の充実と地域経済の担い手の育成を図る。 ・生徒たちが協力してフェスタを盛り上げ、地域の活性化を図る。 <p>(2) 工夫</p> <p>本県は南北に長く、連携活動の際には移動時間が課題となっていた。1人1台端末のZoomのWeb会議機能を活用して学校間及び企業等との会議を行ったり、ブレイクアウトルーム機能を活用してグループワークを行ったり等、効果的・効率的に連携や交流を図る。</p> <p>Google Formsを活用して市場調査や事後アンケート調査等を行う。</p> <p>(3) 評価</p> <p>活動状況、レポートの作成・発表、活動の振り返り</p> <p>3 成果及び課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>学校の枠を超えた交流は学習に対するモチベーションの向上と自己有用感の高揚につながっている。また、商業教育への理解が深まり、地域との連携・協働の幅が広がっている。</p> <p>(2) 課題</p> <p>フェスタの開催場所については和歌山市にとどまっている。人口減少や少子高齢化、地域コミュニティ希薄化等、本県が抱える課題の解決に向けて工夫と改善が必要である。</p> <p>4 今後に向けて</p> <p>1人1台端末の活用により、地域連携・協働の幅が広がり、高い学習効果が得られる。本事業を通じて得られたつながりを活用して、商業の学びを活かした地域貢献や地域交流を図り、生徒の社会的・職業的自立の支援と地域の活性化に取り組んでいきたい。</p>			

おわりに

平成 30 年に告示された新しい学習指導要領は、令和 4 年度から学年進行で実施され、本年度で 3 年目を迎え、全日制では、すべての生徒が新しい学習指導要領を学ぶ完成年度となります。1 人 1 台端末については、GIGA スクール構想として令和元年 12 月に文部科学大臣が「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて」と題したメッセージを発出し、その後のコロナの影響もあり、環境整備が急速に進み、ICT 教育も進展しました。

商業教育対策委員会では、令和 6 年度春季研究協議会の本部提案において、学習指導における 1 人 1 台端末の活用状況について調査・分析を行いました。秋季研究協議会では、1 人 1 台端末を活用した多様な連携活動の実践事例を集め、各校の具体的な取り組みを共有することで、各校での取り組みをさらに深めることを目指しています。事例の収集にあたり、関係の先生方から多大なる御尽力をいただいたことに感謝申し上げます。

学習指導要領では、内容の取扱いに当たっての配慮事項において、コンピュータの活用について学習の効果を高めるよう工夫することとしています。各科目の内容を取り扱う際に情報モラルを身に付け、調査や研究などにおいて、コンピュータなどの積極的な活用を図り、情報の収集・分析、地域との情報の交換を行うことにより、学習効果を高めるよう工夫することが大切になります。一方の連携活動では、学習指導要領は指導計画の作成に当たっての配慮事項において、地域や産業界等との連携・交流について、実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めることとしています。

ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する視点から、マーケティング計画やビジネスアイデアの立案などにおける地域や産業界等と連携した実践的な学習活動や、商業科目で学んだ内容と密接に結び付いた連携事業を通して、ビジネスに関する最新の知識、技術などを身に付けることができるよう工夫することが大切です。

学習指導要領を着実に実施するためには、学習効果を高める端末の利用、ビジネスに関する最新の知識と技術を身に付けることなどを目的とした連携事業を積極的に取り入れることが必要であり、今回のテーマに沿った研究協議が、実学と言われる商業教育を推進するための一助になることを願っています。

結びに今後も商業教育を取り巻く様々な課題について、全国で情報を共有し、商業教育に携わるすべての先生が解決策を考えることで、商業教育の充実に資することを祈念して巻末の挨拶とします。

本部提案テーマ年度別一覧

昭和60年 5月	理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について
昭和60年10月	理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況
昭和61年 5月	企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について —アンケート調査に基づいて—
昭和61年10月	就職状況の変化に対応する進路指導対策について —アンケート調査に基づいて—
昭和62年 5月	商業科に関する新しい小学科の設置状況について
昭和62年10月	生徒の急減期における商業高校としての対応
昭和63年 5月	教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望 —アンケート調査に基づいて—
昭和63年10月	将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて—
平成元年 5月	時代の変化に対応する商業教育の展望 —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成元年10月	高等学校学習指導要領の実施にむけて —教科「商業」にかかわる一問一答集—
平成2年 5月	問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開 —課題研究」の研究と実践の推進—
平成2年10月	高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方 —新学習指導要領の取り扱いと学校における対応—
平成3年 5月	21世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて—
平成3年10月	21世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて—
平成4年 5月	生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して—
平成4年10月	新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成
平成5年 5月	商業教育に関する「聴取り調査」報告
平成5年10月	商業に関する学科の特色化・個性化について —教育課程を中心として—
平成6年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—大学進学—
平成6年10月	進路の多様化に対応する商業教育 —専攻科及び高等専門学校の構想—
平成7年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—就職指導—
平成7年10月	高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題—
平成8年 5月	社会の進展と商業教育の充実 —これから求められる専門教育の育成—
平成8年10月	社会の進展と商業教育の充実 —商業教育における基礎・基本の内容をさぐる—
平成9年 5月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —「生きる力」の育成に対応するための商業教育—
平成9年10月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —社会の変化に対応した商業教育—
平成10年 5月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —新しい情報処理教育の在り方について—
平成10年10月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —地域や産業界との連携と開かれた商業教育について—
平成11年 5月	社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方 —新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題—
平成11年10月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—
平成12年 5月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—

平成12年10月	就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方
平成13年 5月	21世紀における商業教育—大学から見た商業教育—
平成13年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校からの大学進学—
平成14年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校が育成する商業高校生像—
平成14年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における学校改革—
平成15年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における起業家育成教育—
平成15年10月	21世紀における商業教育の在り方 —学校・企業・地域等との連携を考える—
平成16年 5月	全商本部提案要約集—平成元年～平成15年度—
平成16年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)—
平成17年 5月	21世紀における商業教育の在り方—生徒の職業観・勤労観を考える—
平成17年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ—
平成18年 5月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成18年10月	学習指導要領改訂への提言
平成19年 5月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について
平成19年10月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について ※ 冊子なし
平成20年 5月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成20年10月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成21年 5月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—
平成21年10月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成22年 5月	新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題
平成22年10月	新高等学校学習指導要領と今後の商業教育
平成23年 5月	キャリア教育の現状と課題について
平成23年10月	キャリア教育・商業教育の在り方について —生徒のよりよい進路実現を目指して—
平成24年 5月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅠ —魅力ある商業教育の発展を目指して—
平成24年10月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅡ —魅力ある商業教育の発展を目指して— ※ 冊子なし
平成25年 5月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅠ —商業教育の質の向上を目指して—
平成25年10月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅡ —商業教育の質の向上を目指して—
平成26年 5月	全商本部提案要約集—平成16年度～平成25年度—
平成26年10月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅠ—
平成27年 5月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅡ—
平成27年10月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成28年 5月	学習指導要領改訂への提言
平成28年10月	地域創生に資する商業教育の在り方について
平成29年 5月	地域創生に資する商業教育の在り方についてⅡ —次世代の商業教育に向けて—
平成29年10月	グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について—次世代の商業教育に向けて—
平成30年 5月	グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ—次世代の商業教育に向けて—
平成30年10月	商業高校の現状とこれからの商業教育を担う人材育成
令和 元年 5月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて—教科商業科に関する一問一答集—
令和 元年10月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて—新学習指導要領実施に向けた先進事例集—
令和 2年 5月	新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題

令和 2年10月	—魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて— 魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程編成例—
令和 3年 5月	※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う研究協議会中止のため本部提案なし 新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題 —Society5.0時代の新しい商業教育の実現のために—
令和 3年10月	社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて —Society5.0時代の新しい商業教育の実践例—
令和 4年 5月	I C Tを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の諸課題 —全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて—
令和 4年10月	魅力ある商業教育の実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指して —個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究的な学習の実践例—
令和 5年 5月	学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の在り方 —探究活動及び観点別学習状況の評価の推進を通して—
令和 5年10月	学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別学習状況の評価の実施について —「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する事例—
令和 6年 5月	G I G Aスクール構想を踏まえた魅力ある商業教育の実現に向けて —教育活動の一層の充実と主体性や興味・関心を引き出す商業教育について—

商業教育対策委員会

令和6年度

1. 委員長	根岸 卓	県・伊勢崎商
2. 副委員長	鈴木 栄次	県・千葉商
3. 委員	田辺 宏行	県・神栖
4. "	渡邊 聡	県・土浦第三
5. "	柳田 昌臣	県・宇都宮商
6. "	宇佐美 敬	県・栃木商
7. "	新井 秀明	県・深谷商
8. "	中山 望	県・浦和商
9. "	竹越 利之	県・熊谷商
10. "	川窪 慶彦	県・狭山経済
11. "	森 豊巳	県・一宮商
12. "	田中 雅明	市・甲府商
13. "	山田 和人	都・第三商
14. "	岩崎 豊	都・葛飾商
15. "	智片 将也	都・江東商
16. "	田中 圭	県・松山商

新しい時代を見据えた魅力ある商業教育の推進を目指して

— 1人1台端末を活用した多様な連携活動の実践事例 —

発行 令和6年9月25日
発行編集 全国商業高等学校長協会
商業教育対策委員会
〒160-0015
東京都新宿区大京町26番地
TEL 03-3357-7911
FAX 03-3341-1039

